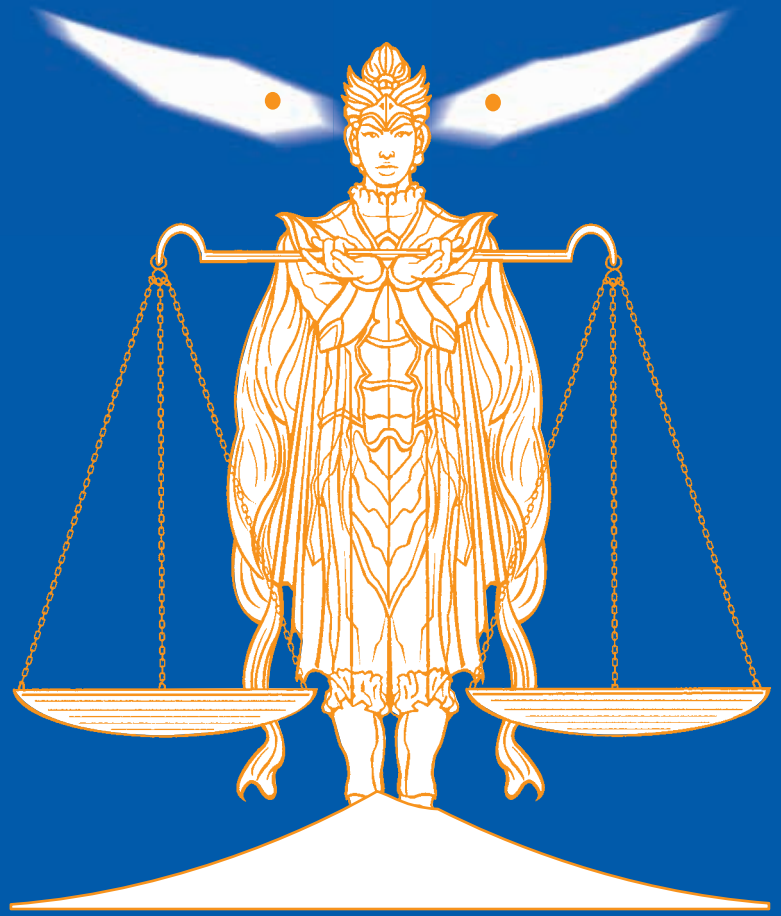
第67回

67th IWATE ART FESTIVAL

岩手芸術祭

2014



ごあいさつ

第六十七回岩手芸術祭実行委員会
会長　**柴田　和子**

県民の芸術文化活動の祭典として定着しております岩手芸術祭も、多くの皆様に親しまれながらこれまで回を重ね、第六十七回を数えるに至りました。

岩手芸術祭は、戦後の混乱期に芸術文化活動の振興により人々の心に潤いを与えようと昭和二十二年に始まって以来、先人たちの努力により途絶えること無く毎年開催されてまいりました。さまざまな時代を経て今日まで長い歴史を刻んできたことを思いますと、誠に感慨深いものがございます。

さて、平成二十三年三月に発生した東日本大震災から四年の月日が流れました。私たちは震災からの心の復興を果たすべく、改めて芸術祭創設時の思いとその役割の重要性を再認識し、今後もこの芸術祭の灯火を絶やすことなく、次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

ここに第六十七回岩手芸術祭の記録集をまとめ、刊行いたします。本誌を芸術文化活動の参考資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

終わりに、岩手芸術祭の開催に当たりまして、御支援、御協力いただきました岩手県教育委員会をはじめとする各主催者団体並びに各市町村、関係団体、関係各位に感謝を申し上げまして、ごあいさつといたします。

♣第67回岩手芸術祭記録集　目次

ごあいさつ　第67回岩手芸術祭実行委員会会長　柴　田　和　子

第67回岩手芸術祭の概要……5
開幕式典・フェスティバル……7
美術展……9
日本画　洋画　版画　彫刻　工芸　書道　写真　デザイン　現代美術
水墨画
三賞受賞作品……23
巡回美術展……32
小・中学校美術展……33
芸術祭受賞作品……42
巡回小・中学校美術展……44
演　劇……45
映　像……50
伝統芸能……52
能楽　邦楽　茶道　華道　吟詠剣詩舞道
音　楽……71
合唱　声楽　弦楽　三曲　吹奏楽　ピアノ　ギター
舞　踊……89
洋舞　日舞
演　芸……93
民謡　新舞踊
県民文芸作品集……99
文芸祭……101
小説大会　戯曲大会　文芸評論大会　随筆大会　児童文学大会　詩の大会
短歌大会　俳句大会　川柳大会
アートフェスタいわて2014―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展
＋岩手県美術選奨受賞者作品展―……112
テーマ募集……113
実行委員会名簿……114
収支予算書……116
事務局日誌抄……117
付　録
開催要綱……154
実行委員会会則……153
岩手芸術祭運営組織……150
美術部門実行委員会運営規程……149
実行委員会感謝状贈呈に関する規程・選考基準……149
協賛事業の名義の使用承認事務手続要領……147
美術展公募要項……143
県民文芸作品集第四十五集公募要項……135
文芸祭開催要項……132

岩手県映像コンクール作品募集要項……128
声楽部門演奏会出演者公募要項……126
ピアノコンクール&演奏会出演者公募要項……126
小・中学校美術展作品募集要項……123
ポスターデザイン……119
編集後記……155
第67回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧
第67回岩手芸術祭開催状況一覧

表紙デザイン　村野　充弘

第67回岩手芸術祭の概要

第六十七回岩手芸術祭は、平成二十六年十月四日土曜日、開幕式典・フェスティバルを岩手県民会館大ホールにて開催、その幕を開けた。

今年度も岩手芸術祭では、県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を提供するために「輝く文化　広がる未来　絆深まる岩手の大地」のテーマのもと、盛岡市をはじめ県内各地で美術展、小・中学校美術展、演劇、伝統芸能、音楽、舞踊などの舞台公演等、さらには県民文芸作品集の刊行や文芸祭など多彩な事業を例年通り実施した。

作品等の公募についても、例年通り行われたが、応募総数は年々減少の一途をたどっており悩ましい。趣味の多様化など、減少の要因はいろいろあろうが、打開策が未だ見出せないのがもどかしい。

実行委員会事務局としては、今まで培ってきた伝統を踏まえながら、これからも多くの県民の皆様に芸術祭を楽しんでいただけるよう、時代に見合った事業運営を目指し、創意工夫をしていきたい。

改めて各部門関係者の努力と熱意に敬意を表する。

第67回岩手芸術祭　実施状況の概要

部門等	実施内容等
実行委員会	開幕式典／表彰式／テーマ募集／記録集作成／実行委員会（3回）
（開幕フェスティバル）	平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業「イーハトーヴ音楽会～未来に向かって～」（鑑賞者800名）
美術展	公募展　日本画／洋画／版画／彫刻／工芸／書道／写真／デザイン／現代美術／水墨画（応募972点、鑑賞者4,326名）
巡回美術展	美術展上位入賞者作品80点及び映像コンクール入賞作品4点を県内7会場で巡回展示・上映（鑑賞者2,153名）
小・中学校美術展	児童・生徒の書写・美術作品の公募展　小学校絵画・書写／中学校美術・書写（応募7,685点、鑑賞者2,240名）
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展全入賞作品及び入選作品の一部、合わせて311点を県内5会場で巡回展示（鑑賞者1,325名）
演劇	5会場で5団体が公演（鑑賞者1,121名）
映像	映像フェスティバル（映像コンクール入賞作品の上映発表等）（応募14点、参加者数14名、鑑賞者60名）
伝統芸能	茶会／吟詠剣詩舞道／謡と仕舞の会／華道展／邦楽のつどい（鑑賞者4,291名）
音楽	ソロと室内楽の調べ／ピアノコンクール＆演奏会／三曲演奏会／声楽部門演奏会／ギター音楽の夕べ／吹奏楽演奏会／合唱祭（鑑賞者3,393名）
舞踊	洋舞発表会／日本舞踊発表会（鑑賞者1,360名）
演芸	新舞踊発表会／岩手民謡まつり（鑑賞者1,656名）
移動公演	新舞踊〔奥州市〕／合唱〔一戸町〕（鑑賞者380名）
県民文芸作品集	公募による作品集の刊行　小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳　（応募478点）
文芸祭	小説大会／戯曲大会／文芸評論大会／随筆大会／児童文学大会／詩の大会／短歌大会／俳句大会／川柳大会（参加者399名）

公募事業応募点（者）数一覧（第67回／第66回）

	種目	応募点数		種目	応募点数		種目	応募点数
美術展	日本画	46/41	県民文芸作品集	小説	20/16	小・中学校美術展	小・絵画	3889/3710
	洋画	211/200		戯曲・シナリオ	3/2		小・書写	2697/2883
	版画	39/45		文芸評論	5/4		中・美術	289/331
	彫刻	15/16		随筆	53/38		中・書写	810/405
	工芸	58/67		児童文学	11/12			
	書道	206/198		詩	70/76			
	写真	142/143		短歌	80/98		合計	7685/7329
	デザイン	87/102		俳句	171/175			
	現代美術	35/30		川柳	65/63			
	水墨画	133/132				映像		14/19
	合計	972/974		合計	478/484	ピアノ		3/8
						声楽		4/1

開幕式典・フェスティバル

平成二十六年十月四日土曜日、岩手県民会館大ホールにおいて、第六十七回岩手芸術祭の開幕式典及びフェスティバルを開催した。

開幕式典では、柴田和子実行委員会会長の開幕宣言の後、長年岩手芸術祭の発展に貢献された十名の方々に対して感謝状と記念品を贈呈し感謝の意を表した。さらに、今年度の芸術祭テーマとして選定された「輝く文化　広がる未来　絆深まる岩手の大地」の作者である中花愛莉さんの表彰を行った。

式典に引き続き開幕を盛り上げるフェスティバルとして、平成二十六年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業「イーハトーヴ音楽会～未来に向かって」が開催された。構成・演出は坂田裕一氏（岩手県演劇協会）、音楽監督は太田代政男氏（岩手県合唱連盟）、舞台監督は近藤英一氏、民俗芸能コーディネーターは藤沢清美氏（岩手県民謡協会）、出演は岩手県芸術文化協会加盟団体を中心に、県内各地の学校のクラブ、合唱団及び個人の協力を得た。

舞台は、第一部・プロローグ「イーハトーヴの国から」、第二部・いわて民族の芸能「イーハトーヴの芸術家たち」、第三部・未来へ「イーハトーヴの子どもたちと宮沢賢治」、第四部・エピローグ「再び、イーハトーヴへ」という構成で、大森健一氏及び中山恭誉氏（共に岩手県演劇協会）の司会で進行した。

第一部は岩手県弦楽研究会の演奏で幕を開け、第二部では、ジャズピアノと鹿踊りなど多彩な岩手の芸術家たちによるコラボレーションが披露された。第三部は子ども達を中心にした宮沢賢治の音楽の世界を合唱などで表現した。第四部・エピローグ「再び、イーハトーヴへ」では県立久慈高等学校マンドリン部の演奏で「あまちゃんのテーマ」、マンドリンの演奏で小田代直子氏が「潮騒のメモリー」、「明日への虹」を歌うなど、震災から復興への岩手の三年間を振り返った。

フィナーレは出演者全員による「ひょっこりひょうたん島」、「ふるさとは今もかわらず」の大合唱で幕を閉じた。

鑑賞者は八百名であった。

○功労者表彰（十名）

美術部門／熊谷行子（洋画）・高橋観岳（書道）・井手清和（写真）

舞台等部門／長澤宗寿（茶道）・西郷時峰（華道）・星　慶哉（合唱）・若柳千景（日舞）・

山崎勝代（民謡）
文芸部門／藤田貞雄（俳句）・松橋義彦（川柳）

○開幕フェスティバル出演・協力団体
岩手三曲協会、岩手県弦楽研究会、岩手声楽研究会、岩手県合唱連盟、岩手邦楽協会、岩手県ギター協会、岩手県新舞踊協会、岩手県演劇協会、岩手洋舞協会、岩手ピアノ音楽協会、岩手県民謡協会、岩手大学合唱団、岩手県立花巻農業高等学校鹿踊部、岩手県立久慈高等学校マンドリン部、都南混声合唱団、混声合唱団北声会、盛岡市立山岸小学校音楽クラブ、キャラホール少年少女合唱団、あまくらぶ、三浦祥子、長谷川恭一、鈴木牧子、小田代直子、大森健一、山田靖了、滝沢三郎、岩手県写真連盟、ＩＢＣ岩手放送

◀表彰

美術展

県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を広く県民に提供し、芸術文化の創造と発展に寄与することを目的として開催しているものである。

美術部門実行委員会の運営

五月九日　第一回実行委員会
（部門役員の選出、開催計画、公募要項等について協議）
六月五日　事務局員会議
（展示日程、印刷物の配布計画等について協議）
八月二十八日　第二回実行委員会
（開催日程、作品搬入・審査等について協議）
二月十九日　第三回実行委員会
（実施状況の報告、次回の開催計画、公募要項等について協議）

作品搬入・受付

九月六日(土)、県民会館及び公会堂において行われた。応募点数は十種目で九七二点であった。（昨年は九七四点）

作品審査

九月七日(日)、各搬入・受付会場において種目別に行われた。種目別の入賞・入選作品数は次のとおり。

○日本画　四六（四六）○洋画　二一一（二一一）
○版画　三九（三九）○彫刻　一五（一五）
○工芸　五六（五八）○書道　二〇五（二〇六）
○写真　一三一（一四二）○デザイン　八七（八七）
○現代美術　三五（三五）○水墨画　一二四（一三三）
※（　）内は応募点数

展示会場及び会期　会場・岩手県民会館展示室
第一期＝十月四日(土)～七日(火)　〔工芸・書道〕
第二期＝十月十日(金)～十三日(月)〔日本画・版画・水墨画〕
第三期＝十月十六日(木)～十九日(日)
〔写真・デザイン・現代美術〕
第四期＝十月三十一日(金)～十一月三日(祝)〔洋画・彫刻〕

表　彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び部門賞受賞者の表彰式を十一月二十四日に行った。（会場・サンセール盛岡）

美術部門実行委員会委員

〔日本画〕西川善有・菊地正義〔洋画〕石川酉三・日下信介〔版画〕日山登啓・鈴木和雄〔彫刻〕清武英司・曽根達也〔工芸〕阿部裕之・佐々木秀次〔書道〕佐藤平泉・佐々

木飛鴻〔写真〕太田信子・菊池克美〔デザイン〕井上美知子・竹村育貴〔現代美術〕小笠原卓雄・浅倉伸〔水墨画〕鈴木孝男・菊池一政

種目別の記録

日本画　**芸術祭賞**＝「梅雨の頃」関　尚子（山田町）**優秀賞**＝「白い花たち」藤原妙子（矢巾町）**奨励賞**＝「池」平松比紹（盛岡市）／「風柳」佐藤　茜（盛岡市）**部門賞**＝「大理石の峡谷」菊地正義（盛岡市）／「秋之閼伽堂」達谷窟敬祐（平泉町）／「みずうみ」佐野恭子（盛岡市）／「白菊」福士るみ子（山田町）

▶日本画審査

《講評》　会場の雰囲気が明るく調和のとれた作品に包まれ、今までにない眺めになっている。学生の複数参加した絵の数々に日本画への展望を新たにした作品に拍手を送りたい。

芸術祭賞「梅雨の頃」＝風景から画面を切り取る構図の構成と全体の配色がうまくマッチしている。淡い色調が、柔らかな雰囲気を出している。

優秀賞「白い花たち」＝画面からあふれ出るような、ボタンの花と全体の色調がうまくまとまって、生命の春を謳歌している。

奨励賞「風柳」＝バックの濃い水色、手前の淡い配色の調和が良いアクセントとして花がきれいに表現され落ち着いた景観をかもし出している。

奨励賞「大理石の峡谷」＝水（風）の流れと柳の調和が耳をそば立てると風の音が静かに聞こえてくる風景である。

（西川善有）

審査員＝西川善有（岩手県日本画協会会長）
渡辺　操（　〃　副会長）
片山道子（　〃　理事）

洋画　**芸術祭賞**＝「望む―K―0215」松岡けい子（秋田県）**優秀賞**＝「また逢えた（鉱山跡）」八木　毅（盛岡市）**奨励賞**＝「烏勘左ヱ門」山根ノブ子（山田町）／「路地裏」安部　隆（花巻市）**部門賞**＝「満干」伊藤真理子（盛

岡市）／「過ぎ去る風景」金井保憲（矢巾町）／「四面楚歌」小岩宇美子（北上市）／「エゾ春ぜみのなく頃」大上フサ子（盛岡市）／「夜明けの松島」後藤健助（一関市）／「物語のはじまり」前川ゆみ子（宮古市）／「コンベヤのある風景」堀内幸一（滝沢市）／「海への誘い」沢田むつ子（宮古市）／「信仰への参道」菊池　洋（奥州市）／「創・層・想Ⅱ」菊池和弘（宮古市）／「北の眺望」荻原國昭（一関市）／「天・空・地」佐藤明子（花巻市）／「応援歌」坂本和子（二戸市）／「シャクナゲ」北村敦子（花巻市）／「明日へ」山内峯男（宮古市）／「休耕地・冬」川﨑茂樹（釜石市）／「男の起源」老鳩砂泥（盛岡市）

《講評》　応募数は二一一点と昨年（二〇〇）より微増した。世代の中心は例年通り六十、七十代の方々であるが、徐々にではあるが二十、三十代の出品も増えている。

特徴としては、画材の多様化が挙げられ、パステル、ペン、鉛筆等による作品が目を引いた。また、震災後三年という経過を踏まえ、実生活に根差して現実に対峙し内包しようとする気持ちが多くの作品から感じられた。

芸術祭賞、松岡けい子さんの『望む―K―0215』は、人体をモチーフにした抽象画で、造形的な可能性を追求し、過去から未来へと時空を超越するイメージによりデフォルメされている。入念に描き込まれ完成度が高く、見る側に雄弁に語りかけ、居留めさせる大きな魅力を感じさせる。

優秀賞、八木毅さんの『また逢えた（鉱山跡）』は、廃工場を主題に、朽ちかけた柱や壁体の形態と枯鈍色の色彩で丁寧に描かれ、逆に瑞々しく眩い。卓越した描写力はいずれ消え去る運命の廃工場に画面上で恒久の命を与え、深い精神性を感じされる。

奨励賞、山根ノブ子さんの『烏勘左ヱ門』は、力感のある描写の水彩画だが、その独特な存在感は水彩であることを忘れさせる。木材置場を舞台に繰り広げられる五羽の物語は妙に現代的でリアリティを帯び、見る側を魅了する。同賞、安部隆さんの『路地裏』は、モノクロに近い統一された色調で描かれた構造性の強い水彩画で差し込む光とそれにより浮き出す建物やバイクのシルエットが印象的。鋭

◀洋画審査

く一瞬を切り抜き、何気ない都会の片隅を卓越した描写力により、叙情性豊かに表した。

総じて、渓流や山、水などの自然をテーマにした題材が多かった。中にはモチーフや描きたい気持ちと画面の形状、大きさが不釣り合いと思われる作品もあったが、直向きさ、実直さ、そして粘り強く絵と向き合おうとする姿勢は毎年変わらず、それこそが〝岩手の芸術〟の根源をなすものと考える。

（日下信介）

審査員＝洋画部門理事

版画　**芸術祭賞**＝「5月の残像―春雷」松本昌人（盛岡市）　**優秀賞**＝「crystal garden」岩渕俊彦（盛岡市）／「夕影」鈴木和雄（矢巾町）　**奨励賞**＝「浮きあがるもの」小野寺花佳（盛岡市）　**部門賞**＝「あしたのための劣等感」藤井ちひろ（盛岡市）／「親子とチューリップ」君崎ちひろ（盛岡市）／「風景「町」」類家聖香（盛岡市）／「7月の庭」渡辺万里（盛岡市）

《講評》　版画制作には技術習得がある程度必要になる。出品者の多くが大学や版画教室、講習会等で技術を習得されているようだ。出品作は木版画十九点、銅版画十七点、紙版画二点、シルクスクリーン一点であった。点数は多くないが出品者の年齢層は学生、社会人、ベテランと幅広い。

木版では多色刷りが半数を占める。ベテランの方々から聞くと教室や講習会などで技法を覚え、独自に工夫をしながら制作しているという。学生では盛岡大学からの出品者が多く、描写と白黒表現が的確な類家聖香氏「町」と明快な色彩に若い希望を感じる君崎ちひろ氏「親子とチューリップ」が部門賞となった。卒業後の制作も期待したい。

道具などで制約の多い銅版の出品が半数というのは、大学の版画科のみならず個人が主宰されている銅版画工房の功績が大きいと思う。楽しい作品が多く、岩手の銅版画普及に多いに貢献している。芸術祭賞に輝いた松本昌人氏「5月の残像―春雷」はテーマと銅版の特質がうまくかみ合った作品。硬質な鉄のアーチ橋と散る羽の対比に強いメッセージ性を感じる。優

▶版画審査

秀賞の岩渕俊彦氏「crystal garden」は丁寧な銅版の仕事で、万華鏡やレースのような繊細で美しい作品。奨励賞の鈴木和雄氏「夕影」はさらりとした線の夕景が心地良く、黒いカラスに心が少し騒ぐ。自己の内面に目を向けて版を刻んだ藤井ちひろ氏「あしたのための劣等感」と、こなれた草花の描写が色刷りで楽しい渡辺万里氏「7月の庭」も銅版画での部門賞となった。

シルクスクリーンでは定まらぬ形を内在させて何かを予感させる混沌としたイメージの小野寺花佳氏「浮きあがるもの」が奨励賞となった。出品者が少ないシルクと紙版だが小野寺氏と大作の紙版画を出品した瀬川はるひ氏（入選）は自信を持って制作を続けて欲しい。数少ない抽象作品としてこれからの展開が楽しみである。

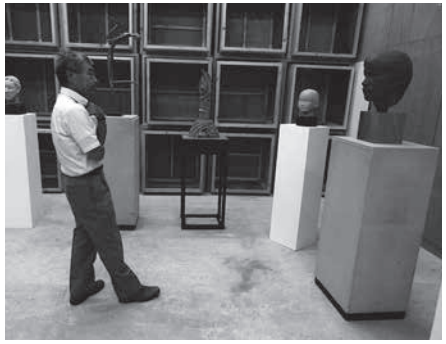
（田村晴樹）

審査員＝阿部陽子（版画家・国画会会員）
田村晴樹（画家）

彫刻　**芸術祭賞**＝「A君」遠藤守夫（奥州市）　**優秀賞**＝「しわ」高橋茉由（紫波町）　**奨励賞**＝「青春」平澤和男（奥州市）／「芒（のぎ）」八重樫篤（一関市）

《講評》　今年度の彫刻部門への出品は十五点で過去三年間横ばい状態が続いている。その中でも十代と二十代の出品者が合わせて七人とほぼ半数を占めたのは、今までにない大きな変化である。内容的には人体を題材とした作品が多い傾向は続いているが、石膏、粘土、テラコッタ、木と多様な素材による表現が見られた。全体評を含め受賞作については、審査を担当していただいた新藤彰一先生の講評を掲載する。

『人物を題材とした作品が多くを占めた。一定の水準に達しているが、表現様式の多様化により表面的な部分への関心が先行し、彫刻の本質となる塊や内側から出てくる強さを意識化されていないことがあげられる。ものをより深く見ることで感性を磨き、それぞれの表現につなげることが制作への課題である。その中でも芸術祭賞の遠藤守夫さん作品は、塊の強さと豊かな表現力が融合され充実した内容となっている。素材の扱い方を含め、卓越した造形力は



◀彫刻審査

群を抜いている。優秀賞の高橋茉由さんの作品は、モデルとの対話を通じて感じた温かい人間性を若い感性で素直に表現している点に好感が持てた。奨励賞の平澤和男さんの作品は、美しい曲線によって構成され、若々しく軽やかな印象を与える。同じく八重樫篤さんの作品は、筒型の部分に顔を再構成させた表現におもしろさがある。』

出品者数が伸び悩む中、若い方が増えたことは部門にとって明るい材料である。しかしながら、高校や大学を卒業した後も彫刻制作を継続していくことは、制作環境の確保を中心になかなか難しいと言われ、才能ある作家が埋もれてしまっている。そのような状況でも意欲的に制作し、出品していただけるような魅力ある部門であることを目指して運営に携わってきたが、思うような成果につながっていないことは否めない。今年度の流れを継続していけるよう一層の努力をしていきたい。

（清武英司）

審査員＝新藤　彰一（彫刻家）

工芸　**芸術祭賞**＝「青白磁「空」」竹田康夫（盛岡市）**優秀賞**＝「ウレイラⅡ」村木　茂（岩泉町）**奨励賞**＝「六月のサイロ」門馬経智（盛岡市）／「白堊（はくあ）」橋本静子（紫波町）**部門賞**＝「なまこ釉鎬壷」佐藤鉄男（北上市）／「いつか群青の街で」昆野明栄（遠野市）／「メキシコ紀行」熊谷友美恵（宮城県）／「古里（春・夏・秋）」青柳ひで子（一関市）／「蒼穹Ⅱ」大渡真紀（北上市）／「満月」山口一夫（岩泉町）／「青銅花器「Dio Light」」江田朋哉（盛岡市）／

《講評》　第六十七回岩手芸術祭工芸部門の展示総数五十七点、昨年より十点ほど少ない展示総数であった。審査員の沓澤則雄先生は次のように述べている。昨年より若干少ない出品点数ですが、高いレベルの作品が多く、特に立体作品に優れた技術やロマンの有る作品、又素材の美しさを追求したもの、将来の若手作家の作品に注目した。

芸術祭賞の竹田康夫氏の青白磁「宙」は青白磁の高い技術の美しさ、ダイナミックに捻った、宇宙へ上昇する渦巻き状の形に力強さを感じました。

優秀賞の村木茂氏の「ウレイラⅡ」重厚な形と落ち着いた素朴な色調の陶芸の大作。古里の山をイメージした作者の深い思いを感じました。

奨励賞、門馬経智氏の「六月のサイロ」は鋳金の作品、固くなりがちな金属を素材に、新緑の爽やかな風を感じさせる、若々しい、作者のロマン溢れる好作。同じく奨励賞、橋本静子氏の「白堊」は白い重厚な陶芸作品。レリーフ状のアクセントが作品に動きと面白さを与えた。

部門賞「なまこ釉鎬壷」佐藤鉄男氏の大ぶりの陶芸の壺の作品。「いつか群青の街で」昆野明栄氏の染織の藍染による壁面の作品。「メキシコ紀行」熊谷友美恵氏の異国情緒を感じさせる染織の作品。「古里（春・夏・秋）」青柳ひで子氏の漆芸の三点組の季節を表現した作品。「蒼穹Ⅱ」大渡真紀氏の陶芸の色彩の美しい作品。「満月」山口一夫氏の木工の丁寧な仕事の美しい作品。「青銅花器『Dio Light』」江田朋哉氏の若々しい感性に溢れた青銅の作品。以上が部門賞として選ばれた。

今年度の出品作品の傾向としては前年度同様、壁面を飾る染織等の作品が減少の反面、陶芸の大作が増加して会場を飾りました。次年度は、より多くの出品を期待しています。）

（阿部裕之）

◀工芸審査

審査員＝沓澤則雄（日展会員）
菊池房江（岩手工芸美術協会会長）

書道　**芸術祭賞**＝「良寛詩」谷藤楽山（盛岡市）**優秀賞**＝「石川啄木の詩」大河原節子（一関市）**奨励賞**＝「陶淵明詩」丸若敬葉（二戸市）／「王偁詩」熊谷碣斗（盛岡市）**部門賞**＝「王漁洋詩」兼平岱夔（盛岡市）／「螢」菅野迪子（陸前高田市）／「近作三首」千葉寿幸（一関市）／「莫遯詩」高橋玲華（盛岡市）／「篆刻二種」齋藤玄陽（盛岡市）／「白楽天詩」福井豊亥（盛岡市）／「張大順甲骨文干字文」松江邦雄（花巻市）／「あをによし」丸山篁香（滝沢市）／「日時計」山崎珠園（釜石市）／「三十六歌仙より」伊藤紫月（盛岡市）／「自作詩（厳冬の鮪漁）」及川祥空（奥州市）／「杜甫詩二首」古舘葩水（一戸町）／「孝錫詩」工藤明竹（滝沢市）／「韓国詩」佐々木信風（盛岡市）／「羅振玉詩」三浦真琴（盛岡市）／「王蒙詩」小田嶋北門（盛岡市）／「劉崧詩」小笠原光華（滝沢市）／「汪琬詩」千葉桂華（紫波町）／「杜甫詩」川下子鳳（紫波町）／「楽索河有感（呂大器詩）」大矢瑞峰（矢巾町）／「五言絶句「山行」」中野晴石（盛岡市）／「曹唐詩」畠山素園（花巻市）／「万葉集のうた」八木橋宏苑（盛岡市）

《講評》　応募点数二〇六点、入賞入選作品二〇五点、展示作品は公募、招待、審査員合わせて二二八点。近年続く高齢化の影響等で、出品者の減少も危惧されたが、学書に勤しむ方々の意欲・熱意に支えられ、応募点数が前年より増加した。関係者各位には心より感謝申し上げたい。

芸術祭賞は谷藤楽山さん（盛岡市）の漢字作品。良寛の詩を淡々と表現し、楽趣に富んだ作。優秀賞の大河原節子さん（一関市）の作品は、啄木の詩を終始一貫した集中力で明るく上品にまとめた。奨励賞の丸若敬葉さん（二戸市）の漢字作品は、力感溢れる力強さと技術が評価された。同じく奨励賞の熊谷碣斗さん（盛岡市）の作は連綿が美しく、自在に躍動する行草体に仕上げた。

巡回展には、三賞作品に加え、伊藤紫月さん（盛岡市）の仮名作品、畠山素園さん（花巻市）の漢字作品、及川祥空さん（奥州市）の漢字仮名交じり作品、千葉寿幸さん（一関市）の篆刻作品の四点が選出された。伊藤さんは鍛え上げた強靱な線で平安古筆の美を表現した。畠山さんは行の余白を生かし、横形式に創造性豊かな作品に仕上げた。及川さんの漢字仮名交じり書は全体構成が見事で、研ぎ澄まされた線質と独自の造形美が評価された。千葉さんの篆刻は、方寸の世界を存分に発揮し、側款の手拓にも労苦が窺える。

現代書の全貌が見え、個性的で多様な表現が堪能できるのが今回の特徴。全体構成や造形美・流動美に加え、作者の主張が伝わってくる。

（佐々木飛鴻）

▶書道審査

審査員＝佐藤　平泉（岩手書道協会会長）
斎藤　溪石（〃　副会長）
堀内　青巒（〃　副会長）
野田　杏苑（〃　副会長）
吉田　晨風（〃　副会長）
佐々木飛鴻（〃　理事）
佐竹　松濤（〃　理事）
佐渡谷小琴（〃　理事）
日澤　竹圓（〃　理事）
松戸　亮濤（〃　理事）

写真　**芸術祭賞**＝「歌う家族」菊地秋男（盛岡市）　**優秀賞**＝「闘魂」北井崎昇（盛岡市）　**奨励賞**＝「新遠野物語」太田信子（盛岡市）／「荘厳の朝」鴨志田英雄（宮古市）

部門賞＝「Linne（リンネ）」吉田　篤（盛岡市）／「歓迎」佐藤文明（奥州市）／「収穫の喜び」竹花信一（盛岡市）／「記憶のポートレート」武藤　章（宮古市）／「祭りの日」原田武二（盛岡市）／「絶対服従」菅原章次（奥州市）／「送り盆」星　岩男（盛岡市）／「生きる」工藤正典（盛岡市）／「晴れ着姿」照井俊男（盛岡市）／「ハンター」柳村　敏（滝沢市）／「古里」小田健三（盛岡市）／「浄土の星」因幡繁之（宮古市）／「興味しんしん」菅野敬夫（盛岡市）／「水しぶきを浴びて」平舘　徹（盛岡市）／「使者」星　道子（盛岡市）／「熱烈闘球」今野　鎮（北上市）／「樹力（生きる力）」菊池健逸（八幡平市）／「うぁあ寒い」小川誠也（釜石市）／「中津川ぞい」菊池克美（花巻市）／「風紋の彼方に―八幡平」井内勝美（盛岡市）

《講評》　一四二点の作品のレベルは高く甲乙つけがたいが、選考の決め手はピントの甘さや不用意なブレだった。作品性がいくら良くても涙を呑んで除外した。上位作品は、それぞれ視点が明確で強いメッセージ力を持っている。人真似でなく、独自の世界観が選考の決め手になった。被写体に惚れ込んで楽しみながら写真に向き合うことを切望する。

芸術祭賞「歌う家族」菊地秋男／ラムネの空瓶のわずかな形の違いに着目した作者に脱帽。その面白さをアート的に表現。見る者をメルヘンの世界に誘う。タイトルも適切。

優秀賞「闘魂」北井崎昇／激突する牛の息遣い、血走る眼が見る者を釘づけにし、勝負の行方を想像させる思いきった画面構成。

奨励賞「新遠野物語」太田信子／右上の何かを見つめる子供たちの視線と後ろの影絵、左下の囲炉裏で退屈そうな少女が見る者を不思議な空間に誘い、物語の続きが見たくなる。同「荘厳の朝」鴨志田英雄／春の朱に染まる雪渓を、超広角レンズを絞込みパンフォーカスでダイナミックに表現。光線の捉え方と露出配分が見事。

部門賞「Linne（リンネ）」吉田　篤／ブルーの雨雲と蜘

◀写真審査

蛛の巣に広がる水滴を左右に配置。中央にアップの水を背景のみモノトーンに変換させて印象を強く見せ、生命の根源がすべてここから生まれるのだ、というメッセージがよく伝わる。同「歓迎」佐藤文明／頭に着地したウミネコを携帯で撮影する笑顔の姉弟、退屈そうな父親の対比がユーモラス。何気ない日常の一瞬を的確に捉えた。同「収穫の喜び」竹花信一／小豆を丁寧に選り分ける老人。優しい視線が見つめる先には安心しきった飼い猫。自然の恵みの素晴らしさと人間愛を感じさせる。同「記憶のポートレート」武藤　章／モノトーンで実体と影を巧みに構成した印象的なポートレート作品。四枚組の左上の水面のカットが今一つ。三枚組にした方が良い。

（山本純一）

審査員＝山本純一（日本写真家協会会員）

デザイン　**【自由】芸術祭賞**＝「異素材でできている」山本千暁（盛岡市）　**優秀賞**＝「世界の物語シリーズ　ドイツの妖精①～③」小山田拓司（盛岡市）　**奨励賞**＝「MONSTER」吉田幸恵（盛岡市）／「憂鬱」田沢恭子（盛岡市）　**部門賞**＝「銀河鉄道の夜」加村なつえ（盛岡市）／「宇宙（そら）」及川健児（盛岡市）／「よみがえれ三陸神話」佐々木海太郎（盛岡市）／「アラベスク」井上美知子（滝沢市）／「安全地帯」大野晃平（釜石市）

【課題】金賞＝「これ以上削れません。」高橋未佳（盛岡市）　**銀賞**＝「青」高橋真菜（盛岡市）　**銅賞**＝「22世紀の贈り物」宇夫方康夫（盛岡市）

《講評》　震災から約三年。あの時を振り返り、検証するとともに、明日への希望や期待を探る機運も感じられる。

芸術祭賞・山本さんのポスター「異素材でできている」は、多様な心理を映す表情を通し、内なる世界を凝縮した。他者からインスパイアされる価値規範、意識下の精神に起因する葛藤などをスケッチとコラージュで視覚化した。

優秀賞・小山田さんの作品「世界の妖精シリーズ　ドイツの妖精」は、童話のキャラクターをユニークで愛らしい存在に描き起こした。シチュエーションの構成も面白い。

奨励賞・吉田さんの作品

▶デザイン審査

「MONSTER」は、日本の様々な妖怪をユーモラスにシンボル化した。田沢さんの「憂鬱」は、飛翔へと駆り立てられる願望を人物と羽との対比で表した。

部門賞・加村さんの作品「銀河鉄道の夜」は、天を駆ける列車、星座の深遠を幻想的な宇宙観で描いた。及川さんの「宇宙（そら）」は、少女の透徹した自意識が、時空を越えて普遍的な何かを希求している様を表現している。佐々木さんの「よみがえれ　三陸神話」は、神話を題材に、三陸へ託す未来への希望を豊かなイラストに込めた。井上さんの「アラベスク」は、ユートピアへの憧憬を心安らぐ色彩、柔らかなタッチで投影した。大野さんの「安全地帯」は、安全と裏腹の危険への警鐘を今日的な主題とした。

課題部門、金賞・高橋未佳さんの「これ以上削れません」は、生命を危うくする温暖化が進行する危機を溶けゆく氷を通して訴えている。銀賞・高橋真菜さんの「青」は、海水温の上昇により、動物生態系が受けるダメージを危惧している。銅賞・宇夫方さんの「22世紀への贈り物」は、ピュアで豊かな自然を次代へ引き継ごうという想いの表出である。

他者や社会と関わるコミュニケーションツールとしてのデザインの根幹は、視覚化された情報やメッセージである。日常や時代性への観察・洞察で得たものを昇華して欲しい。

（村上由美子）

審査員＝工藤　強勝（グラフィックデザイナー）
村上由美子（岩手デザイナー協会会長）

現代美術　**芸術祭賞**＝「花と雪化粧」工藤奈月（矢巾町）　**優秀賞**＝「時を利して」桑児　元（盛岡市）　**奨励賞**＝「Nowhere NobodyⅡ」大友成己（一関市）／「顔」佐藤佳奈（花巻市）　部門賞「むこう側」尾形香織（盛岡市）／「フーイニア」朝倉　伸（盛岡市）／「２００２」岩佐英明（盛岡市）／「壊れた海と思い出」田沼栄美（久慈市）

《講評》　芸術祭賞：工藤奈月は、時間という抽象的なテーマを視覚的に表現する難しい課題に取り組んでいる。直接的・説明的な表現方法に頼らず、絵の前に立つ人が自らの内面と向き合うような、見る人の心にじわじわと沁み入る絵画の奥深さに到達している。

優秀賞：桑児元は、グラフィックな表現を想起させながら、シンプルな方法によって絵画の可能性を示唆している。絵画における空間表現には、まだまだ開拓されるべき余地があることに気づかされる。

奨励賞：大友成己は、表現を志向する動機が明確で、配置・提示方法までを含めた作品化の方法にも説得力がある。

存在するものと対峙する時の緊張感を味わうことができる。佐藤佳奈は、大胆な構図によって、抽象以後の具象という絵画の今日的な課題を浮上させながら、絵画の醍醐味を思い出させてくれる。

部門賞：尾形香織は、同じフォーマットの5枚の写真を併置することによって各画像の固有性を相対化しつつ、境界というテーマへと見る者の意識を誘う。浅倉伸は、現代の消費文化を象徴するような造型感覚をベースに、深層心理を揺さぶる密度と凝集力によって、現代的な欲望を炙り出している。岩佐英明は、ファッションや音楽における記号性を喚起するロゴのようなイメージと、透過性を活用した重層構造によって、現代的な感覚を表出している。田沼栄美は、限られた素材とシンプルな方法によって、個人的かつ重いテーマを、見る者が感覚的に共感しうる開かれた表現へと結実させている。

▶現代美術審査

この分野は表現方法が多様であり、判断基準が明確ではないため、審査にあたっては、総合的な構成力を重視した。方法の自由さが、受容の難しさを招くこともあることを意識してほしい。受賞作品に限らず、見る人の感覚と感情に響く方法を模索している作品が、心に残る。

（梅津　元）

審査員＝梅津　元（埼玉県立近代美術館主任学芸員）

水墨画　**芸術祭賞**＝「湖畔秋声」阿部慶造（盛岡市）**優秀賞**＝「冬の華」平塚祐子（盛岡市）**奨励賞**＝「霧の運河」菅原　實（花巻市）／「羽黒山参道」照井決子（花巻市）**部門賞**＝「懐・板張納屋」佐藤　哲（盛岡市）／「想天砦」谷藤千嘉子（盛岡市）／「宝川温泉」佐藤幸子（大船渡市）／「流韻」清水恒男（盛岡市）／「古民家に降る雪」小笠原妙子（盛岡市）／「早春の春子谷地」和田道宏（盛岡市）／「原生林寒霧」菅谷正之（盛岡市）／「城跡」大星昭三（盛岡市）／「湧水」大橋絹子（盛岡市）／「明日へ繋ぐ命」中済寿美子（宮古市）／「傷痕隆々」金野淑夫（陸前高田市）／「秋の夕暮れ」小沢トキ子（奥州市）

《講評》　三年半も期間は経過したものの、依然として癒えない東日本大震災の後遺症を背負いながら、精神的にも

耐えがたい負担のなかで老齢化も加速している現況とあいまって作品応募数の減少は、むしろ限られた中での努力と敬意を表すべき作品の提出範囲なのかもしれません。

ひと頃は作品企画の緩和など出品数許容範囲を図る努力はしたものの、今回も実効要因とはならず総数が一三三点であったことは、協会として今後もこの打開は難しい問題を抱えることになりそうです。しかし中型作品には素晴らしい作品が多く規格に拘らない表現方法の変化も見られたことは救いでした。

尚、出品作品の傾向として「滝と川」の画題が多く、欲を言えば幅広い画題と共にバラエティーに富んだ題材への取り組みを願いたいものです。

芸術祭賞の『湖畔秋声』は、のびやかな安定感と爽やかさが、よく生かされています。全景を美しく掌握されて、

◀水墨画審査

おだやかなバランスのよい、そして余白も細部に亘りよく構成された素晴らしい秀作です。優秀賞の『冬の華』は冬の厳しさが雫の表現によく生かされています。凍て付く谷の流水が珍しい形となって又、雫となって厳冬の情景をよくかもし出しています。奨励賞の『霧の運河』は様式の建造物が霧の立ち込める運河に程よくマッチし濃淡表現も見事に生かされています。同じく奨励賞の『羽黒山参道』は、巨木を全面に迫力ある画面構成となって、又、霊峰の参道がそれらしい雰囲気となっているよい作品です。外に十二点の部門賞の作品はそれぞれ力作でした。

（工藤瑞則）

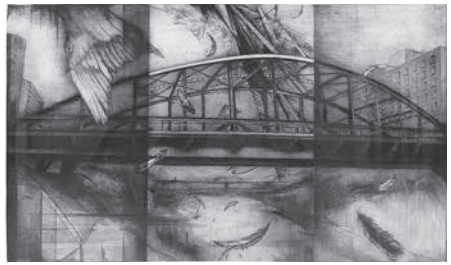
審査員＝鈴木　孝男（岩手県水墨画協会会長）
岸本カヨ子（　〃　副会長）
工藤　瑞則（　〃　副会長）
粒針　秀郎（　〃　監事）

美術展三賞受賞作品

芸術祭賞

▲**工芸**「青白磁『宙』」
／竹田　康夫

▲**彫刻**
「A君」
／遠藤　守夫



▲**版画**「５月の残像―春雷」
／松本　昌人

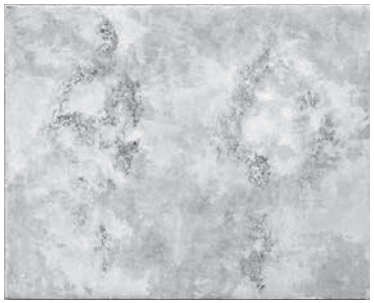
▲**洋画**「望む－K－0215」
／松岡けい子

▲**日本画**「梅雨の頃」
／関　　尚子

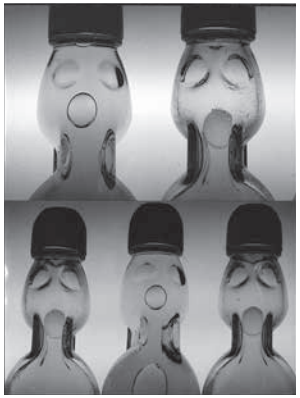
▲**デザイン**「異素材でできている」
／山本　千暁

▲**書道**「良寛詩」
／谷藤　楽山

▲**水墨画**「湖畔秋声」／阿部　慶造



▲**現代美術**「花と雪化粧」
／工藤　奈月

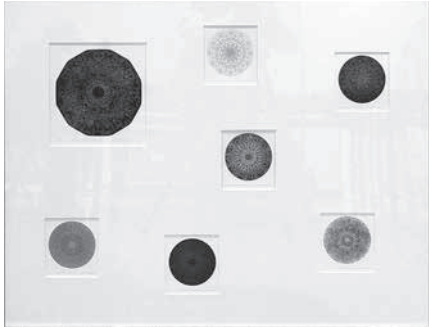


▲**写真**
「歌う家族」
／菊池　秋男

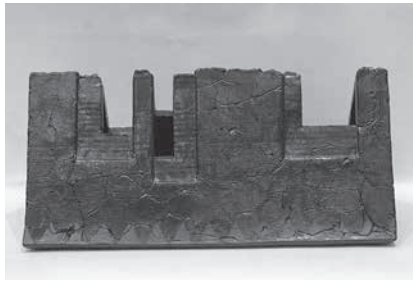
優秀賞

▲**水墨画**「冬の華」
／平塚　祐子

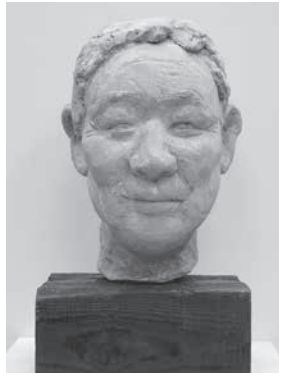
▲**日本画**「白い花たち」
／藤原　妙子



▲**版画**「crystal garden」／岩渕　俊彦



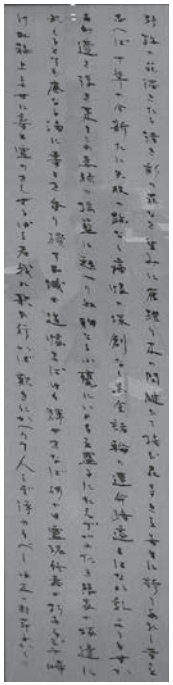
▲**工芸**「ウレイラⅡ」／村木　茂



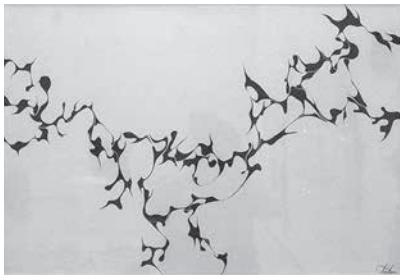
▲**彫刻**「しわ」
／高橋　茉由

▲**洋画**「また逢えた（鉱山跡）」
／八木　　毅

▲**写真**「闘魂」／北伊崎　昇



▲**書道**「石川啄木の詩」
／大河原節子



▲**現代美術**「時を利して」／桑児　　元

▲**デザイン**「世界の妖精シリーズ　ドイツの妖精①②③」／小山田拓司

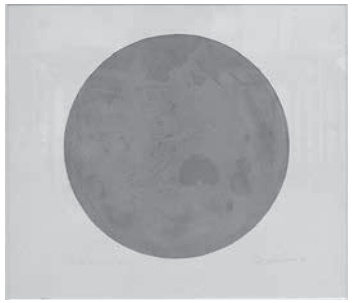
奨励賞

▲**日本画**「池」／平松　比絽

▲**洋画**「路地裏」
／安部　　隆

▲**日本画**「風柳」／佐藤　　茜

▲**洋画**「烏勘左ヱ門」／山根ノブ子



▲**版画**「浮きあがるもの」
／小野寺花佳

▲**彫刻**「青春」
／平澤　和男

▲**彫刻**「芒（のぎ）」
／八重樫　篤

▲**工芸**「六月のサイロ」
／門馬　経智

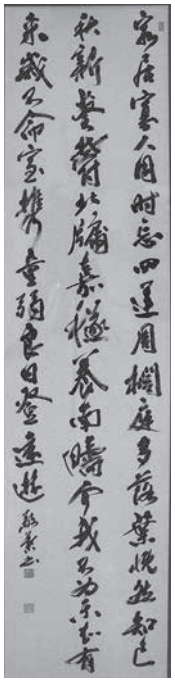
▲**工芸**「白堊（はくあ）」
／橋本　静子

▲**版画**
「夕影」／鈴木　和雄

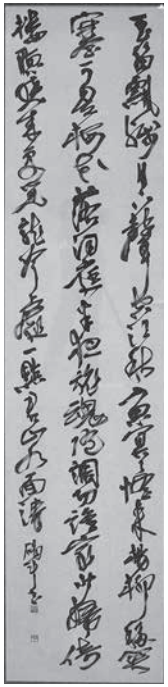
▲**写真**「新遠野物語」／太田　信子

▲**写真**「荘厳の朝」／鴨志田英雄

▲**デザイン**「MONSTER」
／吉田　幸恵

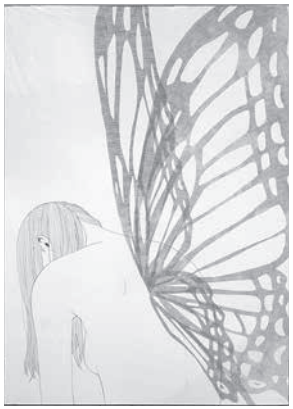


▲**書道**「陶淵明詩」
／丸若　敬葉



▲**書道**「王偁詩」
／熊谷　碣斗

▲**現代美術**「Nowhere Nobody Ⅱ」
／大友　成己



▲**デザイン**「憂鬱」
／田沢　恭子

▲**現代美術**「顔」
／佐藤　佳奈

▲**水墨画**「羽黒山参道」
／照井　泱子

▲**水墨画**「霧の運河」／菅原　　實

巡回美術展

巡回美術展は、美術展の優秀作品を県内市町村において巡回展示し、県民に芸術鑑賞の機会を提供するために実施しているものである。

今年度は県内七会場において美術展における芸術祭賞、優秀賞、奨励賞並びに部門賞のうち部門推薦八十点を巡回展示した。なお、巡回展示することが困難な現代美術作品五点については、当該作品の写真パネルを展示した。合わせて映像コンクールにおける入賞作品四点も各会場で上映された。

鑑賞者数は二一五三名であった。

▽巡回日程・会場（計二十日間・七会場）

11月18日(火)～20日(木)　一戸町コミュニティセンター
11月22日(土)～24日(月)　岩泉町民会館
11月27日(木)～30日(日)　Zホール（奥州市）
12月2日(火)～4日(木)　山田町中央公民館
12月6日(土)～7日(日)　アンバーホール（久慈市）
12月9日(火)～11日(木)　宮古市立図書館
12月13日(土)～14日(日)　一関文化センター

▽出品作品数

日本画八点、洋画八点、版画八点、彫刻八点、工芸八点、書道八点、写真八点、デザイン八点、現代美術八点、水墨画八点／映像作品四点

▶宮古市立図書館

▶Zホール

小・中学校美術展

◆小学校絵画部門

芸術祭賞＝岩間優羽（大新小二）・木村大成（城北小三）・武蔵駿杜（厨川小六）

優秀賞＝若松尚輝（城北小一）・斎藤佑斗（月が丘小一）・中澤太朗（篠木小一）・小山泰生（青山小二）・藤根真奈（津志田小二）・田口美来（御返地小二）・樋山理子（城北小三）・上野咲麗（高松小三）・内田さくら（岩大附属小三）・谷地未來（青山小四）・小林樹（太田東小四）・山崎紘子（重茂小四）・熊谷優斗（羽場小五）・小笠原香南（手代森小五）・角掛美咲（一本木小五）・藤澤優月（青山小六）・竹高李香（種市小六）・朴田清亜（岩大附属小六）

奨励賞＝佐々木颯斗（高松小一）・真鍋いろは（篠木小一）・内田慶太（岩大附属小一）・中畑菜々美（北山形小二）・伊藤崇和（滝沢東小二）・坂井琳（八幡小二）・斉藤優奈（高松小三）・柳本暖翔（北山形小三）・梨子心宇（角浜小三）・大和田優貴（太田東小四）・吉田聖那（大新小四）・柾家寧皇（重茂小四）・髙橋馨（桜城小五）・赤坂咲恵（種市小五）・塚本慧（岩大附属小五）・藤村晴菜（桜城小六）・金澤青空（高松小六）・山崎文音（北山形小六）

〈審査評〉

十月の末、山々の木々が色とりどりに染まる時期に、私が楽しみにしている審査会の日がやってきました。審査会は十月二十一日に、滝沢市立滝沢第二小学校を会場に、二十人の審査員が集まり行われました。会場には外の木々の鮮やかさにも劣らないすてきな作品が、三八八九点、五十二校の学校から寄せられました。どれも素晴らしい作品で、図画工作の時間を中心に、ときには放課後や休み時間も使って、それぞれの作品に真剣に向かっている子ども達の様子が想像され、大変有意義な時間を過ごすことができました。

全体的に指導者が子どもの発達段階に即した表現をさせていることや子どもの意欲を持続させ丁寧に仕上げている作品が多く見られました。ただ、学年によりテーマが固定されている傾向が見られたことや輪郭を描く画材選択や混色・染筆・色彩の基礎的な指導がしっかりしていれば、もっと子どもの思いが伝わっただろうと感じる作品も見られました。

低・中・高のそれぞれの部門の作品を見て気付いたこと、芸術祭賞の作品について感想を述べたいと思います。

低学年の絵は、のびのびと思い切りよく描かれた作品が多く楽しいものでした。アサガオや動物を大きく描き、その間に自分を描いた作品からは、動植物とそれを育てた自分とのかかわりがしっかりと感じられる作品が多かったです。教科書にある題材の「たまごから生まれた〇〇」のように、教科書の作品例を参考に、発想を広げて楽しみながら仕上げた作品から、普段のしっかりとした授業の取り組みを感じることができました。画材はクレヨンが中心でその外水彩絵の具が使われ、また、コラージュの技法も数多いのが特徴的でした。芸術祭賞に選ばれた盛岡市立大新小学校二年生岩間優羽さんの「雨の日に」は、アジサイの花びらの中心を白く抜くことで、花全体に柔らかさと立体感が出ています。雨はスパッタリングして、白い絵の具を飛ばして表現しています。花の間にはカタツムリと傘をさした笑顔の女の子（自分）が配され、雨の日を楽しんでいる様子が見事に表現されています。とても感性の豊かな子どもだなあと感心させられました。

中学年では、花やヘチマや樹木の題材が多く見られました。その他に空想画や物語の絵も多くはありませんが出品されていました。身近な生活の中で発見したことから題材を自分で選んで、思いが伝わるように一生懸命描いた子どもらしい作品が目立ちました。低学年では背景に使われていた水彩絵の具が色彩の中心となり、同系色のグラデーションで表現するなど巧みな色遣いが見られるようになりました。逆にクレヨンを重ね塗りして、表面のクレヨンを描き取って下の鮮やかな色を出すスクラッチという技法を使った作品もあり、教わった技法を取り入れようとする姿勢に感心しました。芸術祭賞の盛岡市立城北小学校三年生木村大成さんの「ドリル・てん丼」は、好きな乗り物で地底に予行する作品です。大盛のごはんの上に大きなエビ天がのっていて、先端のドリルやキャタピラーが力強い線ですが細かく描かれています。後方からジェット噴射の炎が見えますが、エビのしっぽも炎に見えます。そのユニークな発想には驚かされます。茶色の地底を背景に、落ち着いた色で塗られているにもかかわらず乗り物がとても映えています。配色の上手さに驚きました。絵を描きながら地底の世界に想像を膨らませて作品に向かっていることがよく伝わってきます。

高学年は、遠近をしっかりと捉え、陰影を意識して立体的に描いた作品や、形を抽象化したり配色を工夫したりして、リズム感や動性を表したデザイン作品など、表現方法に広がりが見られるようになりました。題材は、花や花と校舎が多数を占めましたが、各地域の人々の生活や仕事、伝統行事などを描く作品も見られ、岩手の自然の豊かさや

人の営みの力強さを感じることができました。顔の表情から内面までが伝わってくる優れた人物画も目を引きました。芸術祭賞の盛岡市立厨川小学校六年生武蔵駿杜さんの「天昌寺の正門」は、本堂を正面からとらえた重厚感のある作品です。左右に配された灯篭は光と影をくっきりと描き本堂に威厳を与えています。建物以外の玉砂利や木々は、個性的な色あいで彩色されています。これらを包むように描かれた空間は明るく、雲が光り輝いています。対象をしっかりと見つめ、駿杜さんの感性というフィルターを通して丁寧に描いた六年生のこの時期でしか描けないすばらしい作品です。

最後になりましたが、多くの学校から魅力的な作品を応募いただいたことに厚く御礼申し上げます。また、自分の感じたことを画用紙いっぱいに描いてくれた皆さん、子どもの思いを大切にし最後まで個々の表現を支えてくださった指導者の方々、そして子どもの表現を見守って下さった保護者の皆様に深く感謝いたします。

（二戸市立浄法寺小学校長　川上良治）

◆小学校書写部門

芸術祭賞＝佐々木美桜（岩大附属小二）・三浦柚葉（北松園小四）・鎌田思（岩大附属小六）

優秀賞＝横沢希和（津志田小一）・伊藤桃子（岩大附属小一）・齊藤蹴（篠木小一）・伊藤心希（向中野小二）・阿部央（岩大附属小二）・大志田悠理（岩大附属小二）・立花玲（岩大附属小三）・越前はな乃（岩大附属小三）・岩越稀星（日詰小三）・工藤真子（青山小四）・前川未来（北松園小四）・小松功英（城南小五）・山﨑優花（津軽石小五）・若狭芽桃（津軽石小五）・大澤花音（北松園小六）・和田晟（北松園小六）・岩渕真侑（北松園小六）

奨励賞＝髙橋日和（仙北小一）・黒木彩衣（仙北小一）・滝澤こころ（岩大附属小二）・鈴木琉斗（岩大附属小二）・大道陽香莉（鵜飼小二）・藤原蘭（手代森小三）・馬場悠歌（津志田小三）・坂本葵（甲子小三）・鳥屋部優美（北松園小四）・小原佑太（北松園小四）・觸澤奈々（北松園小五）・高村結（白百合小五）・遠藤珠羽（石切所小五）・鎌田朋乃加（盛岡・永井小六）・岩越菜妃（日詰小六）・工藤快斗（滝沢第二小六）・松井彩葉（千徳小六）

【審査評】

今年度小学校書写部門には、二千七百余りの作品が寄せられました。昨年度に比べ応募点数は、二百点の減少となりました。二学期早々の忙しい時期にもかかわらず、ていねいにご指導いただきました県内五十七小学校の先生方、ありがとうございました。

審査会は、十月二十一日に滝沢市立滝沢第二小学校で厳正に行いました。応募した作品はどの作品も、書写書道の好きな子どもたちが、真剣に取り組んだ様子がよく分かる作品ばかりでした。今後も字をていねいに書くことが大好きな子どもたちが増えていくことを望んでいます。

〈一年〉

・ひらがなの字形を整えて書いている作品が多く見られました。

・「ま」の結びが意識されず、まるくなっている字がありました。

・「み」の角の方向と結びのバランスをとるのが難しかったようです。

・漢字「日」の二画目と四画目の接筆は、二画目の縦画に四画目の横画が入るように書くとよいです。

〈二年〉

・同じ平仮名や、字形を整えるのが難しい感じの入る課題によく取り組んでいました。

・漢字に比べ、平仮名が大きい作品が散見されました。

・「は」「な」「よ」の結びや筆脈については、さらに練習する必要性を感じました。

・漢字については、部分の大きさや形を整えること、払いやはね等の基本点画に気を付けることが大切です。

〈三年〉

・半紙の中心に文字を収め、始筆に留意した作品が多く見られました。

・「水」には、永字八法の多くが含まれています。毛筆入門期の三年生にとっては、「はね」や「はらい」、左右のバランスのとり方が難しかったようです。

・教室では、名前を練習する時間を確保したいものです。日常生活の中でも字配りよく名前を書くように配慮していただければと思います。

〈四年〉

・筆順正しく、字形を整えて書いている作品が多く見られました。

・「世」では、二画目から四画目の接筆が正しくなかったり、五画目の折れを一画で書いていない作品がありました。

・「界」では、左はらいと右はらいの始筆の位置がはなれ過ぎているため、字形のバランスがくずれている作品が

ありました。

・半紙の裏面に書いたり、墨がついている作品があったので、子供たちに作品を大事にするよう指導してほしいと思います。

〈五年〉 毛筆「出発」

・「出」の折れの筆使いに気を付けて練習させたいものです。最終画が点のような作品もみられました。しっかり画を意識して書くとよいでしょう。

・「発がしら」の一画目と三画目の接筆に気を付けてバランスよく書くとよいです。

・二文字の中心を意識して書くことを大切に練習していくことが大切です。

・高学年も基本点画の筆使いに気を付け、手入れをした用具で練習することが大切です。

〈六年〉

・文字の中心が意識され「希望」と名前のバランスがとれている作品が多く見られました。

・特に「望」の三つの部分の組み立てに苦労している作品が見られました。

・「望」の三画目の曲がりをつき直してしまい、二画になっているものがあり残念でした。

（甲子小学校長　山本　繁）

◆中学校美術部門

芸術祭賞＝氏家菜奈子（岩大附属中二）・丸山周（雫石中三）
優秀賞＝吉田創一朗（岩大附属中一）・西山珠生（岩大附属中二）・細井百花（岩大附属中三）
奨励賞＝谷藤聡（上田中一）・千葉瑞希（北上・南中二）・寺田剛二郎（上田中三）

〈審査評〉

今年度も、県内の中学校二十一校から二百八十九点のすばらしい美術作品が寄せられました。

そのうち、入賞数は、八点、入選数は、八十点でした。その中から、三十点が県内七会場を巡る巡回美術展に選ばれました。

出品された作品を審査して感じたことは、美術の時間に熱心に心を込めて取り組んだ作品であるとともに、対象を見つめたり、思いを深めながらしっかり作品に向き合っている姿勢を強く感じました。

美術で培われる表現力や創造力そして表現に関わる様々な技法を学年に応じながら、確実に身に付けてきた生徒の皆さんの学習成果が数多く見られたことは大変嬉しく思います。

［第一学年の傾向］

美術の学習の時間を通して、基礎・基本を習得し、それが表現につながっていることが大変素晴らしいと思います。

特に、学校行事に位置づけた写生会での作品などの風景画に充実した作品が多く見られたことは大変良かったと思います。

［第二学年の傾向］

一学年の既習事項を生かし系統的に指導した成果がたくさん見られ、指導者の熱意も感じられました。今後も既習事項を生かし、思いや表現意図を大切にした美術に親しんでいくことを期待します。

［第三学年の傾向］

最高学年として、美術を三年間積み重ねてきた大きな成果が見られます。一人一人の作品への思いが大切に生かされています。今後は、さらに自分らしさを追及しながら、表現意図を大切にした表現を目指してほしいと思います。

【芸術祭賞】

「春を眺める～鮮やかな緑に囲まれて～」
岩大附属中二年　氏家菜奈子

岩手公園の池のほとりの様子を描いた秀作です。湖面に映し出された橋の様子と新緑の木々の美しさを丁寧に表現しています。作者の繊細な感受性が伝わります。

「水の流れのむこう」雫石中三年　丸山　周

対象をよく観察し、じっくり描きこまれています。絵具の良さを引き出しながら丁寧に表現しています。特に画面下の流れている川の水の表現が素晴らしいです。

【優秀賞】

「生命の木」岩大附属中一年　吉田創一朗

どっしりと大地に根を張り、何十年もかけて成長してきた樹木。神秘的な存在感を見事に表現しています。特に木肌の微妙な色調の表現は巧で今後の作品も楽しみです。

「生命は歌う」附属中二年　西山珠生

岩手公園の樹木の景色を描いた風景画です。近景、中景、遠景が見事に表現されています。特に題名にもある大地に力強く張っている根の「生命」の表現が素晴らしいです。

「腹心の友」岩大附属中三年　細井百花

なんという存在感のある木々の表現でしょう。「題名」のとおり今まで生きてきた友人であるかの如く、堂々と生命を感じる木々に作者の感動の気持ちが伝わります。

【奨励賞】

「夏景色」上田中一年　谷藤聡

緩やかに流れている小川のせせらぎが聞こえてくるかのような柔らかな水彩表現です。川辺の草や小川の流れの表

現は、丁寧な筆使いで力作に仕上がっています。

「賢治記念館の小道」北上・南中二年　千葉瑞希

柔らかな透明感のある水彩表現です。画面中央に続く道に沿ってきれいな木々が立ち並んでいます。なんとも言えない豊かな表現で見る人に安心感を与えます。

「木漏れ日の中で」上田中三年　寺田剛二郎

岩手公園での写生会での風景画です。作者の目の前でゆらゆら揺れている木漏れ日の美しさに感動したことを、一筆一筆丁寧に、そして誠実に表現しています。

（審査委員長　佐藤嘉彦）

◆中学校書写部門

毛筆条幅入賞

芸術祭賞＝中村碧（北陵中三）

優秀賞＝大森美咲（滝沢中三）

奨励賞＝佐々木彩乃（下小路中二）

毛筆半紙入賞

芸術祭賞＝千葉優稀（山目中三）

優秀賞＝加藤安奈（岩大附属中一）・藤村快（岩大附属中二）・富樫歩美（乙部中三）

奨励賞＝熊谷志歩（城東中一）・髙橋なるみ（滝沢南中二）・三上剛（黒石野中三）

〈審査評〉

平成二十六年度の中学校書写部門の応募総数は、昨年のちょうど二倍の八百十点でした。特に昨年にくらべ、一年生は三倍、三年生は二倍の出品をいただきました。小学校からの継続がきちんとできていること、忙しい三年生も意欲的に取り組んでいることに、頼もしさとうれしさを感じました。

審査会は十月二十一日に、滝沢市立滝沢第二小学校で行われました。審査は、作品のよさを充分に見きわめ、良い作品を十分に評価できるよう慎重を期して行いました。例年以上に力作が多く、審査にも熱が入りました。

その中で、入賞、入選された皆さん、本当におめでとうございます。また、今回は惜しくも入選を逃した皆さんも、美しい文字を書くために努力したことは、とても貴重な体験です。きちんとした美しい文字を、心をこめて書き、人に伝えることは、日常生活の中でもとても大切で、心を豊かにしてくれます。そのようなことも考え、これからも更に力を伸ばしてくださることを期待しています。

さて、各学年の審査において気づいた点をまとめました。今後の参考にしていただければ幸いです。

〈一年・半紙〉

例年以上にレベルが高く、よく練習して出品された作品が多かったです。氏名も作品にあった大きさ、太さで書いてありました。「都」のおおざとの部分の筆遣いが難しかったと思いますが、よくまとめられていました。小学校の学習の成果が表れていると感じました。

〈一年・条幅〉

かなり書き込まれた作品が多く、堂々としていました。余白も意識できると更によくなるだろうと思われる作品もありました。今後が楽しみです。

〈二年・半紙〉

行書に取り組んでいる作品が多く、「躍」という画数の多い文字も、バランスを考え工夫して書かれていました。課題としては、接筆の仕方にあいまいな部分があったので、今後注意すれば、更によくなると思います。

〈二年・条幅〉

筆勢のある線質で、余白のとり方も上手な作品が多かったです。一つ一つの文字に注意を払い、丁寧に書かれていました。

〈三年・半紙〉

線質がすっきりしており、画数の多い文字でも、縦画と横画の太さ、空間のとり方に工夫が見られました。行書の筆脈や点画の連続の仕方が自然で、無理のない運筆でした。氏名も作品としてのバランスがとれたものでした。

〈三年・条幅〉

三年間の集大成といえる力作が多かったです。大胆でありながらも、なめらかな運筆、紙面構成も工夫されていました。

条幅で芸術祭賞を受賞した北陵中学校の中村碧さん（中三）の作品は、運筆のリズム感、統一感が抜群です。堂々としていて重厚な作品です。　同じく、半紙の芸術祭賞、山目中学校の千葉優稀さん（中三）の作品は、躍動感がありながら、繊細な筆運び、芯の強い線質で、目に鮮やかな印象を与える作品です。

今年度もたくさんの方々の努力によって、この作品点を開催することができました。本当にありがとうございました。

なお出品上の課題として、一人で二点重複して出品しているもの、出品目録、名簿がない学校、学校印を押していない学校がありましたので、御注意いただきたいと思います。

次回も、県内多くの地区・学校からの、たくさんの出品をお待ちしております。

（北松園中教諭　小野寺弥生）

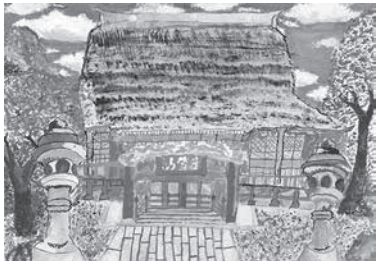
第67回岩手芸術祭小・中学校美術展　応募状況

部門／項目	小学校絵画	小学校書写	中学校美術	中学校書写	合　計
応募点数	3,889	2,697	289	810	7,685
応募学校数	52	58	21	33	164
入賞者数	39	38	8	10	95
入選者数	449	544	80	190	1,263
入選のうち巡回展出品数	36	96	28	64	224

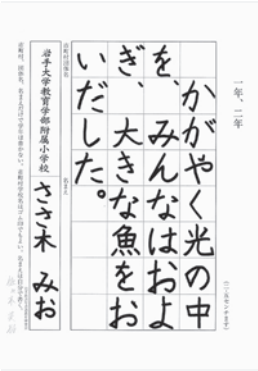
小学校絵画部門・書写部門芸術祭賞

▲「雨の日に」
盛岡市立大新小学校
二年　岩間　優羽

▲「ドリル・てん丼」
盛岡市立城北小学校
三年　木村　大成



▲「天昌寺の正門」
盛岡市立厨川小学校
六年　武蔵　駿杜



◀岩手大学教育学部附属小学校
二年　佐々木美桜

◀盛岡市立北松園小学校
四年　三浦　柚葉

◀岩手大学教育学部附属小学校
六年　鎌田　思

中学校美術部門・書写部門芸術祭賞

▲「水の流れのむこう」
雫石町立雫石中学校
三年　丸山　　周

▲「春を眺める
～鮮やかな緑に囲まれて～」
岩手大学教育学部附属中学校
二年　氏家菜奈子

◀一関市立山目中学校
三年　千葉　優稀

◀盛岡市立北陵中学校
三年　中村　碧

巡回小・中学校美術展

小・中学校美術展におけるすべての入賞作品と入選作品の中から巡回用に選定した作品を、県内各地で巡回展示した。県内の児童、生徒をはじめ、広く県民に鑑賞の機会を提供するとともに、児童・生徒の創作活動の向上に資するために実施しているもので、今回が三十八回目になる。

小学校絵画七五点、小学校書写一三四点、中学校美術三六点、中学校書写七四点、合計三一九点を巡回展示した。期間は十二月二十日（土）～平成二十七年二月一日（日）までのうち、十二日間、五市村で開催し、入場者は一三二五名であった。

▽巡回日程・会場

12月20日(土)～21日(日)　久慈市文化会館
平成27年
1月13日(火)～14日(水)　九戸村公民館
1月16日(金)～18日(日)　宮古市民文化会館
1月24日(土)～26日(月)　カメリアホール（大船渡市）
1月31日(土)～2月1日(日)　シープラザ釜石

▶シープラザ釜石

▶宮古市民文化会館

演　劇

演劇部門の公演は、県内五か所で行われた。

〔盛岡地区〕
十一月一日(土)～三日(月)
盛岡劇場タウンホール
現代時報　第十七回公演プロデュース5th「ワールドツアー」

〔県央地区〕
十一月十六日(日)
さくらホール中ホール（北上市）
北芸の会「なつかしき黒沢尻びと―わが町・わが村―」

〔県南地区〕
十一月二日(日)
Zホール中ホール（奥州市）
劇団我夢「ふりこめⅡ」

〔沿岸地区〕
十一月二十四日(月)
そけい幼稚園（宮古市）
劇研麦の会「姉（あんね）が泣いた」

〔県北地区〕
十二月二十一日(日)
二戸市民文化会館大ホール（二戸市）
二戸演劇協会　The雲人「オズの魔法使い」

《講評》

〈現代時報〉

十一月一日～三日盛岡劇場タウンホールにて、現代時報第十七回公演「ワールドツアー」を第六十七回岩手芸術祭演劇部門にて公演させていただきました。今作品はプロデュース公演として客演を迎え、より気軽に楽しくみられる作風を意識しました。物語は一人の女性が、バックパックを背負って世界一周旅行にでかけ、その様子を入院中の女の子にスカイプを通して語るという構成を主軸に置き、実際に取材した海外旅行のエピソードを随所にちりばめました。

公演期間中は天候不順から動員も心配されました

▶現代時報

が、トータル二七九名のお客様に足をお運びいただき、好意的なアンケートも多数寄せられ今後の活動の励みとなりました。

課題としては、演劇になじみのない方々にどのように作品の魅力を伝えていくかということが大きいかと思います。また運営面では県芸術祭参加作を市の施設で上演しましたが、チケットの手配など県と市の管轄の違いによって認められない点などがありました。お客様目線からすれば、この垣根は不用かと思います。加えて実行委員会事務局の担当者に県民会館でのチケット取り扱いについて問い合わせたところ「チケットの取扱いは、県民会館ホール課で行っておりますので、電話口に出た者にお話しください。県民会館のメールは、県民会館のホームページのTOPに「お問い合わせ」がありますので、そちらをご利用ください。ホームページから担当部署に問い合わせください」と、旧来のお役所対応のようにたらい回しにされたことが非常に心外でした。担当者レベルにおいても参加団体とともに芸術祭を盛り上げようという意気込みがある方が望ましいと思いますし、もしこの方が引き続き担当されるのであれば、ぜひ姿勢を改めていただきたいと思います。

（代表　高村明彦）

〈北芸の会〉

創立三十周年記念「なつかしき黒沢尻びと」―わが町・わが村―公演を終えて…。

昭和五十九年、北上市民劇場に関わった数人が立ち上げた「北上舞台芸術の会」の誕生である。

十年後、さもないいざこざのため存続の危機に見舞われたものの、会員間の話し合いを経、二代目会長を選出し、会の名称も「北芸の会」と改名して活動は続行し、三十周年を迎えるに至った。

扨、今回、創立三十周年記念公演の台本は、創立当時の産みの親の一人であり、「北芸の会」の顧問でもある相澤史郎が今夏、相模原市に住居する夏の盛りに執筆、書き下ろしの新作台本「なつかしき黒沢尻びと」―わが町・わが村―は、九月半ばには会員の手に渡った。何時もなら、本読みに入る前に作者との会合で作者からの意図を傾聴、得心が行く迄、話し合いに時間を費やして後、本読みに入るのが常であったが、今回は作者の体調があまりはかばかしくなく会合は無しでの稽古初め…。大方の会員は作者の意図、真意が把握できず「何?これ?」「何を言いたいのか、伝えたいのか?」読みすすむ程に理解不能…。迷いに迷い四苦八苦の状態で本舞台へ…。

お客様はどう把えて下さったか?　曰く、「ほだくたネェ!」「何を言いたかったの?」中には「お客様に考えさせるお芝居だったのネ」等々。

作者の意図を把握出来ずに演じた私達に大きな大きな課題を残して、創立三十周年記念公演は幕を降ろした。

扨、扨、三十一年目のスタートや如何に?　五里霧中!

これからが正念場、会員相互の話し合いを密にし、話し合いを重ね、これからの道を探っていきたい。三十一年目からの「北芸の会」に厳しい目を注いで下さい。

（後藤義英）

〈劇団我夢〉

劇団我夢は、第六十七回岩手芸術祭参加として「ふりこめⅡ」を十一月二日(日)奥州市文化会館中ホールにおいて上演しました。午後二時開演、上演時間は二時間二十分。観客数は三百九十二人でした。

今回の作品は平成二十二年に上演しお客様から大好評をいただいた『振り込め』の続編として制作しました。あらためてふりこめ詐欺を含む特殊詐欺犯罪の手口や被害状況などを調べてみますと、高齢者をターゲットにした手口はますます巧妙化、悪辣化しその被害額が五百億円にもなりさらに増大の方向にあること、「金があるから騙されるのであって金のない者は騙されても出す金がない」「年寄りのタンスに眠っている金を社会にまわし経済貢献をしているのだ」といった詐欺側の勝手な屁理屈などを知り唖然となりました。

こうした背景を意識して、今作品はふりこめ詐欺の手口の実例を盛り込みながら、前作に登場したクッキーと呼ばれる天才詐欺師がふりこめ詐欺集団を儲け話でひっかけて凝らしめるといった勧善懲悪ストーリー、そしてこのシリーズお約束の二重三重の騙し合いで幕引きとする展開としました。

長時間で休憩なしの芝居

▶北芸の会

▶劇団我夢

となりましたので、役者にはコミカルで軽快なテンポの演技を求め、ふりこめ詐欺実例の場面に映像を取り入れるなど演出に工夫をしどうやら最後までお客様に楽しんでいただいたようです。とはいえ、十七場の場面数はさすがに多すぎたので大きな反省点といたします。

今回も多くのお客様にご来場いただきましたことに心から感謝申し上げます。

（代表　古玉庸一）

〈劇研麦の会〉

劇研麦の会第七十三回定期公演「姉（あんね）が泣いた」

「俺んとこさ嫁に来てもらいてえ」姉はとまどいながらも最後は号泣する。さて、うれし涙か、困惑の涙か。

麦の会の代表作「姉が泣いた」今回で昭和六十二年に台本が書かれてから八回目の上演である。演出も役者も上演する度に変わっているが、変わらないのは、稽古すればする程、面白いということ。そして、今回の上演でお客様に、〝あと少し見たかったですよ〟〝その後どうなるの〟〝続きは来年ですか、面白かったですよ〟と言って頂いた。

地域に根差した劇団として、このような言葉を頂いた事は本当に、ありがたく最高の評価を頂いたと思っております。今回、この作品を演じるに当たり、役作りの話合いで、この話はハッピーエンドなのだから、最後の姉が号泣する場面は、姉の肩にそっとやさしく手を置く事でハッピーエンドになるだろう。今までにない試みである。そして、今だかつてない程の稽古をした。そしてお客様に認めて頂いた役者冥利につきる。

さて、震災以来使用出来なかった宮古市民文化会館が十二月二十日から開館となる。震災から四年もの間、そけい幼稚園様の御好意に甘え、稽古場に発表の場に使わせて頂いた磯鶏（そけい）地域には、たくさんの先輩が麦の会で活動していた御縁で、応援団が、惜しみないエールを送って下さる。本当にありがたい事である。そして又、岩手県文化振興事業団様を始め岩手県演劇協会様、盛岡演劇協会様、盛岡演劇協会様、その他皆々様の温かい御支援を頂き、活動を続けて来る事が出来ました。本当にありがとうございます。

◀劇研麦の会

来年は改装になった宮古市民文化会館での公演になると思いながら、この四年間の皆様の温かい御支援に今のままで続けられたら良いのに、と去りがたい思いでいっぱいなのです。

（田代美津子）

〈二戸演劇協会　The雲人〉

私の所属する二戸演劇協会The雲人。子ども組アイキッズ旗揚げから三十三回目となった今回の定期公演はライマン・フランク・ボームの『オズの魔法使い』。幼い頃、誰もが手にしたであろうあまりにも有名な物語に、稽古期間二ヶ月で挑むとは無謀な集団といえる。

『オズの魔法使い』の脚本は、中道はじめ氏の現代ネタが散りばめられたコミカルな作品で、ここ数年、上演候補に登ってはいたが、キャスト不足等の理由から見送られていた。しかし今回、子ども達からの「オズを演りたい！」という熱い声に押され、練習時間が恐ろしく短い事を承知で取り組み始めた。

子ども達は、台詞は勿論、歌にしてもダンスにしても飲み込みが早い。仕事の都合等でなかなか練習に参加出来ない大人は、完全に遅れをとっていた。

本番は、キッズの可愛らしさと歌の上手さが光る。特に、ドロシー役の子の歌声は観客に好評だった。脇を固める大人のキャストも二十代から五十代と年齢層が幅広く個性派揃いで、大いに楽しむ事が出来た。舞台装置、小道具、衣装、そのほとんどが団員とアイキッズの保護者の方々による手作りで、これもまた短時間で作成したとは思えない出来ばえで舞台を盛り立てた。

今回の公演は、練習不足は否めないものの、観て下さった方々の『オズの魔法使い』に抱いているであろうメルヘンを裏切らない舞台に仕上がっていたと思う。

劇場に足を運んで下さった方々、温かい拍手、率直なご意見、ご感想をありがとうございました。

二戸演劇協会The雲人・アイキッズ。地域に根ざして、三十五年。今後も、益々皆様に愛される劇団を目指して活動していきたいものだ。

（永田由美子）

▶二戸演劇協会　The雲人

映　像

映像フェスティバル

十月二十六日(日)　午後一時
もりおか町家物語館　浜藤ホール（盛岡市）

芸術祭賞＝「BOOK & COOK」佐藤星可（紫波町）
優秀賞＝「水車小屋甦る」千田司（奥州市）　**奨励賞**＝「vicissitude（ヴィシシチュード）」及川和也（茨城県）／「山あげ」木下鉄雄（盛岡市）

《講評》　本当であれば今年度から映像部門は無くなるはずであった。けれど実行委員会の会議で、何とか続けられないかとの意見が出て協議を重ねた結果、今回は比較的近いジャンルであろう演劇部門の事務局の中に「映像部門担当」を置き、その運営を行うこととなった。

しかしながら昨年までの状況が分からず、まさに手探り状態だったので、出品者やお客様方にさまざま迷惑をかけるのではないかとヒヤヒヤしていた。応募開始後もしばらくは手ごたえなし。焦って、いろんな映像愛好グループや大学の芸術関係科やサークルにもＰＲ。すると締め切り近くなって応募作品が到着し始め、締め切り時には計十四点に達した。そこには二十代の応募も三点含まれており、新たな層への広がりが生まれたことはとても嬉しく思った。

三名の審査員による厳正な審査を経て、芸術祭賞には佐藤星河（ほしか）さんのコマ撮りアニメーション「BOOK &COOK」が選ばれた。優秀賞は千田司さんの「水車小屋甦る」、奨励賞に及川和也さんの「vicissitude（ヴィシシチュード）」と木下鉄雄さんの「山あげ」の二作品。思いがけず二十代の若手二名と七十代以上の大ベテラン二名という実にバランスよく、興味深い結果となった。

「映像フェスティバル」は、九月六日にグランドオープンしたばかりの「もりおか町家物語館」にて開催され、受賞作に加え入選作を含む七作品が上映された。およそ六十名の観客は、佐藤さんの緻密な計算に裏打ちされた完成度の高い作品や、及川さんの「モーションキャプチャー」という技術とコンテンポラリーダンスを組み合わせた作品など、若手作家の意欲的な試みに感心していた。また一方で、巧みな構成と時間をかけた取材でしっかりまとめ上げているベテランの作品にも脱帽。とても和やかで良い時間を共有することができたと感じた。

（文責　映像部門担当　長内　努）

▶映像

伝統芸能

能楽　謡と仕舞の会

十一月三日(月)
午前十一時開演
岩手県民会館中ホール

番組

素謡（喜多流・盛岡）

岩船　シテ工藤　長彦　ワキ神田　健幸

仕舞（宝生流・盛岡）

藤ギリ　太田奈々子

仕舞（宝生流・盛岡）

融　栃内　不二

連吟（観世流・盛岡）

邯鄲　シテ高橋　八郎　子方高橋　譲治　シテ荒川　礼二　ワキツレ高橋　雄賢　海老澤君夫　新藤　威　太田　昭　金子　琢磨　小田島幸雄

仕舞（宝生流・盛岡）

放下僧　クセ佐藤　綾子

仕舞（宝生流・盛岡）

阿漕　牧野　トモ

仕舞（喜多流・盛岡）

老松　月宮殿　キンダーホーム　ひまわり組

素謡（宝生流・宮古）

胡蝶　シテ石垣　保一　ワキ武田　勤

藤野　興吉
柏葉　光利
大光　昭
（地）大櫻　正行
中道　俊之
善財　清
菅原　岩夫
千葉　勝廣

佐藤　順一
（地）相澤　剛努
佐野　剛章
三上　敬夫

高橋美恵子
蜂谷　哲子
（地）佐々木加奈子
工藤　典子
藤澤美和子

廣田　豊
（地）相澤　剛努
佐野　剛彰
菊地　新司

高橋美恵子
蜂谷　哲子
（地）佐々木加奈子
上野喜代子
工藤　典子
藤澤美和子

キンダーホーム
（地）ひまわり組
（年長組三十六名）

佐香美穂子
（地）佐香　秀彦
村山　健一
牧原　登

仕舞（観世流・盛岡）

野宮ギリ　村田　晃子
玉鬘ギリ　菊池　幸子

仕舞（喜多流・盛岡）

天鼓　佐藤　曜（杜陵小四年）

連吟（観世流・盛岡）

井筒　シテ岡田　新藤　ワキ太田　高橋　吉川　雄賢　隆久　昭　仁　威

仕舞（宝生流・宮古）

天鼓　牧原　登

谷藤　政子
千葉マスミ
（地）古枝　良子
荒川　冴子
玉川　律子

藤野　興吉
（地）菅原　岩夫
善財　清
柏葉　光利
大櫻　正行

荒川　礼二
高橋　弘
小野信太郎
多田　尚

村山　健一
（地）佐香　秀彦
佐藤　哲夫
石垣　保一

素謡（喜多流・花巻）

鳥頭　シテ古川　智之　シテ押切　功任

古川　英治
菅原　誠治
（地）押切　光雄
都鳥　良美
小田島眞一

仕舞（宝生流・宮古）

花筐　クルイ佐香美穂子

吉田　昭吾
照井安一郎

石垣　保一
（地）佐香　秀彦
村山　健一
牧原　登

仕舞（観世流・盛岡）

松虫ギリ　菊池　昭二
融ギリ　金子　琢磨

素謡（喜多流・北上）

咸陽宮　シテ連佐藤　奈美　シテ熊谷　保　ワキ小菅　一義　ワキ連小野寺宏一　〃齋藤　伸

高橋　譲治
岡田　仁
（地）古枝　良子
高橋　弘
山坂　昭二

小野寺悦子
高橋　敏
（地）平野　勇治
梅木　敬時

仕舞（宝生流・宮古）
網之段　石垣　保一

素謡（観世流・盛岡）
葵上
ツレ　高橋　譲治
シテ　山坂　昭二
ワキ　菊池　昭二
ワキツレ　海老澤君夫
村山　健一
（地）佐香　秀彦
佐野　剛章
牧野　登
高橋　八郎
小田島幸雄
（地）吉川　隆久
多田　尚
中村　儀郎

仕舞（喜多流・盛岡）
夕顔　下川原令子
藤原　洋子
（地）米澤　立
栃内　繁子
伊藤　直子

仕舞（観世流・盛岡）
松風　玉川　律子
鐘之段　荒川　冴子
菊池　幸子
千葉マスミ
（地）古枝　良子
村田　晃子
谷藤　政子

素謡（喜多流・盛岡）
龍田
シテ　武内　公子
ワキ　本堂　信子
ワキツレ　金澤　禮子
湯川　明子
（地）佐々木幸子
鈴木　明美
照井　成子
渡辺　新子
工藤　曄子
高橋千賀子
山口　寧子

素謡（宝生流・盛岡）
吉野静
シテ　菊池　英雄
舘澤　良子
（地）浅沼　京子
舘澤フミ子
山田　陽子
佐々木康勝
安藝　一
八柳　達也
菊地　忠
多田　義典

仕舞（宝生流・宮古）
忠度　村山　健一
佐藤　哲夫
（地）佐香　秀彦
相澤　努
石垣　保一

素謡（観世流・盛岡）
山姥
ツレ　伊藤　碩子
シテ　千葉マスミ
ワキ　佐藤千賀子
佐々木昌子
菊池　幸子
谷藤　政子
（地）玉川　律子
菅原　榮子
中島　康
伊藤トシ子
三條ヒサ子
岡田　敏子
村田　晃子
荒川　冴子
小原　生子
石上　節子
古枝　良子

仕舞（喜多流・盛岡）
楊貴妃　工藤　曄子
武内　公子
渡辺　新子
（地）山口　寧子
高橋千賀子
鈴木　明美
佐々木幸子

連吟（宝生流・盛岡）
シテ「是ハ延喜第三の御子。…」
地「…うつつなの我が姿や。」ツレ
蝉丸
鈴木　勲
佐藤　哲夫
遠藤　秀夫
及川　健治
佐藤　宏明
相澤　努
佐野　剛彰
吉田　清三

附祝言

《講評》　能楽部門「謡と仕舞の会」は、十一月三日（月）午前十一時から県民会館中ホールにおいて、三流儀（観世流、宝生流、喜多流）の出演により開催された。

番組は、前掲のとおり素謡八番、連吟三番、仕舞十五番計二十六番（昨年度三十一番）、出演者数百五十五名（昨年度百六十名）、曲目・出演者とも昨年を下回った。番組は、今回当番幹事の喜多流素謡「岩船」（宝の船を引き寄せ、君が代の繁栄を寿ぐ）から始まり、仕舞、連吟と進行した。

前半中ほどに、いまでは常連出演となったキンダーホームひまわり組三十六名全員による仕舞「老松」（天神の末社となった老松の壮重な舞）・「月宮殿」（一年を通して泰平・長寿を祝う舞）が出演し、舞台一杯に繰り広げられた。屈託のない真剣な謡と舞は、会場から感心の声とともに笑みもこぼれた。

また、小学校四年生の佐藤曜さんの仕舞「天鼓」（天鼓という少年の亡霊の舞）は稽古熱心さが熱く感じられ素晴らしい舞であり、今後に成長した姿の披露を期待したい。

後半、仕舞と素謡をほぼ交互に展開し、最後は、明年度当番幹事の宝生流連吟「蝉丸」（狂女もの、盲目の弟蝉丸の身の不運を嘆く）に附祝言で、めでたくこの会を納めた。

番組全般にわたって、各流儀とも稽古の努力によっ

▶能楽

て「謡と仕舞」の向上が見られ、能楽の一端を観客に十分に鑑賞していただいたものと感じられた。ただ、魅力ある音色の「連調」がなかったことや、中高生等若い世代の出演がなかったことなど、少なからず物足りなさも感じられた。

結びに、会員の高齢化が叫ばれているが、子供たちが貴重な日本の文化的遺産である能狂言に興味と関心をもってもらい、継承されることを期待するとともに、今後ますます岩手芸術祭の発展を願うものである。

（工藤長彦記）

▽**実行委員**＝佐野剛章・菊池昭二

邦楽　邦楽のつどい

十一月九日(日)　午後一時開演
岩手県民会館中ホール

演奏番組　　○…タテ

寿二会
嘉声会
清櫻会
長唄　越後獅子
舞台面　三味線
稀音家　六貞華
中澤　冨士子
稀音家　六田嘉
稀音家　六貞寿
○稀音家　六貞鳳
稀音家　六貞帆
福士　幸雄
唄
菊池　幸子
玉澤　ヒナ
谷地　もと子
鎌田　聡子
廣澤　俊子
○杵屋　寿二
杵屋　勝友可
杵屋　寿慧
杵屋勝由紀寿
佐藤　礼奈
藤村　知子
囃子
小鼓　千葉　由佳子

小鼓　望月　清時
小鼓　佐藤　虹太郎
小鼓　千葉　琉維
○小鼓　望月　美恵
大鼓　望月　清宝
太鼓　望月　清峰
唄
清櫻会
嘉声会
長唄　吉原雀
○稀音家　六貞華
玉澤　ヒナ
谷地　もと子
菊池　幸子
稀音家　六貞鳳
三味線
○稀音家　六貞帆
稀音家　六田嘉
中澤　冨士子
福士　幸雄
唄
○杵屋勝由紀寿
杵屋　寿二
嘉声会
長唄　菖蒲浴衣
寿二会
長唄　鞍馬山
藤村　礼奈
杵屋　寿慧
三味線
○杵屋勝はる寿
佐藤　礼奈
杵屋　勝友可
（上）杵屋　勝菊可
唄
○稀音家　六貞帆
廣澤　俊子
鎌田　聡子
玉澤　ヒナ
三味線
○福士　幸雄
稀音家　六貞華
稀音家　六田嘉
稀音家　六貞鳳
囃子
小鼓　千葉　由佳子
小鼓　望月　清峰

小鼓　望月清時
○小鼓　望月美恵
太鼓　望月清宝

寿二会
長唄　花の友

唄
○杵屋寿慧
杵屋寿二
杵屋勝由紀寿
佐藤礼奈
三味線
○杵屋勝菊可
杵屋勝友可
藤村知子

よくわかる三味線音楽Ⅶ　嘉声会　福士幸雄
常磐津文字会
常磐津　恨葛露濡衣小夜衣（上）

舞台面
三味線
替手　常磐津繁衛
○常磐津治衛
浄瑠璃　○常磐津てる衛
室岡提子
佐藤礼奈
藤村知子

《講評》　第六十七回岩手芸術祭参加「邦楽のつどい」は、「輝く文化　広がる未来　絆深まる岩手の大地」をテーマにして、十一月九日(日)午後一時より岩手県民会館中ホールで開催されました。当日は、良い天候と暖かな陽気に恵まれました。そしてお忙しいなか会場に足を運んでくださる方々で客席は約三百六十名ほどの入場となりました。皆様に演奏を聞いていただき、華やかで厳かな中にも緊張感と活気のある演奏会となりました。

舞台は、まず寿二会・嘉声会・清櫻会による約三十名の合同ステージ長唄「越後獅子」で始まりました。また、本番組では、岩手の未来を担う子ども達が今年度も出演して、小学生の男の子二人が小鼓による熱演を披露いたしました。続いて、嘉声会による長唄「菖蒲浴衣」、寿二会による長唄「鞍馬山」、清櫻会と嘉声会による長唄「吉原雀」、寿二会による長唄「花の友」、そして最後に常磐津文字会による常磐津「恨葛露濡衣小夜衣（上）」をそれぞれ演奏し、いずれの社中もその物語や情景・心情などに迫り、そして

内容に引き込まれる素晴らしい演奏をいたしました。また、今年で七年目になる講話「よくわかる三味線音楽」では、前年度のアンケートで多かったご意見をもとに演目である越後獅子の歌詞の詳しい説明をして、三味線音楽への関心や理解を深めていただきました。

今年度もアンケートの回答を生かして、「歌詞カード」を配付するなど工夫を凝らして好評を博しました。このような番組構成による演奏会は、最後まで熱心に耳を傾けてくださる約三百六十名の客席の皆様方の支えをいただきながら、盛会のうちに幕を閉じました。

会員一人一人は、本演奏会で学んだことを活かし、来年度の「邦楽のつどい」に向けて、さらにレベルアップした演奏が披露できるよう、また多くの皆様方にご来場いただけるよう、さらに精進と研鑽を積んでいきたいと思いを新たにして稽古に励んでいるところでございます。

▶邦楽

（文責　岩手邦楽協会　会長　福士　幸雄）

茶道

茶会　十月五日(日)
盛岡市中央公民館

一席　広間　江戸千家岩手不白会
主　小苅米宗翠

寄付
掛物　草花の絵　高久隆古画
本席
床　大海若云々　大龍宗丈筆
花　季のもの
花入　桂籠　白峰斎作
香合　張抜　角香合　有馬凉及所持
風炉先　一元斎好　菊桐透し
風炉釜　真形釜唐銅鬼面風炉　金森紹栄造
棚　初代不白好　米（棚）
水指　新高麗青磁　李弼祚作
薄器　中次　蜻蛉蒔絵
茶碗　楽了入　初代不白箱

替　仁清写　雲錦　土渕善丕氏作
替　萩焼　田原陶兵衛作
茶杓　銘　小鷹　当代　名心庵共箱
蓋置　初代不白好宝殿　九代　宗雪　箱
建水　高取　雪山　作
お茶　不白の白　八女星野園詰
菓子　秋の山路　大丸屋製
器　新高麗　青磁輪花　方澈柱作

二席　別館和室（書院の間）

表千家同門会岩手県支部
主　平野宗蕙

寄付
掛物　酒井抱一筆　秋草に馬追
本席
床　伊勢神宮神官荒木田守明筆共箱　天地豊饒
花入　古銅管耳　積翠庵旧蔵
花　ときのもの
香合　高山寺蒔絵銀地古書香合　三代　川瀬完作
松菱唐花丸紋有識織物シキテ
釜　箆被釜　七代　名越弥五郎作

風炉　鬼面風炉　七代　名越弥五郎作
風炉先　腰金地風炉先屏風　奥村吉兵衛作
曳舟の画自筆　兼中斎箱書
棚　即中斎好　柱タメ真塗台子　西島実作
水指　砂張写塗　皆具の内　而妙斎箱書　漆園作
杓立　〃　〃　〃
建水　〃　〃　〃
蓋置　〃　〃　〃
火箸　南鐐椎実頭　浄益作
茶器　桔梗蒔絵大棗　而妙斎箱書　六代　川端近左作
替　阿蘭蛇莨葉紋　三代　前端春斎作
茶碗　赤鶴ノ画　而妙斎箱書　十二代　弘入造
替　黒一双の内　二代　小川長楽造
替　真葛焼　銘　四季草花　即中斎箱書　宮川香斎造
茶杓　即中斎作　銘　眉寿　同共筒箱書
菓子器　内銀朱丁之絵食篭　即中斎箱書　川端近左作
菓子　唐花菱　大丸屋製
茶　小倉山　小山園詰

莨盆　行李蓋煙草盆　助田宗明作
火入　赤茶交趾　宝袋　中村翠嵐造
莨入　小壷　ベトナム
煙管　而妙斎好　清斎作
脇床　玉杯　中国翡翠
蔦蒔絵溜塗硯箱　漆園作

三席　聖風閣

武者小路千家岩手官休会
主　西村守繁

寄付
掛物　色紙
本席
床　不徹斉筆　紅蓮云々
花入　唐金手付籠写
花　ときのもの
香合　波車蒔絵　好　松雲作
釜　南部釜　自眞造
風炉　道安　十三代　盛久造
先　利休梅
水指　細　武蔵野絵　光伸造
茶器　平菊桐蒔絵　後藤塗

茶碗　銘　起風　空権造
替　検　祥瑞写し　昭阿弥造
茶杓　閑居　冠山作
蓋置　五行　明登作
建水　唐銅　宗康造
菓子　みのり　大丸屋製
器　三島鉢写　相生焼

四席　大会議室

煎茶道三彩流岩手支部彩茗会
主　吉田望峰

寄付
床
掛幅　中国名詩選の図　馬骨子才林
盛物
本席
床　黄檗慈光
掛幅　東海福
花入　美濃伊賀　加藤健
花　ときのもの
茶具
香炉　黄交趾獅子　二代　三浦竹泉

香合　赤絵　四代　三浦竹泉
炉屏　百事大吉図　水谷光年
涼炉　黄銅鬼面　唐物
保府羅　窯変
瓶敷　竹編　雲龍斉
巾筒　青磁透風紋　三浦竹軒
茶心壺　祥瑞童子絵　五代　三浦竹泉
茶合　月放出東山上徘徊斗牛間　清風与平
茶碗　円窓山水紋　北村和善
（替）　赤地金襴手　永楽
急須　円窓山水紋　北村和善
茶托　茶の実透彫　山下喜山
水注　着彩竹林七賢人図　清風与平
水注台　古錫古陶板入　唐物
対缶盆　けやき　時代
鳥府　白竹編　和田和一斉
炉扇　瓢材　珍竹林
羽箒　鷲羽塗柄付
火箸　黄銅四方　初代　藏苑
落葉壺　ナマコ　唐物
菓子器　京漆　九代　西村彦兵衛
菓子　干菓子　山善
茶　玉露萬福　宇治古畑園

五席　新館和室

裏千家淡交会岩手南支部
主　千田宗豊

待合床　画賛　鈴木其一筆　瓢箪図
本席
床　坐忘斎家元筆　山光澄我心
花　ときのもの
花入　一重切　円能斎好在判箱　銘　月下門
香合　菊蒔絵平丸　淡々斎在判箱　利斎造
風炉先　鵬雲斎大宗匠好瑞鳳腰在判　吉兵衛造
釜　糸目茶磨形　定林造
風炉　黒道安　宗筌造
棚　淡々斎好御幸棚　鵬雲斎大宗匠在判　光春造
水指　紅葉絵口四方　坐忘斎家元箱　六兵衛造
薄器　菊蒔絵大棗　鵬雲斎大宗匠在判箱　一瓢斎造
茶杓　坐忘斎家元作　銘　峯の松風
茶碗　黒　鉢開写　鵬雲斎大宗匠箱　長入造
替　仁清写鱗絵　坐忘斎家元箱　即全造

替　萩　淡々斎箱　陶兵衛造
蓋置　鵬雲斎大宗匠好箱　南鐐瑞鳥文　敏彦造
建水　坐忘斎家元好　三盆入　清右衛門造
茶　坐忘斎家元好　関の白　一保堂詰
菓子　十三夜　水沢高千代製
器　赤絵鉢　得全造
莨盆　一閑手付　鵬雲斎大宗匠在判　表朔造
火入　織部菊花口　飛白造

《講評》　第六十七回岩手芸術祭は「輝く文化　広がる未来　絆深まる岩手の大地」をテーマに開催された。茶道部門は十月五日(日)に盛岡市中央公民館で行われました。

当日は好天に恵まれ正に茶会日和でした。茶会は表千家、茶道裏千家、江戸千家、煎茶道、武者小路千家の五席で行われ来席者は七百九十八人で多くの和服姿の女性で終日賑わいました。

茶道は、日本の伝統的な習慣を伝える精神文化として、また生活芸術として今日に近代化をとげつつその隆昌を見ることができます。当地盛岡は他県に勝る大寄せ茶会が出来る施設に恵まれ福祉茶会、月例茶会、春の盛岡芸術祭、秋の岩手芸術祭の茶会が行われ研鑽しております。今や、その成果は顕著であり今度の岩手芸術祭茶会においても各席にそれを見る事ができました。茶会は、亭主ぶりと客ぶりが共によろしく茶会が理想的に成立することを茶道では「一座建立」と称しているようです。茶の心は「茶会」という人間同士の出会いによってその真価が発揮されると思います。ここに私たちは長い歴史を持つ茶道の新しい可能性を見ると共に、その可能性を秘めた茶道の奥深さを実感し、忘れがたい「茶席」になるように更に精進していかなければならないと思います。茶道は日本独自の歴史と風土の中で培われ、私達の心と生活に深く根を下ろしています。そのしつらえや端正な点前、謙虚さや思いやりの心など高い精神性に触れることができ、四季折々の行事を通じ生活に潤いと安らぎを与えてくれる心あふれる伝統文化です。これからも茶道に情熱をもって精進し、その継承と普及活動を通じて伝統文化

▶茶道

の発展に貢献していかなければならないと思います。

（西村　守繁　記）

▽実行委員＝川村　滋・平野宗蕙

華道　華道展

（前期）十一月七日㈮・八日㈯
（後期）十一月九日㈰・十日㈪
岩手県民会館　第一・第二展示室

▽前期出瓶者

〈青山流〉工藤栄交　高橋敏雅　吉田緒美奈　中奥昇華
〈池坊〉市野川和紅　及川峯美　大川紫洋　大日向香玉　谷村里風　千葉成月　小原信峰　小原華芳　木村花風　小林翠雲　佐藤風爾　佐藤竹幸　佐藤弘竹　神　蓉園　千葉香春　高清水穂月　千田千陽　斉藤洋成　澤田裕美　田口冨月　道地碧松　藤島玉風　細田芳節　六本木風香
〈櫻花遠州流〉高橋尚美　田中尚登　大川原尚鈴
〈小原流〉佐々木光照　金　春翠　金野豊雅　武原竜波　佐々木豊月　松田萌花　三谷愛惺　藤澤豊榮　柏原豊洋　山口豊翠　小田嶋奈華　伊藤豊恵　山田華穂　小野寺昭園　今野美佳　伊東文香　山田ゆみ子　吉田華千　熊谷志保華　菊池友子　小原宏葉　河東田豊繁　鈴木豊貞　横山良子
〈花芸安達流〉菊池水瞳　真間彩夏　山本由香
〈梶井宮御流〉菊池葉貞　伊五澤弓子　舘石京月
〈古流松藤会〉山崎理恵　磯田理敏　渡邊理孝　赤沼京子
〈五明流〉北村貞恵　佐藤明子　山岸貞香　若江貞盛
〈松風花道会〉安藤槙水　古舘喜水　菊地寛水　渡辺美水　梅村康水　小野寺祥水　藤原勝水　伊藤京水　佐々木貴水
〈青山御流〉小原光衛　桂　静雅　伊山光雅　山口好雅　本川公雅　守屋和雅　小林友雅　小橋龍雅　佐々木明美　金子千鶴
〈清泉古流〉髙橋一恵　加藤一月　加藤一紀
〈草月流〉大村清陽　向井田文陽　諏訪泉陽　西川礼峯　山口晴汀　日影結晴　佐々木葉映　古澤恵峰　松尾玉静　高城芳香　阿部裕珀　鐙　久華　村松千佐江　伊藤恵芳　尾田貞舟　葛西恵理香　櫻井枝里　高橋輝水　磯部黎泉　工藤理洸　柳沼紫交　堀合琴公　吉田宏揚　中舘瑞揚
〈龍生派〉佐藤賀仙　佐々木和鳳　斉藤君恵　藤原和子　佐藤華秀　髙橋景華　出町蕉宝　大崎蕉英　佐藤玉水　小崎千水　新田潮風　髙橋華杏　伊東華水　川村鏡水　澤村志保

▽後期出瓶者

〈青山流〉石川和紅　佐藤千紅　宮本絹雅　村上千逢
〈池坊〉石川昇月　小原紫芳　菊谷華光　桑原露華　佐藤

春陽　髙橋佳光　髙橋翠風　髙橋豊嶺　田口芳秀　谷藤桂芳　千田桂花　千葉幸園　照井智光　野中泰華　八戸春水　本間愛香　村井藤月　森田朋月　山崎政華　山下恵風　相田恵草　竹田美桜　山内亮香　山影喜香
〈櫻花遠州流〉澤田尚文　熊谷尚玉　井上喜勝
〈小原流〉長沼淳子　竹林弘苑　三上律子　山谷彩風　大越映青　阿部豊翠　原瑞澄　塚本富士華　藤澤美香　伊藤峰穂　中村鴻洋　田中芦舟　島崎修華　小野寺清香　藤原沙織　菅原豊文　伊藤静香　藤村一花　大﨑緑華　佐藤翠裕　村山繚華　加賀谷豊華　戸松優湖　小山田光容
〈花芸安達流〉永野優瞳　吉田由紀子　須藤佑瞳
〈梶井宮御流〉中村素葉　伊五澤瑠京　髙橋葉雅
〈古流松藤流〉藤田理華　黒澤理智　藤田ひろみ
〈五明流〉伊東貞紫　川目貞波　村田貞陽
〈松風花道会〉遠藤郁水　髙橋季水　工藤幸水　鴨反信水　佐藤悦水　髙橋紫水　上林賀水　鈴木穂水
〈青山御流〉晴山伶雅　滝田晃雅　渡辺柳雅　三本京雅　谷藤実雅　平賀美保雅　齋藤真美雅　袖林啓雅　桐田清子
〈清泉古流〉髙橋一松　大内一優　三浦一美　金子一郁
〈草月流〉戸草内陽春　佐々木豊苑　二越馨鈴　工藤芳明　黒澤翠寿　佐藤華舟　村上翠華　外舘大華　千田芳琴　小野紫香　岡田千恵　桜庭華翠　岩舩千澄　佐藤節陽　水原香庭　伊藤千花　板垣啓秀　四ツ家玲交　中川季香　鏡栄汀　我妻遙翠　阿部真英　熊谷香艶　桑　智静　吉田草仙
〈龍生派〉沼田鳳由　佐々木公子　藤原径光　野沢澪幸　千葉麗沙　岩澤さおり　伊藤良洋　川又蕉風　晴山貞寿　髙橋松華　齋藤法美　瀬川香寿　菊池紋菜　宮　鳳秀　山本碧風　大村眞鏡

《講評》　第六十七回岩手芸術祭華道展が、「輝く文化　広がる未来　絆深まる岩手の大地」をテーマに開催されました。

前期は十一月展示室にて当会所属の十三流派の会員前後期併せて二百五十九点の個人作を展示致しました。入場者数は、千八百二十七名でした。年々充実した作品が多く、いけ花の楽しさを十分に伝える事が出来たと思います。入

▶華道

場者数には子供連れの方が例年より多く見うけられ、とても熱心に作品を見て回っておりました。日本の伝統文化が次世代へ伝えられつつある事を確信できた華道展となりました。これからも会員一同技術研鑽に励み、より良い作品を発表してまいりたいと思っております。

また、「いわて芸術文化復興エイド寄附金」箱を会場に設置して、七千四百五円を基金の方に寄附致しました。

（小原宏華）

吟詠剣詩舞道　吟詠剣詩舞道祭

十月十九日(日)　午前十時開演
岩手県民会館大ホール

第一部（幼少年・青年）

1　九月十三夜　上杉謙信　岩手岳風会
2　雨ニモマケズ　宮沢賢治
　ふるさとの山　石川啄木　陸中岳風会　一関市立油島小学校
3　月夜三叉江に舟を泛ぶ　高野蘭亭
　この里に　良寛
4　山行　杜牧
　山中月　陸中岳風会　赤荻学童クラブ
　真　山民　錦城会

第二部（一般合吟・剣詩舞）

5　室根山に登る　芦　東山　陸中岳風会
6　田原坂　佐佐友房　岩手岳風会
7　富士山　（舞）吟舞道翠紫流岩手支部　石川丈山　県総連
8　平泉懐古　（舞）吟舞菊水流菊妙会　大槻磐渓　岩手岳風会
9　武野の晴月　林　羅山　県総連
10　桜花の詞　（舞）吟舞道翠紫流岩手支部　逸名　陸中岳風会
11　無欲　（舞）吟舞菊水流菊妙会　良寛　県総連
12　武蔵野を讃う　（舞）吟舞道翠紫流岩手支部　土屋忠司　岩手朝翠会
13　大楠公　（舞）吟舞菊水流菊妙会　徳川斉昭　県総連
14　道灌蓑を借るの図に題す　（舞）吟舞菊水流菊妙会　作者不詳　県総連
15　九月十三夜　（舞）吟舞道翠紫流岩手支部　上杉謙信　陸中岳風会
16　山中の月　（舞）吟舞菊水流菊妙会　真　山民　県総連
17　富士山　（舞）吟舞道翠紫流岩手支部　石川丈山　県総連
18　平泉懐古（和歌入り）　（舞）かすみ流　大槻磐渓　県総連
19　［舞］あゝ七尾城　（舞）吟舞道翠紫流岩手支部
20　［舞］武田節　吟舞菊水流菊妙会
21　［舞］風雲川中島　かすみ流　吟舞道翠紫流岩手支部

第三部（寿の部）

22　金州城下の作　乃木希典　岩手岳風会　佐藤光岳
23　俳句二題　千代女　子規
　朝顔に　県総連　村上雄岳
　柿くへば　徳川斉昭　陸中岳風会　佐々木信風　大槻磐渓　県総連　須藤文岳
24　大楠公　瀬川雅亮　県総連
25　平泉懐古　陶潜　岩手岳風会　杜牧　源鵬吟詠会

第四部（合吟）

26　偶成
27　勧学
28　山行

29 酔うて祝融峰を下る　朱熹
30 中庸　県総連　元田東野
31 舟由良港に至る　岩手朝翠会　吉村虎太郎
　　陸中岳風会

第五部（連吟）

32 山中の月　真　山民
　　県総連矢巾教場
33 水戸八景　徳川斉昭
34 曲江　岩手岳風会　杜甫
35 橋上月に立つ　陸中岳風会　村上仏山
36 花月吟　県総連河南教場　藤野君山
37 静御前　錦城会　頼　山陽
38 祝賀の詞　岩手朝翠会　河野天籟
39 近江八景　源鵬吟詠会　大江敬香
40 富士山　県総連八雲教場　柴野栗山
41 笛を吹く　陸中岳風会　杜甫
　　岩手岳風会

第六部（推薦吟）

42 海南行　細川頼之
　　陸中岳風会　樋野樋山
43 山行　杜牧
　　岩手朝翠会　千條杏鵬
44 道灌蓑を借るの図に題す　作者不詳
　　岩手岳風会　萱場毬風
45 酒　若山牧水
　　県総連　阿部緑風
46 月夜三叉江に舟を泛ぶ　高野蘭亭
　　県総連　千葉紅風
47 母を奉じて嵐山に遊ぶ　頼　山陽
　　陸中岳風会　佐々木詠風
48 親を憶う　佐々木孝吾
　　源鵬吟詠会　岩間典鵬
49 俳句二題　一茶
　我と来て

痩蛙

『俳諧歌』

50 ともかくも　岩手岳風会　千葉正岳
　　県総連
51 行水に　一茶　花田翠山
52 降りながら　一茶　中村祥岳
53 人に逢はむ　千葉江岳
　　小野小町
54 はずかしや　金子水岳
　　一茶
　　村上王岳

第七部（実行委員独吟）

55 室根山に登る　芦　東山
　　陸中岳風会副会長　小山岳耕
56 降りながら　一茶
　　県総連福理事長　立身岳元
57 余生　良寛
　　源鵬吟詠会会長　安保榮鵬
58 酒に対す　白　居易
　　岩手朝翠会会長　伊藤語鵬
59 青春　サミュエルウルマン
　　岩手岳風会会長　津田岳養
60 廬山の瀑布を望む　李白
　　陸中岳風会会長　佐藤岳伸
61 菊花　白　居易
　　県総連理事長　三澤岳欣

《講評》　第二十一回岩手県吟詠剣詩舞道祭は、平成二十六年十月十九日（日曜日）、岩手県民会館大ホールにて入場者数 九百十二人（会員八百二十人・幼少年三十二人・一般六十人）で盛大に行われた。

午前十時の開会式は、国旗・芸術祭旗への修礼で始まり、会場全員の国家斉唱と開会の辞（佐藤岳伸副実行委員長）、主催者挨拶（三澤岳欣実行委員会長）に引き続き、参加者全員により「朗詠」（陸中岳風会　中村岳雲先導）の大合吟がホールに響き、続いて今上天皇の御製謹詠が（三澤岳欣実行委員長）行われ、吟詠発表に移った。

第一部の幼少年の部では、岩手岳風会姉妹の「九月十三夜　上杉謙信作」を先頭に油島小学校児童の「雨ニモマケズ　宮沢賢治作」「ふるさとの山　石川啄木作」の合吟、さらに赤荻学童クラブの「月夜三叉江に舟を泛ぶ　高野蘭亭作」「この里に　良寛作」合吟と飯島日和さんの「山行　杜

牧作」独吟、更に錦城会姉妹の「山中月　真山民作」の合吟が続き吟詠会の将来を担うであろう子供達に満場惜しみない拍手を送った。

第二部の一般吟詠・詩舞では、吟詠六団体と詩舞三団体による共演十七題、この内の伴奏の定番、琴・尺八無しのテープによる剣詩舞の三題は会場の話題をさらった。

第三部の寿の部では、齢八十五歳から九十三歳に及ぶ壮者を凌ぐ吟詠に、会場の聴衆は皆かく在りたいと、感嘆しきりの状態であった。

第四部は昼食後開始され、参加吟詠六団体による八人から十一人構成の合吟が披露された。いずれも各団体の面目をかけた、素晴らしい吟詠であった。

第五部は参加吟詠六団体による、詩文を三人で分けて吟ずる連吟で十題が発表され、息の合った吟詠に連吟の醍醐味を感じさせた。

第六部は参加吟詠六団体推薦吟者による独吟で、漢詩・俳句・俳諧歌が十三題披露された。特に俳諧歌は、最近の吟詠発表では目玉の吟題となっている。

第七部は今回の吟剣詩舞道祭開催に当たり、終始尽力された参加吟詠団体の代表者が、実行委員として独吟を披露した。

閉会式は伊藤語鵬副実行委員長の閉会の辞と菅原水成副実行委員長の万歳三唱で、来年の第二十二回吟詠剣詩舞道祭での再会を誓いあった。

今回の吟詠剣詩舞道祭についての感想を記す。

全体としての参加人員は昨年より減少しており、一般参加者も同じ傾向である。

詩吟に対する一般市民の関心は、日本の伝統芸術（琴・尺八・三味線・笛）でも同じような状況にあると言われている。幼少年の子供達が毎年出吟しているのは、大変心強いことである。でき得れば学校教育の一環として、日本古来の伝統芸能を教育の場で行なえれば幸いである。今回は残念ながら中高生や青年の出吟が少なく、検討すべき課題と言える。また、吟詠と剣舞は切り離せられない存在となっているが、和樂の笛や三味線などとの共演も一考の余地があると思われる。

（運営役員　阿部昭岳　記）

▶吟詠剣舞道

音　楽

合唱　**合唱祭**　十二月七日(日)　十二時半開演
岩手県民会館大ホール

プログラム

オープニングの合唱（出演者全員）

指　揮　滝沢　三郎
ピアノ　藤原久美子

混声合唱のための組曲「蔵王」から早春

曲　佐藤　眞
詞　尾崎左永子

1　女声合唱団　コールパレッタ（盛岡市・女声21名）

指　揮　伊藤　哲也
ピアノ　中村　安里

信じる

詞　谷川俊太郎
曲　松下　耕

ぜんぶ

詞　さくらももこ
曲　相澤　直人

2　岩手県立大学混声合唱団（滝沢市・混声25名）

指　揮　髙橋　信子
ピアノ　齋藤久実子

混声合唱組曲「アポロンの竪琴」から

曲　千原　英喜

1　竪琴弾きの歌
2　アポロンの竪琴
3　酔いどれ船乗りのカンツォネッタ

詞　宮沢　賢治
詞　みなづきみのり

3　女声合唱団しらうめ（盛岡市・女声13名）

指　揮　小濱　和子

無伴奏女声合唱曲集「なみだうた」から

曲　信長　貴富

2　涙の樹（青木景子）
3　なみだ（松本可奈子）
4　なみだうた（谷川俊太郎）

4　矢巾町立徳田小学校（矢巾町・29名）

指　揮　松本　毅
ピアノ　山根　大輔

スタートライン

詞　菅原　英子
曲　富澤　裕

With You Smile

詞　水本　誠・英美
曲　水本　誠

5　男声合唱団　松園シルバーダックス（盛岡市・男声20名）

指　揮　滝沢　三郎

ふるさとの　詞　石川　啄木
曲　庄司　光郎
補作　篠田　守弘
ともしび　ロシア民謡
編曲　滝沢　三郎
組曲「月光とピエロ」から　詞　堀口　大学
Ⅱ　秋のピエロ　曲　清水　脩

6　女声合唱　コーロ・シュプール（盛岡市・女声11名）
指揮　澤村　憲照
ピアノ　櫻野　杏里
同声合唱曲集「立ち止まって」から　詞　星野　富弘
曲　なかにしあかね
青梅
鳥の宅配便屋さん
立ち止まって

7　男声合唱団響流はなまき（花巻市・男声14名）
指揮　尾形　英夫
ピアノ　瀬川　康子
婆やのお家　詞　林　柳波
曲　本居　長世
家路の歌　詞　武井つたひ
曲　平井康三郎
小さい秋みつけた　詞　サトウ・ハチロー
曲　中田　喜直
編曲　菊川　迪夫

8　カシオペア連邦合唱連盟（二戸市・混声35名）
指揮　高橋　幹子
ピアノ　藤村　裕子
ローレライ　詞　H.Heine
曲　F.Silcher
訳詞　近藤　朔風
編曲　生田　美子
サンタルチア　ナポリ民謡
訳詞　堀内　敬三
編曲　生田　美子
椰子の実　詞　島崎　藤村
曲　大中　寅二
編曲　源田俊一郎

9　北上・コーラスせせらぎ（北上市・女声19名）
指揮　松田　順子
ピアノ　伊藤　礼恵
「聖母マリアの交唱」　グレゴリオ聖歌

Alma Redemptoris Mater　曲　萩原　英彦
「萩原英彦十五の小品集」から　詞　こわせたまみ
ちいさなこもりうた
つきのなか　詞　佐藤　義美
クリスマスのよるだから　詞　内藤　苑子

10　都南混声合唱団（盛岡市・混声51名）
指揮　大橋文四郎
ピアノ　藤原　博子
恋人よ　詞／曲　五輪　真弓
編曲　加藤　學
ふるさとの山に向ひて　詞　石川　啄木
曲　新井　満
編曲　大田　桜子

11　矢巾町立矢巾北中学校（矢巾町・同声22名）
指揮　山口　浩子
ピアノ　菊池　真央
Angelus　曲　Josu ELBERDIN
Hail Holy Queen　Traditional

12　合唱団Believe（花巻市・混声21名）
指揮　太田代政男
ピアノ　池田　好典
子等を思ふ歌　詞　山上　憶良
Hand in Hand　曲　信時　潔
詞　花巻市桜台小学校「桜台学童クラブ」児童・保護者他・清心
曲　清心

13　アンサンブルガリーナ（宮古市・女声16名）
指揮　阿部　亮子
ピアノ　金野　侑
ぶんぶんぶん　ボヘミア民謡
詞　村野　四郎
曲　坪野　春枝
Canta lo cuco（カッコウが鳴いている）
曲　M.Pordenon
道化師のソネット　詞／曲　さだまさし
編曲　松下　耕

14　混声合唱団北声会（盛岡市・混声25名）
指揮　山田　靖了
ピアノ　佐々木千夏
卒業写真　詞／曲　新井　由美
編曲　加藤　學
混声合唱とピアノのための流行歌メドレー
「君に会うれしさの」から

船頭小唄　編曲　寺島　陸也
君恋し　詞　野口　雨情　曲　中山　晋平
東京音頭　詞　時雨　音羽　曲　佐々　紅華
国境の町　詞　西条　八十　曲　中山　晋平
忘れちゃいやよ　詞　大木　惇夫　曲　阿部　武雄
椰子の実　曲　細田　義勝　詞　島崎　藤村　曲　大中　寅二

15　コーラスななしぐれ（八幡平市・女声14名）
指揮　星　慶哉　ピアノ　小笠原　史
くちなしの花　詞　籔田　義雄　曲　平井康三郎
「六段」幻想曲　詞　凡河内躬恒　曲　平井康三郎

16　Ａｕｒａｏｖａ（盛岡市・混声28名）
指揮　伊藤　哲也　ピアノ　名須川明子
混声合唱組曲「ひとつの朝」から　詞　片岡　輝　曲　平吉　毅州
時の狩人
ひとつの朝

17　男声合唱団コールＭ（盛岡市・男声20名）
指揮　太田代政男
宮城県民謡　編曲　竹花　秀昭
斎太朗節　岩手県民謡　曲　清水　脩
牛追い唄

18　混声合唱団アミューズ（奥州市・混声22名）
指揮　高野　司　ピアノ　佐藤　寛子
風立ちぬ　詞　松本　隆　曲　大滝　詠一
熱き心に　編曲　高野　司　詞　阿久　悠　曲　大滝　詠一
さらばシベリア鉄道　編曲　高野　司　詞　松本　隆　曲　佐藤　眞

曲　大滝　詠一　編曲　高野　司

19　女声合唱団　花野（花巻市・女声26名）
指揮　松田　順子　ピアノ　小笠原宜子
「木下牧子女声合唱曲選」から　曲　木下　牧子
小譚詩　詞　立原　道造
夢　詞　吉行　理恵
「光のとおりみち」から
雪の窓辺で　詞　薩摩　忠　曲　三善　晃

20　盛岡コメット混声合唱団（盛岡市・混声30名）
指揮　松田　晃　ピアノ　雫石　環
生きる　詞　谷川俊太郎　曲　なかにしあかね
逢いたい　詞　星野　富弘　曲　なかにしあかね

フィナーレの合唱（出演者全員）
指揮　髙橋　信子　ピアノ　齋藤久実子
大地讃頌　詞　大木　惇夫　曲　佐藤　眞
会場のみなさまとともに
ふるさと

《講評》　十二月七日、岩手合唱界の初冬を彩る岩手芸術祭『合唱祭』が開催された。盛岡市と県内他地域を1年毎に交代して催されている合唱祭。今年は岩手県民会館を会場とし、地元盛岡市はもとより県南、県北、沿岸部からの二十二団体、約四百六十名が参加した。

合唱祭は、ステージと客席に分かれた出演者全員による「早春」の演奏で高らかに幕を開けた。

団体毎の演奏では、外国宗教作品から邦人合唱作品、さらにはポピュラーミュージックまでバラエティーに富んだ曲目が取り上げられ、また、カラフルな衣装や打楽器、さらには動きの演出を加えるなど、各団体の特色が現れた充実した演奏が続き、会場は豊かな音楽で満たされた。

修学旅行シーズンと重なったこともあり高等学校の参加はなかったものの、小中学校では矢巾町から徳田小学校、矢巾北中学校の二校が出演。徳田小学校は生き生きとした表情で伸びやかに二曲を歌い上げ、また、矢巾北中学校は高い技術に裏打ちされた透明感溢れる女声合唱

を響かせ、会場から大きな拍手が送られた。

沿岸部の宮古市から出演したアンサンブルガリーナは、震災を乗り越えて活動する中、無伴奏合唱にも真摯に取り組み、清らかなアンサンブルを披露した。

また、松園シルバーダックス、コールM（いずれも盛岡市）、響流はなまき（花巻市）の三団体は、いずれもベテラン世代を中心とした力強く、深々とした男声合唱で聴衆を魅了した。

最後に毎年恒例の「大地讃頌」、そして聴衆も共に歌う「ふるさと」の大合唱で、合唱祭は充実のうちに幕を閉じた。

終了後には、出演団体の代表と講師を交えての合評会が行われ、出演者はそれぞれの演奏の感想や今後のさらなる向上のためのアドバイスなどを交わし合った。また、自らの団体の団員数の減少や高齢化など、活動に伴う日頃の苦労話などの情報交換も行われ、リラックスした雰囲気の中、合唱を愛する仲間同士の交流を深めるひとときともなった。

◀合唱

（岩手県合唱連盟副理事長　黒川俊之）

声楽　**岩手芸術祭声楽部門演奏会**

シュトラウス　フォーレ　日本歌曲撰

十一月八日㈯　午後二時開演

岩手県民会館中ホール

1　Gabriel Fauré（1845-1924）ガブリエル・フォーレ

Pf.内堀　朋子

1　Après un rêve　夢のあとに　山口　剛

2　Nell　ネル　昆野　聡朗

3　La chanson du pêcheur　漁師の歌　門脇　次郎

4　Fleure jutée　捨てられた花　谷藤ひろ美

5　Pleure d'or　黄金の涙　二重唱　丸岡千奈美&小坂　博

2　Richard Strauss（1864-1949）

リヒャルト・シュトアウス　Pf.斎藤久実子

1　Die Zeitlose　イヌサフラン　花下　美起

2　Morgen!　あした！　花下　美起

3　Die Nacht　夜　新田　順子

4　Ich trage meine Minne　愛を抱いて　新田　順子

5　An die Nacht　夜に　奥崎由樹子

6　Allerseelen　万霊節　荻原美智子

7　Zueignung　献呈　黒澤　里美

Pf.天野　正子

3　公募出演者による演奏

○小山田はゆ（ソプラノ）　Pf.生平　裕司

・オラトリオ〝メサイア〟より

How beautiful are feet of them

ああ　麗しいかな、良き訪れを告げる者の足は

（G.F.ヘンデル作曲）

・オペラ〝シャモニーのリンダ〟より

Oluce di quest' anima　私の心の光

（G.ドニゼッティ作曲）

○坂下　良太（テノール）

・La luna　月　（P.マスカーニ作曲）

・コンサートアリアKV420

Per pieta non ricercate　願わくは問いたもうな

（W.A.モーツアルト作曲）

○菊池　葉子（メゾソプラノ）　Pf.山口　麻衣

・さくら横ちょう　（加藤周一作詞　中田喜直作曲）

・オペラ〝ウエルエル〟より

Air des letters　手紙の歌　（J.マスネ作曲）

○森田　純司（テノール）　Pf.平井　良子

・オペラ〝セルセ〟より

Ombra mai fu なつかしい木陰よ（G.F.ヘンデル作曲）

・落葉松　（野上　彰作詞　小林秀雄作曲）

4　日本歌曲をたどって　その6　日本歌曲撰

Pf.櫻野　杏里

・城ヶ島の雨　小坂　博

・かやの木　小坂　博

・君がため織る綾錦　谷藤ひろ美

・たたへよ、しらべよ、歌ひつれよ　谷藤ひろ美

・平城山　駒木美和子

・丹澤　萩原美智子

・ふるさとの空　山口　剛

・みぞれに寄する愛の歌　Pf.天野　正子

・霧と話した　黒澤　里美

・くちなし　駒木美和子

門脇　次郎

・くじらの子守唄　昆野　聡朗
・風が囁くとき　奥崎由樹子
・ひとつのレモン　奥崎由樹子

《講評》　一では、没後九十年となるフランスの作曲家ガブリエル・フォーレの作品を五曲。男性会員には初のフランス歌曲となり、発音と格闘しつつも、情感豊かな詩と音楽に自然に引き込まれた演奏であった。

二では、生誕百八十年となるドイツの作曲家・指揮者リヒャルト・シュトラウスの作品を七曲。華やかさ、重厚さ、明るさと暗さを合わせ持つシュトラウスの世界を表現すべく、ピアノとともに真剣に取り組んだ演奏であった。

三では、四名の公募の方の演奏。小山田はゆさんは盛岡市出身。国立音楽大学から洗足学園大学大学院在学中。坂下良太さんは九戸出身。八戸聖ウルスラ学院高校から東京芸術大学を卒業し活動中。菊池葉子さんは奥州市出身。岩手大学、大学院を卒業し、小学校勤務をしながら活動中。森田純司さんは秋田県大曲市出身。盛岡在住で越谷達之助作曲の「啄木歌曲」全曲演奏を目指し活動中。各々、ご自分の歌の世界を披露され、今後の活躍が楽しみである。

四では、日本歌曲をたどってその六、日本歌曲撰とし、年代順に取り上げた。耳に馴染みある曲から現代の作品を、思いを込めて演奏した。最後に会場の皆様とメンデルスゾーン作曲「歌のつばさ」を歌い幕とした。

今年は四名の公募の方を迎え、多彩なプログラムとなりお客様も昨年より多く、おかげ様で活気のある演奏会であった。これからも一歩一歩研鑽を積んでいきたい。

（丸岡千奈美）

弦楽　**ソロと室内楽の調べ**　十月五日(日)　午後二時開演
岩手県民会館中ホール

第一部　ヴァイオリン独奏

スペイン交響曲二短調Op.21第一楽章 ……ラロ　加藤　紗英
ピアノ　虫壁めぐみ

ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64第一楽章　メンデルスゾーン
第二楽章
第三楽章　工藤　崇
ピアノ　関　朝子

クロイツェルソナタ第9番イ長調Op.47第一楽章　ベートーヴェン
伊禮しおり
ピアノ　山陰　義史

第二部　弦楽合奏

～国民文化祭に出演するスプリングハーモニージュニアオーケストラのメンバーと共に～

セントポール組曲……ホルスト
シンプルシンフォニー……ブリテン

指揮　野崎　明裕
Vn　細川　萌　加藤　紗英　工藤　俊作
山崎　詩織　藤島　百花　村山　美羽
髙橋　悠弥　丸山　周　井原　梢
菊池　敏文（以上国民文化祭参加）
亀谷由美子　斉藤　佐織　馬場　雅美
米倉　久美　渡辺めぐみ
Va　今井なつみ　菊池　昭子　藤田　真帆
藤澤　英子
Vc　大澤　曜子　加藤　眸　千田　裕子
千田　幸弘　塙　伸比古
Cb　小林　照雄（東京交響楽団）

《講評》　今年の「ソロと室内楽の調べ」は、第一部では三名によるヴィオリン独奏、第二部では、会員、学生、県内在住音楽愛好者による弦楽合奏だった。

第一部は、盛岡市立緑ヶ丘小学校六年の加藤紗英によるラロ作曲スペイン交響曲第一楽章、異国情緒あふれる旋律を伸び伸びと演奏した。桐朋学園大学音楽学部研究科二年の工藤崇はメンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲を演奏した。注目すべきは全楽章を通して演奏したことである。大曲に向かう意気込みを感じた。演奏は細やかで繊細、聞

きごたえのある演奏だった。弦楽研究会会員の伊禮しおりはベートーベン作曲クロイツェルソナタ第9番第一楽章を演奏した。

第二部はホルスト作曲セントポール組曲、ブリテン作曲シンプルシンフォニーの二曲を演奏した。今年は国民文化祭に出演するスプリングハーモニージュニアオーケストラのメンバー十名も加わり、弦楽研究会会員七名、県内在住弦楽器愛好者七名、東京交響楽団コントラバス奏者小林照雄さんをゲストに迎え総勢二十五名で息の合った演奏で聴衆を楽しませた。

今年の演奏会もこれからの発展が大いに期待できる演奏会であった。

（田口博子）

◀弦楽

三曲

三曲演奏会

十月十二日(日)　午後一時半開演
岩手県民会館大ホール

都山流　鶯韻社・県南支部　生田流

花紅葉　桜　居女　作詞　宮城道雄　作曲

箏	佐々木正子　加藤　睦　伊東　勝子
	佐藤　祥子　須藤はま子　榊原　満
	及川　博子　後藤　正子　大泉　由香
	佐藤　公子　渡辺つる代
三絃	坂本　知子　高橋　宣子　岩渕　律子
	青木　槙子　東海林みや　千葉　甲子
	坂本シゲ子　佐藤江理子
	高橋テルミ　吉田久仁子　小野寺辰子
尺八	細川剣丈山　伊藤　衡山　立野　呈山
	千田　聡山　及川　瞑山　小野寺項山
	六串　観山　小野　典山

琴古流　童門会・生田流　雅玄会

御山獅子　竹中墨子　作詞　菊岡検校　作曲

尺八	鈴木　星童　吉田　斗童　安達　嘉男
三絃	細田　雅邦

箏	加藤　雅道

琴古流　竹友社・山田流　船越喜実乃社中

岡康砧　作詞者・作曲者不詳　今井慶松　編曲

尺八	高橋　竹朋　佐藤　竹園
箏低音	船越喜実乃
箏高音	畑中　央子　菊地佐代樹　熊谷佐代規
	福士　史恵
三絃	粟津佐紀枝

都山流　岩手県支部

本曲　平和の山河　流祖　中尾都山　作曲

一部	細川剣丈山　及川　政山　伊藤　衡山
	及川　瞑山　菊池　穂山　立野　呈山
	菊池　捷山　遠山　天山　丑舘　統山
	吉田　洋山　村井　堆山　六串　観山
	高橋　院鵬　伊藤　大楽
二部	千葉　大山　地紙　鶯山　千田　聡山
	小野寺項山　國分　憬山　藤平　恢山
	遊佐　路山　照井　我山　佐々木樫山
	佐藤　秋山　工藤　盛山　小野　典山
	小野寺鶯峰

生田流　佐藤美穂子社中・琴古流

みだれ　八橋検校　作曲

箏（雲井）	帷子　淳子　合田美代子　吉田　雪枝
箏本手	佐藤美穂子　欠端英美子　佐藤貴美子
	一ノ渡律子　加納　鈴子
尺八	玉山　竹乗　田山　竹庸　澤田　興司
	佐藤　明男

生田流　土居綾子社中・都山流

遠砧　磯部艶子　作詞　宮城道雄　作曲

箏本手	佐々木正子　山崎　京子　下斗米トシ子
	加藤　睦　伊東　勝子　夏井　明美
	須藤はま子　及川　博子　後藤　正子
	神山　敏子
箏替手	熊谷　由恵　藤原　珠久　外舘　敬子
	佐藤　祥子　大泉　由香　川代美智子
三絃	坂本　知子　高橋　宣子　岩渕　律子
	青木　槙子　東海林みや　千葉　甲子
	坂本シゲ子　佐藤江里子　大清水健治
尺八	伊藤　衡山　立野　呈山　菊池　捷山
	國分　憬山　村井　堆山　小野寺鶯峰

山田流　船越喜実乃社中・琴古流

冊子の雪　石川潭月　作詞　二代　上原真佐喜　作曲

箏	船越喜実乃　粟津佐紀枝　畑中　央子
尺八	石川　戡　佐藤　政孝

生田流　佐藤叡子社中

世界名曲集

一箏　遠田　敏子
二箏　佐藤　叡子　片岡　明美
三箏　阿部　菊子　畠山知恵子
十七絃　吉田　コウ

生田流　菊池玉悦社中

秘倭

一箏　菊池　玉悦　藤原玉悦美　平野玉悦光
二箏　戸塚玉悦淑茂　川村玉悦周栄　佐藤玉悦美奈
川村　佳子
十七絃　木村玉悦枝

吉崎克彦　作曲

釜石支部　生田流・高橋雅道社中

箏二重奏曲　風の色　水野利彦　作曲

一箏　高橋　雅道　阿部美和子
二箏　佐々木ひろみ　臼澤　直子

生田流　松坂尚子社中

茶音頭

横井也有作詞より　菊岡検校　作曲　八重崎検校　箏手付
箏　藤澤　久子　及川実沙子　武田　穂佳
中島　琴音
三絃　小原　京子　高橋　京子　内村　明
高橋　秋美　横山　彩子　大澤　信子
木下　フサ　鈴木　敏枝　小笠原美知子
大山　幸子　松坂　尚子

県南支部　山田流

朴澤清梅志社中・新都山流

ほととぎす　加藤千蔭　作詞　上田検校　作曲

箏　朴澤清梅志　菊池真由子　菅崎　香織
尺八　千葉　皐山

会員有志

八重奏曲「SAKURA（さくら）」　水川寿也　作曲

一箏　船越喜実乃　藤原　珠久
二箏　佐藤美穂子　吉田　コウ
三箏　粟津佐紀枝　阿部　菊子
十七絃　遠田　敏子　帷子　淳子
三絃Ⅰ　細田　雅邦
三絃Ⅱ　大清水健治
尺八Ⅰ　遠山　天山
尺八Ⅱ　藤平　恢山

《講評》　昨年の創立七十周年記念演奏家につづいての芸術祭とあって、聴衆もできるだけ多くと事前から特に力を

入れて本番を迎えた。

歌詞に沿った曲は、新曲三、古曲五曲に、現代曲を含め、十三曲でのプログラムは、変化に富み、特に演奏しながら謳う伝統的な古曲が五曲を数えたことは、七十年の脈々とした伝統の力を感じさせて、大変心強かった。

一「花紅葉（はなもみじ）」は、最古参の土居社中が県南支部から、三絃十一、箏十一という編成で、唄をしっかりと聴かせて開幕を飾り、県下最大の支部の力量を十二分に発揮した。

昨年の遷宮に因んで演奏された、二「御山獅子（みやまじし）」は、伊勢神宮の四季を格調高く歌い上げた。三「岡康砧」は低音箏と三絃で現代にも通じる趣を聴かせた。四「平成の山河」は、尺八二十七管の二部合奏を会場いっぱいに響かせた。五「みだれ」は演奏者による個性的な雰囲気を作り上げた。土居綾子社中、六「遠砧」、特に明瞭な歌で盛り上げ、爽やかな演奏だった。七「冊子（そうし）の雪」は、「枕草子」にちなんだ独特の曲調で、耳を楽しませた。八「世界名曲集」は、六十年も以前の編曲で、曲そのものよりも当時洋楽の刺激を受けたと思われる和音構成に、往時をしのび興味がもたれた。続く九「秘倭（ひわ）」、十「風の色」はいわゆる現代曲。伝統楽器「箏」の聴き馴れた音色や奏法と異なって、耳新しい演奏は将来に向けての新しい空気をしのばせ聴衆を魅了した。久方ぶりに出演の松坂社中、十一「茶音頭」は、三絃十一、箏四の編成。調弦・歌をはじめ、ばち捌き隅々にいたるまで、行き届いた指導のほどがくみとれる素晴らしい演奏だった。十二「ほととぎす」は歌を大事に聴かせたいところ。転調で音程が不安定になるなど、今後に期待したい。十三「八重奏曲SAKURA」にチャレンジしたのは、仲間同士の切磋琢磨で腕を磨こうとする、会員の若手有志の面々。複雑そうに思える各パート間の意気もぴったりで、プログラム最後を飾るにふさわしい意気込みが感じられる熱演だった。総じて、歌詞を明瞭に歌うこと、尺八で連管のピッチを確かなものにすること、メリ音には特に研鑽を積んでほしい。

（水原月堂記）

▶三曲

吹奏楽

吹奏楽演奏会　十一月二十四日(月)(祝)　午後二時開演
盛岡市民文化ホール大ホール

Ⅰ

行進曲「躍進」　岩井直溥　作曲
シンコペーテッド・マーチ「明日に向って」　岩井直溥　作曲
ポップス・オーバーチュア「未来への展開」　岩井直溥　作曲
ポップス描写曲「メイン・ストリートで」　岩井直溥　作曲
ポップス変奏曲「かぞえうた」　岩井直溥　作曲
ポップス・マーチ「すてきな日々」　岩井直溥　作曲
復興への序曲「夢の明日に」　岩井直溥　作曲

Ⅱ

「まほろばへの階段」～静寂の中の鼓動～
ボレロ
黒い瞳
ラバー・カムバック・トゥーミー
ＬＯＶＥ
ボディ・アンド・ソウル
酒とバラの日々

《講評》　今回の定期演奏会は例年通りではなく、昨年五月に三十七年間連続でおいでいただいた客演指導者の作編曲家の岩井直博先生が九十才でお亡くなりになり、その追悼としての演奏会となりました。演奏会の曲目は全曲岩井先生の作品で揃えました。昭和五十二年からの定期演奏会での想い出の中より選曲し、ゲストに岩井先生ともゆかりのあります東京佼成ウインドオーケストラのコンサートマスター田中靖人さんのサックスで演奏会を盛り上げていただきました。

第一部は岩井先生の吹奏楽コンクール課題曲の中より最初の作品の「明日に向かって」昭和四十八年に始まり平成二十五年の作品まで全六曲を演奏致しました。音楽監督の建部さんや団員の中にもその当時演奏した者もおりとても懐かしいステージとなりました。

◀吹奏楽

第二部はいつものポップスステージ通りで華やかなステージを目指しました。岩井先生は暗いイメージがお嫌いで、寂しい事もお嫌いでしたので、団員一同で明るく華やかにを合言葉にポップスを構成致しました。

今回の定期演奏会は岩井先生との沢山のすてきな日々を想い出しながら団員全員で岩井先生とともに作りだせた演奏会でした。盛岡吹奏楽団は今後も建部音楽監督とともに岩井先生の教えを継承しながら工夫努力に努めて行きたいと考えております。

今年は定期演奏会も四十七回目、団もあと三年で創立五十年となります。半世紀近くに渡る活動にふさわしいものにする為に今後も精進致します。

（安倍一洋）

ピアノ

ピアノコンクール&演奏会　十月十八日(土)
ジュニアの部　午後三時開演
一般の部　午後五時開演
岩手県民会館中ホール

ジュニアの部

1　エリーゼのために　ベートーヴェン　貫洞　佑奈
2　フーガ　ヘ長調　テレマン　佐々木響子
3　マズルカ　ト短調　Op.67-2　ショパン　佐山日向子
4　ロンド　ニ長調　KV.485　モーツァルト　昆　奏恵
5　ワルツ　第一番　変ホ長調　Op.18　ショパン「華麗なる大円舞曲」　高澤　久遠
6　ワルツ　エチュード　ギロック　中村　天音
7　ルーマニア民族舞曲　Sz56　バルトーク　齋藤　佳乃
8　ソナタ　ニ長調　Hob.XVI/33　第一楽章　ハイドン　矢野　真波
9　ピアノのためにより「プレリュード」ドビュッシー
10　ソナタ　第八番　ハ短調　Op.13「悲愴」　佐山日向子
　　ベートーヴェン　第一・第三楽章
　　6つの小品　Op.118より　ブラームス
　　第二番「間奏曲」　第三番「バラード」　田村　真歩
　　ソナタ　第三番　イ短調　Op.28　プロコフィエフ　佐藤　陽十

招待演奏　第30回岩手県ピアノ演奏検定試験
成績優秀者演奏・オリジナルプログラム
シンフォニア　第二番　BWV788　ハ短調　バッハ
ソナタ　第四番　変ホ長調　Op.7　ベートーヴェン
第一楽章　佐藤　南美
ソナタ　第七番　変ロ長調　Op.83　プロコフィエフ

第二・第三楽章　　橋本　健太

一般の部

演奏部門

・映像第一集より「水の反映」　ドビュッシー　勝文子亜耶
・メフィスト・ワルツ　第一番　リスト　藤田　亜希

コンクール部門

・幻想曲　ロ短調　Op.28　スクリャービン　小井土文哉
・ソナチネ　ラヴェル　佐々木真里奈
・前奏曲　Op.3-2, Op.32-12　ラフマニノフ　鳥居　紗季

第66回岩手芸術祭ピアノコンクール第一位「芸術祭賞」受賞者演奏

・ソナタ　第二番　変ロ短調「葬送」Op.35　ショパン　菊池　栞

《講評》　出演者　ジュニア部門十名、一般　コンクール部門三名　演奏部門二名　その他　平成二十五年度岩手県ピアノ演奏検定試験成績優秀者招待演奏二名　第六十六回岩手芸術祭ピアノ部門ピアノコンクール第一位芸術祭賞受賞者招待演奏一名　審査員はピアニストの林　苑子・佐々木　素・赤松林太郎の三氏。ジュニア部門は県内の小・中高生が、日頃の成果を発揮すべく熱演を繰り広げました。年々定着しつつあり、今年度は年齢が高くなるにつれて実力を発揮し、レヴェルの高い個性あふれる演奏をするお子さんが目立ちました。

このジュニア部門のメリットは、各出演者の演奏に対して、一般部門の審査員よりコメントを頂けることにあります。一般部門は演奏部門及びコンクール部門に分かれ、県内在住及び県内出身者の十八才以上の方を対象に広く募集をし、今年度は演奏部門に二名、コンクール部門に三名の方がエントリーされました。中でもコンクール部門は応募者こそ少ないですが、非常に芸術的でレヴェルの高い演奏を聴かせてくれました。出演を希望されていて直前に体調を崩された方がいたのは非常に残念なことでした。

厳正なる審査の結果、第一位芸術祭賞・小井土文哉さん、第二位優秀賞は該当無し、第三位奨励賞には鳥居紗季さんが決まりました。

ピアノコンクールと名

◀ピアノ

がつくと敷居が高くなり、一番練習量の多い現役の学生が応募する傾向が多くなりますが、一般社会人として活躍している方々や主婦の方々も参加出来るように来年度は演奏部門の充実を計ると共に、出演者が増えれば自ずと聴衆も増えると思いますので、多方面に渡ってアピールをし、大勢の方に聴いて頂けるように努力したいと思います。

今回は出演者が少ないのにも拘らず多くの方々に聴いて頂きスタッフ一同心から感謝致しております。

（滝沢昭子）

ギター

ギター音楽の夕べ

十一月二十二日㈯　午後五時三十分開演
岩手県民会館中ホール

第一部

独奏

きらきら星のへんしん……フランス民謡　井上　寛永
マリア・ルイサ……J.S.サグレラス　吉見　利子
テネシーワルツ……R.スチュワート　畠中登紀子
夜空ノムコウ……スガシカオ　作山　祐子
この道……J.サビオ　八重樫禎子
愛の歌……G.メルツ　勝又さつき
エナジー・フロー……坂本龍一　佐藤　典子
パッサカリア……R.ビゼー　阿部和佳奈
PODEMICO……J.ペルナンブコ　草岡　寧々
大聖堂……A.バリオス　田村　一真

フラメンコ研究会

ペルニーニョ……ペルー民謡　眞下　尚重

二重奏

プレリュード・フーガ……J.S.バッハ　1st 上野　聖二
2nd 中尾　正昭
オブリビオン……A.ピアソラ　1st 齋藤　忠孝
2nd 三浦　晃可

第二部

合奏

あまちゃんオープニングテーマ…大友良英
Passion……ジプシーキングス
ルナ・ディ・フェゴ
小雨降る径……H.Himmel　響きの会
情熱大陸……葉加瀬太郎
フォーラギターアンサンブル
メヌエット・ブーレ・アリオーソ…J.S.バッハ
ブレイビスギターアンサンブル
東風 -tong poo-……坂本龍一 GEEPs（ジープス）

華麗なる大円舞曲……F.F.ショパン
岩手大学ギターアンサンブル　指揮　蛯名　聖明

第三部

独奏

ロミオとジュリエット……ニーノ・ロータ　佐藤　優
パッサカリア……S.L. バイス　上野　聖二
月光……F.ソル
ベニスの舟唄……F.メンデルスゾーン　菊池　静男
ゴヤの美女……F.グラナドス　橋本　博行
アルハンブラの想い出……F.タレガ　樋口　知志
マドローニョス……M.トローバ　三浦　晃可
プレリュード……J.S.バッハ　菊地眞一郎
フェルシダーシ……A.C.ジョビン　大森　圭一
ギターのためのソナタより…N.パガニーニ　望月　麻千

《講評》　第六十七回岩手芸術祭参加「第三十八回ギター音楽の夕べ」は、独奏者十九名（うちフラメンコ一名）、二重奏二組、合奏六団体の参加の下、平成二十六年十一月二十二日、県民会館中ホールにて行われた。聴衆数は約二百名、出演者数は七十四名であった。

第一部は井上寛永のきらきら星のへんしんの独奏で幕を開け、フラメンコの独奏・二重奏と第二部のキター合奏をはさみ、第三部の望月麻千のソナタの演奏で幕を閉じた。

今年のプログラム構成の中で、第一部田村一真の大聖堂の独奏の他、フラメンコ研究会眞下尚重のペルニーニョ、第二部フォーラギターアンサンブルの情熱大陸と岩手大学ギターアンサンブルの華麗なる大円舞曲、そして第三部三浦晃可のマドローニョス、大森圭一のフェルシダーシの演奏が印象に残った。

今回も小学生から老若男女の成人までの方々の独奏・合奏による多彩な演奏が展開され、楽しい一時を過ごさせて頂いた。

（文責　佐藤　匡）

▽実行委員
＝佐藤勝政・小塚保男

◀ギター

舞　踊

洋舞　**雫石ダンススタジオ　モダンダンス公演**

平成二十六年十一月二日(日)　午後四時開演
岩手県民会館大ホール

第一部「アンソロジー」

一　あなたへの手紙　千葉結心・大庭桜子・菊地亮人・沼野友香・藤田優愛・小林希香・細川花凛・千葉彩芽・羽上華乃子・宮腰　茜・藤原優珠・桜糀璃子・嵯峨歩唯夢・三輪初音・小林遙香・谷地千鶴・赤坂衣織・横手　瞳
二　月下の精霊　萱場七摘・高橋綾花
三　朝焼けの時　藤原優珠
四　声を捧げた人魚　羽上華乃子
五　風の吹く日　桜糀璃子
六　標無き道　三輪初音
七　absolute zero　藤島美乃里・赤坂衣織・横手　瞳・久慈恵理奈

第二部「じっけんしつ」

一　けんきゅうしゃ達　千葉結心・大庭桜子・菊地亮人・沼野友香・藤田優愛・小林希香・細川花凛・萱場七摘・高橋綾花・千葉彩芽・羽上華乃子・宮腰　茜
二　造られしモノの声　赤坂衣織
三　謎の部屋　宮腰　茜
四　はかせ会議　藤原優珠・桜糀璃子・嵯峨歩唯夢・三輪初音・小林遙香・谷地千鶴
五　ヘルプ　川崎美桜・川崎勇芯・羽上輝一・千葉結心・大庭桜子・菊地亮人・沼野友香・藤田優愛・小林希香・細川花凛・萱場七摘・高橋綾花・千葉彩芽・羽上華乃子・宮腰　茜
六　もう一人の博士　川崎美桜・川崎勇芯・羽上輝一・菊地亮人・久慈行治（友情出演）
七　夢の雫が流れになる時　川崎美桜・川崎勇芯・羽上輝一・千葉結心・大庭桜子・菊地亮人・沼野友香・藤田優愛・小林希香・細川花凛・萱場七摘・高橋綾花・千葉彩芽・羽上華乃子・宮腰　茜・久慈行治

第三部「未来へ語る」

一　not lonely but only　藤原優珠・桜糀璃子・三輪初音・小林遙香・金子莉良
二　閉塞と光　赤坂衣織
三　記憶の深層　横手　瞳

四　からだ・喋る・コトバ　藤島美乃里
五　青い部屋　金子莉良
六　あの場所から　藤原優珠・桜糀璃子・嵯峨歩唯夢・三輪初音・小林遥香・金子莉良・谷地千鶴・藤島美乃里・赤坂衣織・横手　瞳・久慈恵理奈・久慈幸恵

《講評》　第六十七回岩手芸術祭洋舞部門は雫石ダンススタジオモダンダンス公演「DANCE　GALLERY」として、十一月二日岩手県民会館で開催されました。岩手芸術祭に初めて参加させて頂くことの緊張感と高揚感で幕を上げました。第一部は「アンソロジー」とし、各地で行われた公演やコンクールに参加した作品を上演しました。小学生から大人までそれぞれの年齢に応じた内容の作品です。一部ラストの大人の群舞は見応えのあるものでした。

第二部は「じっけんしつ」と題し、日々進化しつづける様々な研究の成果と「人」との関わりについてダンスで表現してみようと試みました。一つのテーマに没って三才から大人まで幅広い年代が表現し得る事柄を見つけ創作しました。難解になりそうな内容が反ってミステリアスでありながらユーモアのある不思議な空間が存在していました。楽しんでいただけたかと思います。

三部では「未来に語る」として、真摯にダンスと向き合い続ける大人の踊り手の作品を上演しました。その内容はシンプルに身体表現に徹した踊り、じっくりと空間を保ちつづける緊張感溢れる作品、個性を確実なテクニックを操りながら鮮やかに、しかしどこかに親しみを持たせて踊る作品、そして心の在り処を探る作品などこれからも追求していくテーマを上演しました。

この公演全体の名称とした「DANCE　GALLERY」、ギャラリーのように多様なダンスを見て頂きたいという思いが伝わっていましたら幸いです。

たくさんの方々のお力をお借りして、無事終了することが出来ました。これからもこの感激を糧に、一生懸命精進してまいります。小さなスタジオが大きな一歩を踏み出す

◀洋舞

機会をいただきましたことを関係各位に心から感謝申し上げます。

（久慈幸恵）

日舞　日本舞踊公演

十一月十六日(日)　十二時開演
岩手県民会館大ホール

一　常磐津　松の名所……若柳　衣江
一　長唄　島の千歳……水木　節桃
一　長唄　秋の色種……若柳　孝柳
一　大和楽　花有情……若柳　恭花
一　長唄　俄鹿島踊……若柳　力衛
　　若柳力十代
一　荻江　鐘の岬……若柳麻寿美
一　長唄　水木の槍をどり……水木　萬優
一　長唄　田舎巫女……若柳　衣保
一　長唄　浅妻船……若柳　孝絢
一　長唄　桜絵巻……水木　優吉
　　水木聖千優
一　長唄　俄獅子……水木志寿歌
一　清元　神田祭……水木　楓
　　芸者　水木　優鶴
一　長唄　新曲浦島……若柳吉栄香
一　義太夫　団子売り……杵造　水木　愛歌
　　お臼　水木　猿優
一　清元　青海波……水木　歌優
　　若柳　瑞恵
　　水木　歌梗
　　水木　歌寿
　　水木　歌林

《講評》　第六十七回岩手芸術祭参加日本舞踊公演は、岩手県民会館大ホールに於きまして正午より二流派十三社中の出演で十五番が上演されました。

例年に比べ番組も出演者も少なく、観客がどれくらい入るか心配しておりましたが、開演前からたくさんの方々にお集まりいただき予想以上の観客数に安堵いたしました。

まず序幕は若柳衣江の常磐津「松の名所」で始まり、長寿と節操の象徴の松を格調高く、そして数々の松の名所を取り上げ江戸の風情を織り込みながら静かなうちに幕を開けました。

今回は少ない番組ながら長唄、清元、常磐津、義太夫、大和楽、萩江と多様な番組がそろいました。

典雅で荘重な「島の千歳」、秋の景色をしっとりと見せた「秋の色種」、吉野の桜をはじめ六種の花々を美しく描

いた「花有情」、江戸吉原の匂を感じさせる「俄鹿島踊」、道成寺を根底に恋の恨みを語る「鐘の岬」、古風でのびやかな味わいの「水木の槍をどり」、江戸の珍しい風俗描写を残した「田舎巫女」、白拍子の姿で前半を荘重に後半を軽快に舞う「浅妻船」、春爛漫の景色を愛でる「桜絵巻」、吉原の粋な芸者の廓情緒たっぷりに「俄獅子」、江戸の粋でイナセな「神田祭」、海の上のさまざまな変化を勇壮に軽やかに「新曲浦島」、江戸の下町を売り歩く夫婦の明るく楽しい「団子売り」、そして最後に水木歌優を芯に水木と若柳のこれからを担う若手四人が「青海波」を波になり、千鳥にと爽やかに舞い納めました。

来年は（公社）日本舞踊協会岩手県支部結成五十五周年の節目の年にあたり、特別出演の方をお招きいたしましてより重厚で晴れやかな舞台をお見せ出来る事と思います。

そして来年こそ、県内各地からの御参加の多いことを願っております。

今後とも伝統文化の一つである日本舞踊がより広く浸透し、発展してゆくために力を合わせ進んで参りたいと思います。

（若柳　衣江）

◀日舞

演芸

民謡　岩手民謡まつり

平成二十六年十一月九日(日)　十一時開演

岩手県民会館大ホール

第一部　紅葉織りなす民の唄

第一部出演者全員

OP　唄　牛追唄／外山節
2　踊　南部俵積み唄　南部よしゃれ舞踊団　唄／玉川　光雄
3　唄　沢内甚句　大清水啓子
4　唄　宮城野盆唄　田中　令子
5　唄　南部牛追唄　菅原作之助
6　唄　南部山子唄　佐々木　弘
7　踊　日光和楽踊り　岩手大宮会　唄／松内とり子
8　唄　お立ち酒　菊池　忠
9　唄　夏の山唄　高橋　秋男
10　踊　大漁唄い込み　岩手もりおか会　唄／山本サツ子
11　唄　米節　武田　幸子
12　唄　南部馬方節　浅沼　紀
13　唄　山形大黒舞　鷹司　よ悦
14　踊　佐渡おけさ　岩月福田会　唄／二代目井上　成美
15　唄　そんでこ節（合唱）　佐々木俊太郎　佐々木昴大
16　唄　秋田節　佐々木美香
17　唄　南部よしゃれ節　佐々木麻里
18　踊　外山節　岩手大宮会　唄／山本　樹
19　唄　七之助節　藤井　美咲
20　踊　長者の山　北上やよい会　唄／小松　正宏
21　唄　刈干切唄　小原　新蔵
22　唄　南部酒屋酛摺唄　阿部　伊祥
23　唄　秋の山唄　氏家　庄八
24　唄　南部俵積み唄　伊藤　富子
25　唄　稲あげ唄　藤原　善美
26　踊　鳥取の傘踊り　南部千代連
27　唄　北海鱈つり唄　浅沼　京子
28　唄　相馬流れ山　高橋　竹秀
29　唄　南部駒ひき唄　中屋敷　晃
30　踊　秋田人形甚句　漆原会　唄／漆原栄美子
31　唄　新相馬節　佐藤　文司
32　唄　南部磯節　菊池きよ子
33　踊　豊年こいこい節　南部よしゃれ舞踊団　唄／菊池きよ子
34　唄　外山節　石垣　正雄
35　唄　本荘追分　箱石　まち
36　踊　気仙坂　北上やよい会　唄／佐野より子
37　唄　音戸の舟唄　佐々木利男

38 踊 南部茶屋節 平原会社中 唱／山本サツ子

第二部 民謡民舞大賞決定戦

1 唱 外山節 前田美穂子
2 唱 沢内甚句 及川久美子
3 唱 外山節 鎌田千恵子
4 唱 南部牛追唱 藤野 君子
5 唱 宮城馬子唱 吉田由紀江
6 踊 外山節 吉田成美ほか10名 唱／漆原栄美子
7 唱 十勝馬唱 作山 幸三
8 唱 謙良節 小野ふぢえ
9 唱 南部駒ひき唱 佐藤 信
10 唱 沢内甚句 藤岡 祐衣
11 唱 外山節 佐藤 一子
12 唱 南部牛追唱 橋場昭喜治
13 唱 南部酒屋酝摺唱 小田島シゲ子
14 唱 南部馬方節 小野寺夏樹
15 唱 南部木挽唱 玉川 光雄
16 踊 秋田甚句 大滝一秋 唱／漆原栄美子
17 唱 南部木挽唱 山本 樹
18 唱 沢内甚句 泉田 禮子

第三部 民謡特撰集

OP 踊 灘の酒造り祝い唱 南部千代連 唱／中田 桂敏
2 唱 真室川音頭 鳴海 みよ
3 唱 新庄節 新山ナツ子
4 踊 酒田甚句 北上やよい会
5 唱 秋田おばこ節 玉山ツヤ子
6 唱 生保内節 照井 陽子
7 踊 正調生保内節 南部よしゃれ舞踊団 唱／照井 陽子
8 唱 秋田酒屋唱 川村 治穂
9 唱 南部木挽唱 中田 桂敏
10 踊 どどさい節 岩手もりおか会 唱／山本サツ子
11 唱 からめ節 油井 幸子
12 唱 道南口説 岡本 由雄
13 唱 北上川船頭唱 小松 正宏
14 踊 佐渡おけさ 岩手大宮会 唱／三上 紀子
15 唱 最上川舟唱 越田 仁蔵
16 唱 黒石じょんがら節 米澤 廣次
17 唱 秋田船方節 松内とり子
18 踊 南部よしゃれ節 岩月福田会 唱／鳴海 みよ
19 踊 南部荷方節 漆原会 唱／漆原栄美子
20 唱 おいせ坂 中岩持勝子
21 唱 江差おけさ 舘澤 基菊
22 唱 ハタハタ音頭 二代目井上成美
23 踊 相川音頭 南部千代連

24 唱 南部相撲甚句 中里福次郎
25 唱 鹿児島浜節 山崎 勝代
26 踊 花笠音頭 平原会社中 唱／山崎勝代

エンディング 南部餅つき唱 唱／二代目井上成美 踊／岩月福田会

《講評》 第六十七回岩手芸術祭舞台等部門公演『岩手民謡まつり』は十一月九日（日）、岩手県民会館大ホールにおいて、今年も十一時より開催された。本公演では平成十四年より岩手芸術祭・民謡民舞大賞決定戦と称して、毎年優れた演技者に芸術大賞を贈り、過去十二名の大賞者が誕生している。

第一部「紅葉織りなす民の唄」…オープニングは出演者全員が女性男性に分かれ、南部牛追い唄／外山節での合唱で開幕の後、三十八名の唄声を届けた。その後演目の中には、子供たちの唄声・踊りも多く、はなばなしく賑やかに客席からの声援が絶えない舞台が多かった。

第二部「民謡民舞大賞 決定戦」…本年は踊りも含め十八名がエントリーし、新人・ベテランとも自分の得意とする民謡民舞を披露した。今年は審査員長に岩手県合唱連盟名誉会長の太田代政男氏を迎え、本協会役員の藤沢清美・工藤末三郎・近藤英一の各氏を加えての審査となった。今回の審査では、音程の安定、ハッキリとした発音等、いつも以上に審査には時間がかかったとのことだ。厳選な審査の結果、第六十七回岩手芸術祭民謡民舞大賞は、沢内甚句を熱唱した藤岡祐衣が歴代最年少で受賞した。

第三部「民謡特撰集」…二十六名の県内のベテラン唄い手と七団体の踊りも加え、東北民謡のみならず、日本全国の民謡民舞を届け見応えのある舞台となった。

例年、伴奏、進行、演出、舞台音響等関係者に協力をいただいており、時間通り終演できたことが、ご来場されたお客さまへのサービスでもあり、私たちの喜びでもある。今後もたくさんのご来場の上、なお一層楽しんでいただける舞台を考えていくことが、我々の課題である。

（三上 紀子）

◀民謡

◆民謡功労賞
佐藤祐幸（唄）／松川竹憧（尺八・横笛）／新保　公（唄）

◆芸術大賞入賞者
芸術大賞　藤岡祐衣（唄）／沢内甚句（民謡成美会）
優秀賞　橋場昭喜治（唄）／南部牛追唄（南部牛追唄保存会）
〃　山本　樹（唄）／南部木挽唄（岩手もりおか会）
奨励賞　玉川光雄（唄）／南部木挽唄（岩手県民謡育成団桂友会）
〃　及川久美子（唄）／沢内甚句（岩手県民謡育成団桂友会）

新舞踊　新舞踊発表会

平成二十六年十月二十六日(日)
十時半開演
リアスホール（大船渡市）

司会　伊藤　妙子

オープニング

「椿の里大船渡音頭」　沿岸支部　野の花会
友情出演　地元朝日町の皆様

一　紀州千畳敷　沿岸支部　満月会　5名
二　雅の舞　沿岸支部　舞の会　1名
三　お梶　沿岸支部　藤舞会　1名
四　女盛りは歳じゃない　沿岸支部　野の花会　3名
五　津軽平野　沿岸支部　満月会　4名
六　哀愁線リアス　花巻支部　藤洸会　4名
七　南部蝉しぐれ　花巻支部　勺洸会　7名
八　達者でナ　沿岸支部　満月会　5名
九　海ぶし　沿岸支部　舞の会　4名
一〇　男のおきて　北上支部　やよい会　8名
一一　還暦祝い唄　沿岸支部　野の花会　4名
一二　人生みちづれ　花巻支部　秀美会　9名
一三　満天の船歌　沿岸支部　満月会　1名
一四　女のかがり火　花巻支部　崇扇会　6名

一五　火の国の女　沿岸支部　満月会　4名
一六　風やまず　花巻支部　泉会　7名
一七　千寿の舞　沿岸支部　野の花会　2名
一八　小春　沿岸支部　藤舞会　1名
一九　アジアの海賊　沿岸支部　舞の会こども　2名
二〇　大漁まつり　沿岸支部　満月会こども　4名
二一　長崎の蝶々さん　沿岸支部　舞の会こども　3名
二二　峠越え　沿岸支部　満月会　4名
二三　男の人生　花巻支部　春陽会　4名
二四　ふるさと　沿岸支部　野の花会　2名
二五　南部のふるさと　花巻支部　甲扇会　5名
二六　下北漁港　沿岸支部　舞の会　2名
二七　平家夢扇　花巻支部　新友会　5名
二八　簗川わかれ　沿岸支部　満月会　2名
二九　峠越え　花巻支部　有扇会　5名
三〇　梅川　沿岸支部　藤舞会　1名
三一　名将毛利元就　花巻支部　とし美会　6名
三二　江刺情歌　沿岸支部　満月会　5名
三三　竹屋の渡し　沿岸支部　葵の会　2名
三四　木曽しぐれ　沿岸支部　葵の会　1名
三五　人生みちづれ　沿岸支部　野の花会　1名
三六　鰺ヶ沢甚句　沿岸支部　幸の会　15名
三七　鰺ヶ沢くどき　北上支部　舞の会　2名
三八　石川啄木のふるさと　沿岸支部　野の花会　2名
三九　関東春雨傘　沿岸支部　舞の会こども　3名
四〇　佐渡の恋唄　沿岸支部　満月会こども　1名
四一　花笠道中　沿岸支部　舞の会こども　3名
四二　荒野の果てに　沿岸支部　野の花会　3名
四三　この世の花　花巻支部　裕康会　10名
四四　沢内甚句　沿岸支部　満月会　6名
四五　南部よしゃれ　北上支部　幸の会　12名
四六　風の盆　沿岸支部　野の花会　5名
四七　粋～日本の心　沿岸支部　葵の会　6名
四八　がんばれ日本三陸魂　沿岸支部　藤舞会　2名
四九　浪花節だよ人生は　沿岸支部　満月会　3名
五〇　夕立　沿岸支部　舞の会　1名
五一　一本釣り　沿岸支部　野の花会　1名
五二　お夏清十郎　沿岸支部
五三　縁舞台　沿岸支部

フィナーレ

河内おとこ節　満月会　20名

《講評》　第六十七回岩手芸術祭演芸部門は、岩手県新

舞踊協会第十六回舞踊発表会として、十月二十六日（日）大船渡市民文化会館「リアスホール」で『潮騒の宴・椿の港町に舞う』のタイトルで盛大に開催された。東日本大震災発生から三年と二百三十日目となる日の開催が被災地の復旧復興が遅々として進んでない状況下で、果たして本当に観に来てくれるお客様がどれほどいるのかなど、いささか心配していたが杞憂に終わった。午前九時四十五分の開場予定を待たず既に長蛇の列が出来るほどの光景にほっと胸をなでおろした。十時三十分定刻どおり開演、オープニングは沿岸支部の会員により「大船渡音頭」で幕が開き全五十三曲が披露され最後は沿岸支部の会員により「河内おとこ節」でフィナーレとなった。プログラムの途中、当協会の二十六年度事業の一つ、青森県西津軽郡への研修で学習し田津軽民謡「鰺ヶ沢甚句・鰺ヶ沢くどき」を披露、又、二十六年度岩手芸術祭開幕フェスティバル特別出演の北上支部、幸の会が「石川啄木のふるさと」なども発表された。被災地でこのような催しを実施するのは震災後、初めてでありお客様方の反応を気にしていたが終始大きな声援と拍手を頂いた。今回の発表会は普段、あまり観る機会の少ない内陸部の人たちの踊りも数多く披露され地元の出演者たちの踊りと一緒に楽しんでいただけたものとおもっております。終演後、帰りのお客様から多くの賛辞をいただき今度いつ来るの、また来年も来てください等々、主催者側として大変ありがたい言葉を頂いた。この発表会で特に感じたことは、被災地のみなさんがあの震災の辛さを一時でも忘れたいといつも心の中にあることの表れかなと見受けられた発表会であった。当協会の活動が被災地の皆さんに少しでも心の慰めにして頂けたならば大変嬉しく思うと共に、一日も早い復旧復興を願って止みません。

（事務局・鈴木　記）

▶新舞踊

県民文芸作品集

県民文芸作品集は、県民の文芸活動の振興を目的として、県民から広く文芸作品を公募し、その中の優秀作品を掲載し刊行しているものであり、今回は四十五集となる。

会議の運営

五月十四日　文芸部門第一回実行委員会
（公募要項の決定等）

十月十六日　県民文芸作品集選者等会議
（入賞・入選作品の決定、選評の紹介等）

二月二十四日　文芸部門第二回実行委員会
（文芸部門の運営状況の報告、次回の公募要項の決定等）

応募状況

平成二十六年七月一日から八月三十一日まで、小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳の九種目の作品を公募した。応募作品は四七八点であった。

作品審査

種目ごとの審査を経て、十月十六日に行った選者等会議において、種目ごとに芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び入選作品を決定した。

表　彰

芸術祭賞、優秀賞及び奨励賞受賞者三十一名の表彰式を十二月十三日に行った。（会場・サンセール盛岡）

刊　行

受賞作品等を掲載した県民文芸作品集を十二月十三日に刊行した。

【受賞作品・作者及び選者】

種目	賞名	受賞作／作者	選者
小説	優秀賞	千古の泉／中村祥子	柏葉幸子 斎藤純
	奨励賞	ノスタルファンタ・メモリーズ／仲村蕭萌	
		バッテリーの詩／原田武信	
戯曲・シナリオ	奨励賞	春の日の思い出／長沢周子	昆明男 中村好子
文芸評論	優秀賞	移動と並列・詩集「春と修羅」を読む／赤崎学	望月善次 牛崎敏哉
	奨励賞	紀州新宮の愚者たち―大逆事件に見る大石誠之助、佐藤春夫そして中上健次／佐藤静子	
		村上昭夫の反戦平和詩について―小説『浮情』新訳を通して―／仲村重明	
随筆	芸術祭賞	山の畑の青い空／平沢裕子	須藤宏明 野中康行
	優秀賞	『老い』の道標（みちしるべ）／佐藤京子	
	奨励賞	鏡／橘千代子	
		一本の道／遠藤カオル	
児童文学	芸術祭賞	はじまりの春に／中村祥子	高橋昭 藤原成子 齋藤英明
	優秀賞	松草高原郵便局／加藤典夫	
	奨励賞	seasons call／藍沢篠	
		コーチ／千葉恵保子	

種目	賞名	受賞作／作者	選者
詩	芸術祭賞	石よ／加藤和子	照井良平 松崎みき子 上斗米隆夫
	優秀賞	カラスの遠近法―故清水昶氏に／高橋伸彰	
		夏をおくる／佐々木もなみ	
	奨励賞	まぼろしの村／伊藤諒子	
短歌	芸術祭賞	弟／石川節子	伊藤幸子 小笠原和子 菊池映一 鈴木八重子 菊池哲也
	優秀賞	白木蓮／三船武子	
	奨励賞	生きる／赤崎泰司	
		過ごす春と夏／木下和子	
俳句	芸術祭賞	盆唄／梅森サタ	小畑柚流 小菅白藤 川原道程 草花一濁水泉 畠山嘉子 佐藤ヨミ 柳幸
	優秀賞	こがねむし／下田榮一	
	奨励賞	新豆腐／内藤照子	
		牛磨く／佐藤忠	
川柳	芸術祭賞	雑詠／小田治朗	中島久光 宇部功 千葉暘子
	優秀賞	雑詠／熊谷岳朗	
	奨励賞	雑詠／中野裕子	
		雑詠／馬渕草	

文芸祭

小説大会

十月二十六日(日)
岩手県公会堂十二号室・参加者十一名

▽**講師**
柏葉幸子（作家・県民文芸作品集選者）
斎藤純（作家・県民文芸作品集選者）

《講評》 今年度の小説大会は、岩手県公会堂十二号室を会場に、県民文芸作品集の応募者や一般の方々の参加を得て開催された。

小説大会は、県民文芸作品集の選者が講師を務め、応募作品の選評を主な内容としている。

最初に全体の傾向について講師のお二人からお話いただいた後、参加者の個々の作品について選評がなされた。それは時に、具体的な言葉の選び方であったり、段落の構成、原稿用紙の使い方の確認、更には、なぜ小説を書くのか、また、何を伝えたい、いや、伝えるべきなのか、と多岐に渡った。

参加者の思いはそれぞれで、自分の作品の選評を聞くために参加していたり、同じ書き手同士の交流を求めての参加、とりあえず顔を出してみた方等々、求めるものに違いがあり、少しもどかしさも感じる大会運営であったが、参加者からは作品に込めた思いを聞くこともでき、新たな作品作りへの意欲を深めているようで、今後に繋がる成果があったと思う。

小説大会の運営は、事務局となる団体が組織化されていないため、芸術祭実行委員会事務局が直接行っている。ともすれば事務的になりがちであるが、参加者の側に立った視点での大会運営を心がけている。そのため毎年アンケートを行っているが、今回のアンケートでは「個々の選評は有意義であるが、参加者が話題を共有できないのが残念」という意見を頂戴した。参加者の作品に全員が事前に目を通すことは難しい。次年度に向けての宿題をいただいたので、しっかり検討していきたい。

合わせて、今年から選者が一新したこともあり、この一

◀小説大会

年は事務手順を再確認する機会ともなった。漫然とならないよう心して運営に取り組みたい。

（実行委員会事務局　鈴木宣子）

戯曲大会

十一月二十三日(日)
盛岡劇場タウンホール・参加者十六名

▽**運営委員**
昆　明男・倉持裕幸・高村明彦

《講評》　第六十七回岩手芸術祭戯曲大会は、若手育成を主眼とした、戯曲リーディングとブラッシュアップセミナーを組み合わせ、モデル上演を行い、ファシリテーターも含め、若手劇作家、および演劇人に運営の中核を担っていただいた。

九月に開催された「もりげき王」参加の作品から、二作品、この大会のために書き下ろした作品を一作品選び出し、それぞれ一作品ずつ、リーディング、ブラッシュアップワークショップを行った。この三作品は、十二月に行われた「もりげき八時の芝居小屋」で再演され、作品を再構成する上で非常に有意義な大会となった。

戯曲リーディングは、台本を持ったまま上演する形式で、演出が過度に入らない分、戯曲そのものの善し悪しがわかる上演形態である。

ブラッシュアップワークショップは、日本劇作家協会で行われている、戯曲リーディングセミナーの手法を借りた。ファシリテーターの進行で、まず、その作品の好きなところをあげ、次に、作者から参加者に聞きたいことを質問してもらう、そして、今度は逆に、参加者から作者に質問を出してもらい、最後にフリートークとなる。

今回の参加者は、大学生を含めた若手が多く、戯曲リーディングも緊張の出だしとなった。進行役であるファシリテーターは、今年、盛岡市民演劇賞で演出賞を受賞した中村剛造氏にお願いした。出だしは参加者を含め緊張の面持ちだったが、歳の近い中村氏の進行が、次第に緊張を和らげ、しかもかなり突っ込んだ話

▶戯曲大会

し合いが活発に行われた。

内容は非常に密度が高かったものの、今回は参加者が少なく、今後に課題を残す結果となった。今後は広報と内容の充実に努め、幅広い参加者を集められるような企画に育てられればと考えている。

（倉持裕幸）

文芸評論大会

十月十二日(日)
岩手大学図書館内
生涯学習多目的学習室・参加者十六名

▽**運営委員**
望月善次・牛崎敏哉

《講評》　第九回目となる今回の岩手芸術祭文芸祭「文芸評論の部」は、宮澤賢治センター「宮澤賢治記念短歌会」特別交流会として、岩手大学多目的学習室（岩手大学図書館二階）を会場に、十月十二日(日)午後一時から開催され、参加者は、これまでで最高の十六名であった。今回は『県民文芸集』受賞者決定前の開催となり、研究発表には受賞予定者ということでの変則的な依頼となった。

はじめに『県民文芸集』文芸評論選者であり、本文芸祭実行委員である望月善次より、「啄木研究の現状～２０１４南臺国際会議、２０１５シドニー大会など～」に触れながら開会挨拶とミニ講演があり、続いて同じく選者・牛崎敏哉「宮沢賢治研究の現状」のミニ講演があった。

次は『県民文芸集』文芸評論部門入賞予定者の研究発表で、まず佐藤静子氏が「紀州新宮の愚者たち＝大逆事件に見る大石誠之助、佐藤春夫そして中上健次～」について、続いて仲村重明氏が「村上昭夫の反戦平和詩について―小説『浮情』新釈を通して―」、最後は赤崎学氏「移動と並列・詩集「春と修羅」を読む」が発表された。

最後は記念講演として、私設文学資料館を開設されている佐伯研二氏より、「〈人首文庫〉とその周辺」という演題にて、貴重な所蔵資料持参により、講演していただいた。各々の発表後のわずかな時間ではあっ

▶文芸評論大会

たが、活発な質疑応答が展開された。

全体は予定通り午後五時前に終了、続いて会場を移して、希望者九名による懇親会が開かれた。引き続き佐伯研二氏による「人首文庫」資料の解説もあり、有意義な会となった。次回は更なる参加者を目指したい。

（牛崎敏哉）

随筆大会

十月二十五日(土)
岩手県公会堂十四号室・参加者二十二名

▽講師
須藤宏明（県民文芸作品集選者）
野中康行（県民文芸作品集選者）

《講評》 今年度の随筆大会は岩手県公会堂十四号室を会場に開催された。

随筆大会は盛岡と盛岡以外の地区を隔年で開催することとしており、昨年は宮古市、一昨年は盛岡市での開催であった。年毎に参加者の増減が大きく、会場選びには苦労するが、今年は参加者数が持ち直し嬉しく思う反面、ご参加いただいた皆さんには窮屈な思いをさせることとなった。安定した参加者数を確保したいところだ。

大会は、最初に講師のふたりから総評をお聞きして、その後は「県民文芸作品集応募作品の講評」を主体として個々の作品について五分程度、講師からのアドバイスをいただき進められた。後半は参加者の意見交換を行った。

講師は県民文芸作品集の選者である盛岡大学文学部教授の須藤宏明先生と、岩手日報随筆賞の受賞経験のある野中康行先生のお二人にお願いしている。須藤先生はご自分の選評を辛口とおっしゃるが、参加者には温かい励ましのアドバイスに聞こえているらしい。単なるダメだしに終わらず、どうすれば良いのかという示唆に富んだコメントが参加者の心を捉えて、皆、講師の一言一句を聞き逃すまいと懸命にメモを取る。長く応募している方は確実に進歩している。

意見交換では、作品を書くに至ったそれぞれの思い

▶随筆大会

をうかがい知ることができた。「書く」ことは人に何かを伝えるためだけではく、自分の気持ちの整理ができたり、悲しみを癒したりできる。

もちろん、大半は自分の作品の講評を聞きたくて参加する。それ以外にも他の参加者の作品に目を通せるよう事前に資料を渡していることもあり、自分以外の講評にも熱心に耳を傾けていただいている。

納得のいく作品を書くためには、「書く」経験を積むことが大事であるが、同時に質の良い作品を「読む」ことも大切である。そういう意味でも、この大会で様々な作品に触れていただくことは有意義である。今後も、なるべく多くの方が参加できるよう、開催場所や内容に適宜変更を加えながら型にはまらない運営をしていきたい。

（実行委員会事務局　鈴木宣子）

児童文学大会

十一月九日(日)
宮古市立図書館・参加者五十八名

▽運営委員
高橋　昭・藤原成子・田沢五月

《講評》 児童文学大会は宮古市立図書館に於いて、岩手児童文学の会々員や、一般の方々多数の参加を得て行われた。

最初に本会の会員・中村祥子さんが自作の詩を感情をこめて朗読。続いて地元の児童文学者・遠藤公男氏が、『奥・遠野物語』と題して熱弁をふるわれた。事前に、話題とする人物や動物などを切り抜いた絵写真を黒板に張って聴衆の目を惹きつけ、これまでの調査研究をもとに講演に移る。魔除けの飾り・落とし穴・シシを追う・狼祭り・狼の餅・狼に賞金・オイノ酒・イヌワシの発見・猿の頭など十三

▶児童文学大会

の話は、何れも例の『遠野物語』には見られない宮古近辺町村等にあったことのみで、時折ユーモアを交えた話しぶりに参加者一同すっかり魅了された。こうして、県北の分校での体験に始まる講演は会場を大いに沸かせた。遠藤氏を存じ上げている家内にも聞かせたい思いだった。次に行われた『県民文芸作品集応募作品』の選評と合評も、本会会員十四名に加え大船渡市からの一名と地元より七名の方が参加し、熱のこもった話し合いが展開された。始めに県民文芸作品集選者の齋藤英明先生が、「子どもが興味や関心を持って読みたくなるような作品が望ましい。最近、主人公の生き方に感動や共感できる作品が少ない。作者の訴えたい対象グレードを明確にして、どんな内容にし構成はどうするかなどの構想を練り、納得できるまで繰り返し推敲してほしい」と選評を述べた。続いて、合評を希望した『はじまりの春に』（中村祥子）・『啓太君の相撲道』（荒田正信）・『松草高原郵便局』（加藤典夫）の順に、参加者から活発な質問や意見などが出され有意義に終了した。

来年は岩手児童文学の会創立四十周年に当たる。プレ四十周年の宮古大会は大成功だったが、これは遠藤氏や地元会員らが知人の皆さんへ働きかけて下さった結果と知り、心から敬意とお礼を申し上げて擱筆する。

（記　高橋　昭）

詩の大会

十月十九日(日)
花巻市定住交流センター二階
第一会議室・参加者二十一名

▽**選者**
照井良平・松﨑みき子・上斗米隆夫

▽**運営委員**
東野　正・伊藤諒子・かしわばらくみこ

《講評》　文芸祭賞はそれにふさわしい作品が見当たらず該当作なしとなった。

優秀賞「灯台」（伊藤諒子）昔観た映画の中の灯台のイメージ、初夏久慈の小袖海岸で見た小ぶりな白い灯台・その対照で自分自身を見つめ直そうとする。人には節目を知る日がある。謙虚な美学を学ぶ。

奨励賞1「部屋」（田村博安）三連吹き抜けのようになっていて塞ぎようがないのだ。普遍が感じられ、読む側にも探させる部屋がある。作者の立ち位置の静けさがゆるぎなく、何かの職人のようでもある。

奨励賞2「ちゃっかりと」（永澤かず子）作者の個性で日常からのちょっとした行動を切り取る。最終の言葉のスベリがなんともたくましく明るい詩。

佳作「風にのって」（糠塚玲）一連部屋は小さな宇宙船、ここで風にのってしまった。全体に素晴らしく若々しさを感じてしまう。身が引きしまる想いで読んだ。

佳作「行商の老婆」（ルディア・ひろこ）列車の座席にて見ず知らずの老婆から半生の凄まじい行商語りをさせられる。その老婆は亭主に先立たれ六人もの子を行商をしながら形振りかまわず育てたと話す。書くと言う事は他者からも力を受け取っている作者自身がそうであったように。

佳作「小鳥」（藤野なほ子）庭先にも詩があることに作者のやさしさを身近に感じてしまう。構成のしっかりした詩で小鳥なのだけれど力強く描かれている。

佳作「姫蛍」（児玉智江）題の姫蛍からしてファンタジーであるその姿を解りやすく愛らしく絵書く。

佳作「モノクロの鳥。」（藍沢篠）全体に陶酔しているような感じを受けたが若者の刹那なのだろうか？　視点を変えた詩もぜひ書いて下さい。

（松﨑みき子）

▶詩の大会

短歌大会

十月十一日(土)
盛岡市勤労福祉会館（盛岡市）
出詠者百十二名・出席者九十名

▽**文芸祭賞**＝高橋　緑花（花巻市）
優秀賞＝稲垣　貞男（遠野市）
奨励賞＝阿部スミ子（奥州市）
選者賞＝朝倉　賢選　工藤百合枝（八幡平市）
阿部　源吾選　秋山やよ子（盛岡市）
石川　節子選　山本　豊（盛岡市）
小野寺政賢選　吉田　史子（宮古市）
八重嶋　勲選　上野　和子（花巻市）

▽**運営委員**＝赤澤篤司・外舘克裕・山本　豊

《講評》

文芸祭賞

井戸掘りて征きしままなる父の墓その水に身を拭くごと洗ふ　　高橋緑花（花巻市）

戦後六十九年経た今もなお、井戸を掘った直後に招集され戦死した父を慕う気持ちが、感情を抑制した具体的な内容によって、読む者に素直に情感が伝わって来る内容の深い作品であるとの高い評価を得た。

優秀賞

三年経て掘り返されし黒土に牛放牧の再開を期す
稲垣貞男（遠野市）

東日本大震災による放射能で汚染された牧草地が、三年を経てようやく掘り返され、再び放牧地として再生されようとしている光景が簡潔に表現され、希望を抱かせる作品であるとの高い評価を得た。

奨励賞

圃場整備成りし夕の水張田に声広々と蛙啼き立つ
阿部スミ子（奥州市）

日本の稲作をめぐる環境には厳しいものがあるが、その中にあって、新たに整備された田圃に水が張られ蛙の声が広々と啼き立つという光景は、視覚と聴覚の相互作用により、田圃風景が新鮮に表現されているという高い評価を得た。

選者賞

朝倉　賢選

わが腕にやうやく持ちうる甘藍を隣家の人が露ごと呉るる
工藤百合枝（八幡平市）

阿部源吾選

二十年離り暮せし子の帰り噛み合はぬ日々に心疲るる
秋山やよ子（盛岡市）

石川節子選

土石流に家もろともに流されし人らのゆくへ思ふ雨の夜
山本　豊（盛岡市）

小野寺政賢選

プリントをめくる指先すべりつつひそやかに老いはわれに来てをり
吉田史子（盛岡市）

八重嶋勲選

晩夏光あまねくわたる山畑にさやぐともなく蕎麦の花咲く
上野和子（盛岡市）

出詠者百十二名は昨年に比べ六名多く、出席者九十名は昨年より二名少なかった。岩手県歌人クラブの会員が年々減少傾向にあるなかで、出詠者が昨年より多かったことは、歌人クラブ会員以外でも出詠する方が増えてきていることであり、次年度も出詠者が増えることを期待したい。

（山本　豊記）

◀短歌大会

俳句大会

十月十一日㈯
岩手県公会堂（盛岡市）・出席者八十名

▽選　者＝小畑　柚流・小菅　白藤・川原　道程・草花　一泉・畠山　濁水・佐藤　嘉子・柳幸　ヨミ

▽運営委員＝北田　祥子・合川　勧・古川　公子・舞田　公子・長谷川かよ子・山火　律子

《講評》　文芸祭俳句大会は十月十一日、爽やかなもりおか日和に恵まれ県公会堂で開催された。参加者は七十三名と、選者七名。

三句投句で総数は二百十九句。清記された無記名の句稿により、参加者は三句選、選者七名はそれぞれ文芸祭三賞の候補作品として三句を選び、慎重に合評し、次にその中から一人二句を選び検討を重ねた。三回目は上位の四句について審議し、最終的には一致した評価を得て三賞を決定した。

「文芸祭賞」

身を剥がれ杭に戻りし案山子かな
盛岡市　芳賀　赳夫

年々、案山子を見る機会は少なくなっているが、農の句として案山子の句は多く詠まれている。別の視点から役割を終えた案山子が、邪険に解体され遂には心棒としての杭一本に戻った、その非情に着目した生新さに秀吟として最高の評を得た。

「優秀賞」

光差す方へ曲がりて秋の蝶
盛岡市　内藤　麻子

日毎に冷気が増し深みゆく秋、たまに見かける蝶も緩慢な飛び様である。少しでも陽の温もり明るさを求める蝶の行方を、「光差す方へ」曲がると表現した鋭い感性は、人生にも一脈通じる秀吟である。

「奨励賞」

精米機出で新米のうすみどり
盛岡市　古川　公子

新米には光沢または艶があるなどと表現される。今、まさに精米機より出て来る新米を、「白」と見ず「うすみどり」と感じた詩心は、わくわくして待つ作者の発

▶俳句大会

見でもある。

今年度も農業に関わる句が三賞のうち二句、岩手の風土を凝視し詠んでいることを高く評価された。

三賞の句を除き、選者それぞれ特選一句、秀逸三句、入選五句を選んだ。披講に続き三賞が表彰され、予定通り文芸祭俳句大会を終了した。

（佐藤嘉子）

川柳大会

十月十二日(日)
いわて県民情報交流センター・アイーナ五〇一号（盛岡市）・
参加者六十三名

▽選　者＝鷹觜　閲雄・藤嶋　政豊・伊藤　豊志・八木田幸子・中島　久光・小原　金吾・塩釜アツシ

《講評》　毎年、第三日曜日に開催していた文芸祭川柳大会であるが、今年は第二十九回国民文化祭川柳の祭典がお隣秋田県で第三日曜日に開催されるため、繰り上げて第二日曜日の十月十二日に設定し開催された。そのせいでもないであろうが参加者が少なかったが、新人の活躍が大いに大会を盛り上げた。

例年通り、各選者が推す特選句七句を県川柳連盟三役等が第二次選考に当たり、三賞を決定した。決定に当たっては特にいつも問題になる暗号句に注意を払った。

文芸祭賞　盛岡市　小原　金吾

パスワードぽろりハラワタまで透ける

川柳は今を詠うと言われているが、現代の暮らしを的確に切り取ったところが評価された。作品に新鮮さが漂う。

優秀賞　遠野市　菊池　国夫

生きている証し火の音水の音

火の音水の音は、少々常套的表現ではないかとの意見も出されたが、生命に対する密着度が買われた。

奨励賞　岩手町　馬渕　草

全盲の指に重たい泡もある

生きて行かねばならぬ、それぞれの深さを思う。

その他の特選句

山頂で水一滴の慈悲に逢う　花巻市　小田　治朗

人間に戻る仮面をそっと剥ぐ　洋野町　野口　一滴

親になり親の無限の愛を知る　盛岡市　梅津　幸子

五穀豊穣ふっくら飯が炊け平和　洋野町　野口　一滴

優秀賞に輝いた菊池国夫氏は、川柳を始めてまだ一年も

経っていないということに驚かされたが、新人の活躍に支えられた大会であった。ご参加くださいました皆様、ご協力くださった皆様に感謝するのみである

（熊谷岳朗）

▶川柳大会

アートフェスタいわて２０１４　―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展＋岩手県美術選奨受賞者作品展―

岩手県立美術館と岩手芸術祭実行委員会共催事業岩手県立美術館企画展「アートフェスタ２０１４―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展＋岩手県美術選奨受賞者作品展―」は、平成二十七年二月二十八日（土）～三月二十二日（日）まで、岩手県立美術館で開催された。この企画展は岩手芸術祭に集う美術家たちの作品を広く県民に紹介する場として、平成十五年度より開催しており、平成二十三年度からは県美術選奨受賞者の作品も合わせて紹介する内容として、今回、十二年目を迎えた。

今年度は、岩手芸術祭美術展十部門の三賞受賞作品と、各部門から推薦された作家の作品百点、また平成二十五年度岩手県美術選奨受賞作家五人の作品を合わせて展示した。

開催初日には、初めての試みとして出品作家及び関係者が一同に介しレセプションが行われ、部門を越えて有意義な交流の場となった。

会期中、部門別のギャラリートーク（作品解説会）が行われ、観覧者が作品への理解を深めた。

鑑賞者数は三一二二人であった。

▽出品点数（芸術祭関係）

日本画	七点	写真	十二点
洋画	十七点	デザイン	七点
版画	七点	現代美術	六点
彫刻	六点	水墨画	十一点
工芸	十点		
書道	十七点	合計	百点

▽部門別ギャラリートーク

二月二十八日(土)　水墨画・書道
三月　一日(日)　写真・現代美術・デザイン
三月　七日(土)　日本画・工芸・彫刻
三月　八日(日)　版画・洋画

▽企画・運営委員

西川善有（日本画）・石川酉三（洋画）・鈴木和雄（版画）・清武英司（彫刻）・阿部裕之（工芸）・吉田晨風（書道）・菊池克美（写真）・村上由美子（デザイン）・小笠原卓雄（現代美術）・鈴木孝男（水墨画）・大野正勝・吉田尊子・坂本静（以上美術館）

テーマ募集

第六十七回岩手芸術祭を開催するに当たり、芸術文化の創造と発展をイメージさせ、また震災からの復興を応援し芸術祭を盛り上げるテーマを懸賞募集した。

一　応募期間
　平成二十六年四月～五月三十一日
二　応募総数
　四七四点（二四五人）
三　選定方法
　六月二十四日に選定委員会を開催し、選定を行った。
　〔委員〕坂田　裕一（実行委員会副会長）
　　佐藤　平泉（美術）
　　丸岡千奈美（声楽）
　　柴内　啓子（洋舞）
　　野中　康行（随筆）
　　岩切　潤（地域）
四　選定結果
　◎優秀作【岩手芸術祭テーマ】
　「輝く文化　広がる未来　絆深まる岩手の大地」
　中花　愛莉さん（岩手町）

○佳作　「文化創造　銀河の国の　夢乗せて」
　渡邊　忠さん（釜石市）
　「咲かせよう　イーハトーブの地に
　　文化の華を」
　伊五澤弘樹さん（釜石市）
　「見よ　創造の地平線　描け
　　希望の水平線」
　佐々木亜紀子（花巻市）

※　優秀作作者は十月四日（土）の開幕式典において表彰した。

実行委員会名簿

【実行委員会】

会　長＝柴田和子
副会長＝坂田裕一　岩切　潤
監　事＝太田信子　高橋　昭

区分	委員名	所属
主催者	松下洋介	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長
	菅野洋樹	岩手県文化振興事業団理事長
	柴田和子	岩手県芸術文化協会会長
	鈴木孝男	岩手県芸術文化協会副会長
美術	佐藤平泉	書道部門
	太田信子	写真〃
演劇	坂田裕一	演劇〃
伝統芸能	菊池昭二	能楽〃
	室岡提子	邦楽〃
	山口剛	声楽〃
音楽	山田靖了	合唱〃
	滝沢昭子	ピアノ〃
	小塚保男	ギター〃
舞踊	柴内啓子	洋舞部門
	水木歌優	日舞〃
演芸	藤沢清美	民謡〃
文芸	高橋昭	児童文学〃
	柳清水広作	川柳〃
小・中美術展	鎌田慎	岩手県小・中学校美術展協会
	岩切潤	釜石市芸術文化協会
地域	久保郁子	岩手町芸術文化協会

【美術部門実行委員会】

部門	委員名	部門	委員名
日本画	西川善有	書道	佐藤平泉
	菊地正義		佐々木飛鴻
洋画	石川酉三	写真	太田信子
	日下信介		菊池克美
版画	日山登啓	デザイン	井上美知子
	鈴木和雄		竹村育貴
彫刻	清武英司	現代美術	小笠原卓雄
	曽根達也		浅倉伸
工芸	阿部裕之	水墨画	鈴木孝男
	佐々木秀次		菊池一政

【舞台等部門実行委員会】

部門	委員名	部門	委員名
演劇	坂田裕一	三曲	立野呈山
	澤田綾香		水原正
能楽	佐野剛章	吹奏楽	安倍一洋
	菊池昭二		小山智弘
邦楽	福士幸雄	ピアノ	滝沢昭子
	室岡提子		成瀬ゆかり
茶道	川村滋	ギター	小塚保男
	平野宗蕙		佐藤勝政
華道	猿子慈苑	洋舞	柴内啓子
	小原宏華		小柳玲子
吟詠剣詩舞道	三澤岳欣	日舞	水木歌優
	藤井岳光		水木妙歌
合唱	山田靖了	民謡	藤沢清美
	小濱和子		三上紀子
声楽	山口剛	新舞踊	須藤功
	丸岡千奈美		鈴木孝四郎
弦楽	菊池昭子		
	斉藤佐織		

【文芸部門実行委員会】

部門	委員名	部門	委員名
戯曲・シナリオ	昆明男	短歌	赤澤篤司
	倉持裕幸		外舘克裕
文芸評論	望月善次		山本豊
	牛崎敏哉	俳句	北田祥子
随筆	野中康行		合川勧
児童文学	高橋昭		古川公子
	藤原成子	川柳	佐藤岳俊
	田沢五月		柳清水広作
詩	東野正		熊谷岳朗
	伊藤諒子		
	かしわばらくみこ		

◇実行委員会事務局

事務局長＝鈴木　清也（県文化振興事業団事務局長）
事務局次長＝阿部富美雄（県芸術文化協会事務局長）
花坂　正彦
（県文化振興事業団総務部総務課長）
事務局員＝岩渕　美保（県教委事務局生涯学習文化課）
藤村　恵玉・久保田幸恵・鈴木　宣子
（県文化振興事業団総務部）
岩﨑　桂子（県芸術文化協会）

第67回岩手芸術祭実行委員会　収支予算書（最終予算）

1　収入の部

（単位：千円）

科　　目	予算額	主　な　内　容
負担金	10,930	主催団体、巡回美術展開催市町
入場料	1,057	美術展入場料
諸収入	836	広告料、預金利子
繰越金	129	第66回会計より
計	12,952	

2　支出の部

（単位：千円）

科　　目	予算額	主　な　内　容
実行委員会	1,686	功労者表彰、新聞広告、印刷物製作
美術展	2,787	印刷物製作、会場使用料、部門負担金
巡回美術展	1,816	写真パネル製作、作品輸送、印刷物製作
小･中学校美術展	353	小中学校美術展協会負担金
巡回小･中学校美術展	31	〃
演劇	525	部門負担金
映像	149	賞金、部門負担金
伝統芸能	738	部門負担金
音楽	934	〃
舞踊	720	〃
演芸	362	〃
移動公演	288	〃
県民文芸作品集	1,086	選者謝金、賞金、作品集買上
文芸祭	409	部門負担金
予備費	1,068	
合　計	12,952	

事務局日誌抄

〈四月〉
一日　テーマ作品募集開始（応募締切五月三十一日）

〈五月〉
九日　美術部門第１回実行委員会
十三日　舞台等部門第１回実行委員会
十四日　文芸部門第１回実行委員会
二十一日　第１回実行委員会
【議題】第六十六回収支決算、テーマ募集、第六十七回開催要綱、実行委員会会則等、実施計画、収支予算、役員の選出について　ほか

〈六月〉
五日　美術部門事務局員会議
二十四日　テーマ選定委員会（テーマ決定）

〈七月〉
一日　作品等の公募要項配布（美術展、県民文芸作品集、ビデオコンクール、声楽演奏会、ピアノコンクール＆演奏会、小・中学校美術展）
二十三日　アートフェスタいわて２０１４第１回企画・運営委員会

〈八月〉
二十八日　美術部門第２回実行委員会
二十九日　舞台等部門事務局員会議

〈九月〉
六日　美術展作品受付
七日　美術展作品審査（三賞決定）
十八日　第２回実行委員会
【議題】開幕式典の実施、感謝状贈呈候補者について

〈十月〉
四日　開幕式典・功労者表彰
十六日　美術展開催（四期に分けて展示。～十一月三日）
十七日　文芸部門県民文芸作品集選者等会議（三賞決定）
アートフェスタいわて２０１４第２回企画・運営委員会

〈十一月〉
十八日　巡回美術展開催（七市町。～十二月十四日）
二十四日　美術展等表彰式・祝賀会

〈十二月〉
十二日　小・中学校美術展開催（～十四日）
十三日　県民文芸作品集第四十五集刊行

十三日　県民文芸作品集第四十五集
　　表彰式・祝賀会
二十日　巡回小・中学校美術展開催（五市村。～二月一日）

〈一月〉

二十九日　アートフェスタいわて２０１４第３回企画・運営委員会

〈二月〉

十九日　美術部門第３回実行委員会
二十日　舞台等部門第２回実行委員会
二十四日　文芸部門第２回実行委員会
二十八日　アートフェスタいわて２０１４開幕（～三月二十二日）

〈三月〉

三日　第３回実行委員会

〈四月〉

十日　会計監査
三十日　記録集刊行

小・中美術作品応募について

1　募集する作品

⑴　種目　絵画、版画、デザイン（平面）とする。

⑵　主題　自由

⑶　画材　クレヨン、パス、水彩などいずれでもよい。

⑷　用紙　原則として４つ切（36cm×54cm）とする。**台紙に貼り付けないこと。**

2　出品方法

⑴　**出品票・出品目録・出品者名簿**を指定の様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会図工・美術部会ホームページからダウンロードのこと）

⑵　出品票は作品裏面右下に天地を正しくして糊付けすること。

⑶　作品は丸めたり折ったりしないで応募すること。

⑷　県内小中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。

⑸　例年三千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも出品票・出品目録・出品者名簿の正確な記入・締切を厳守すること。

⑹　入賞作品は、県教育長室への展示などのため、返却が翌年度になる場合がある。

小・中書写作品応募について

1　募集する作品

⑴　種目

小学校１・２年は硬筆、３年以上は毛筆半紙（国産半紙判）とする。

中学校は毛筆半紙か条幅のいずれか一人一点とする。

⑵　用紙

硬筆用紙は、岩手県書写書道研究会の書写コンクール硬筆用紙（B５判４ます×８ます：１ます2.5cm）とする。

毛筆半紙は国産半紙判、条幅は縦書きとする。

⑶　課題

硬筆

小１年　ひまわりが、お日さまみたいに、げんきにさいています。

小２年　かがやく光の中を、みんなはおよぎ、大きな魚をおいだ

した。

毛筆

	半紙課題	条幅課題
小３	水	
小４	世界	
小５	出発	
小６	希望	
中７	古都	真実の美
中２	活躍	優美な世界
中３	真理の探求	鋭敏な感性

⑷　小学校の書体はかい書、中学校の書体はかい書または行書とする。

⑸　毛筆作品の氏名は墨書すること。（表装しない）

硬筆・毛筆とも、氏名をひらがなで書いた場合は欄外に漢字氏名を鉛筆で書くこと。学年は書かなくてもよい。

⑹　作品の左上部に校名（〇〇立〇〇学校）を記すこと。（ゴム印可）

⑺　規格に合わない作品は審査しない。

2　出品方法

⑴　**出品目録**（下記の通り）、**出品者名簿**（今年度より迅速な受付・結果処理のため、書写作品についても出品者名簿を添付すること。様式は美術作品のものと同じ）を様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会図工・美術部会ホームページからダウンロードのこと）

⑵　県内小中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。

⑶　例年四千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも出品目録・出品者名簿の正確な記入・締切を厳守すること。

※出品目録　省略

第67回岩手芸術祭　小・中学校美術展作品募集要項

１　趣　　旨

第67回岩手芸術祭の一環として、県内小・中学校児童、生徒の書写・美術を展示し、広く県民に児童、生徒の作品について鑑賞の機会を提供するとともに、本県小・中学校の書写・美術教育の振興をはかる。

２　主　　催

岩手県教育委員会　岩手県文化振興事業団　岩手県芸術文化協会　岩手日報社　ＩＢＣ岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ　岩手朝日テレビ　エフエム岩手

３　後　　援

盛岡市　ＮＨＫ盛岡放送局　岩手県小学校長会　岩手県中学校長会
岩手県小学校教育研究会国語部会　岩手県書写書道教育研究協議会
岩手県小学校教育研究会図工部会　岩手県中学校教育研究会美術部会

４　運　　営

第67回岩手芸術祭実行委員会、岩手県小・中学校美術展協会

５　応募資格と出品点数

岩手県内の小学校・中学校に在籍している児童、生徒の作品で個人制作、各部門１人１点とする。

６　応募作品

○平成26年度に制作した作品で、各部門の定める規定に合致するものとする。
○出品料は無料とする。
○書写の応募作品は返却しない。美術作品について返却を希望する学校は、出品目録に記入すること。

７　出品方法

作品は学校を経由して所定の**出品票（書写は不要）、出品目録及び出品者名簿を必ず添付して出品すること**。

各様式は、岩手県教育研究会図工・美術部会ホームページ（http://www7b.biglobe.ne.jp/~iwate_zubiken/）からダウンロードのこと。必ずホームページを開いて名簿の様式を確認の上、応募してください。

８　受付期間

平成26年９月24日（水）から10月10日（金）まで。10月10日（金）必着のこと。

９　送 り 先

〈小学校作品送付先〉

〒020-0611　滝沢市巣子156-8
滝沢市立滝沢第二小学校内　　鎌　田　　慎　宛
TEL019-688-4002

〈中学校作品送付先〉

〒020-0833　盛岡市西見前16-37
盛岡市立見前南中学校内　　大　坂　　忍　宛
TEL019-637-3722

★小・中学校美術展にかかわるお問合せは滝沢市立滝沢第二小学校主幹教諭鎌田慎へお願いします。　TEL019-688-4002

10　審　　査

岩手県小・中学校美術展協会会長が委嘱した審査員により審査する。

11　入選入賞者の発表

入選・入賞者は審査終了後、出品学校長宛通知するほか、入賞者については岩手日報を通じて発表する。

12　褒　　賞

すぐれた作品に対し、各部門ごとに芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、その他の賞を贈る。

13　展　　示

展示は入選・入賞作品のみとし、展示方法は岩手県小・中学校美術展協会へ一任する。

14　展示期間

平成26年12月12日（金）から12月14日（日）までの３日間とする。
（12月12日～13日は９時から17時まで、14日は９時から16時まで）

15　展示会場

盛岡市内丸　岩手県民会館

16　巡 回 展

第67回岩手芸術祭巡回小・中学校美術展開催要項にもとづき、県内各地で巡回展示する。（作品は学年別、書写、絵画作品300点程度）巡回コースおよび日程については後日決定する。（巡回展の事務局は岩手県文化振興事業団総務部）

17　協　　賛

第29回国民文化祭・あきた2014協賛事業

また、ピアノ音楽の活性化を願い、ジュニア部門は従来通り演奏会を行い、一般部門はピアノコンクールと演奏会を並行して行う。

２　主　　催

岩手県教育委員会　岩手県文化振興事業団　岩手県芸術文化協会　岩手日報社　ＩＢＣ岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ　岩手朝日テレビ　エフエム岩手

３　後　　援

盛岡市　ＮＨＫ盛岡放送局

４　運　　営

第67回岩手芸術祭実行委員会　（一社）岩手県ピアノ音楽協会

５　開催日時

平成26年10月18日（土）（開場14：30）　ジュニアの部門　15：00～
一 般 の 部 門　17：00～

６　会　　場

岩手県民会館中ホール

７　応募資格

一 般 部 門　県内在住もしくは、県内に本籍がある18歳以上の方。
ジュニア部門　一般部門と同じ条件で高校生以下の方。

８　審 査 員

一般部門の審査のコンクールを対象として、第67回岩手芸術祭実行委員会が委嘱した下記の審査員により、審査を行う。（ジュニア部門の出演者は審査員のコメントを貰えるが、一般部門演奏会出演者はコメントを貰えない。）

審査員　林　　苑子（ピアニスト）
佐々木　素（武蔵野音楽大学准教授）
赤松林太郎（ピアニスト）

９　表　　彰

審査の結果、演奏の優れていると認められる者に、次の賞を贈る。
第１位　芸術祭賞／第２位　優秀賞／第３位　奨励賞

副賞として一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会より第１位芸術祭賞には賞金50,000円、第２位優秀賞には賞金30,000円、第３位奨励賞には賞金10,000円を授与する。その他に、第１位芸術祭賞受賞者には、１年間一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会が主催するコンサート（支部コンサートも含む。）に出演する資格が与えられる。

10　演奏内容

ジュニア部門　10分以内の任意の曲（ソロ、連弾）
一 般 部 門　20分以内の任意の曲（ピアノコンクールはソロのみ）
エントリー後の曲目の変更は認められません。

11　参 加 料

ジュニア部門　出演料　12,000円
チケット負担金　3,000円（３枚分）
計　15,000円

一 般 部 門　出演料　15,000円
チケット負担金　3,000円（３枚分）
計　18,000円

12　応募方法

所定の申込書に記入の上、それぞれの参加料を添えて９月10日（水）までに、下記申込先に現金書留にて郵送すること。（当日消印有効）

〒020-0117　盛岡市緑が丘2-2-11
一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会　事務局
電話・FAX019-661-2927

13　そ の 他

⑴　ジュニア部門連弾の出演料は、ワンステージとする。但し、チケットは、出演者人数分の負担とする。
⑵　問合わせ先は、申込先に同じ。
ＵＲＬ　http://www.bunka.pref.iwate.jp/hp/piano/
E-mail　iwatepref_piano@iaa.itkeeper.ne.jp

※申込書　省略

※　応募票　省略

第67回岩手芸術祭声楽部門演奏会　出演者公募要項

1　趣　　旨

県内に在住する声楽研究者に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

2　主　　催

岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会　岩手日報社、ＩＢＣ岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手

3　後　　援

盛岡市　ＮＨＫ盛岡放送局

4　運　　営

第67回岩手芸術祭実行委員会、岩手声楽研究会

5　募集内容

演奏日時	平成26年11月８日（土）午後２時より
会　　場	岩手県民会館中ホール
応募資格	年齢18歳以上の岩手県在住者、又は岩手県に本籍がある者
演奏内容	歌曲・オペラのアリア等、ひとり８分以内
伴 奏 者	各自、準備すること。事務局でも斡旋可能。
申込締切	平成26年８月31日（日）
出演経費	12,000円（チケット負担金含む）
応募方法	所定の申込用紙に記入の上、下記申込先に郵送すること。
そ の 他	・著作権料のかかる曲目は演奏者の負担とする。 ・公募出演は連続２年までとする。
申込み・問い合わせ先	（〒020-0133）盛岡市青山一丁目20-26 丸岡　千奈美　宛（電話019-647-1850）

※出演申込書　省略

第67回岩手芸術祭音楽部門ピアノコンクール＆演奏会　出演者公募要項

1　趣　　旨

県内に居住するピアノ学習者及び演奏家に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

9．応 募 先　〒020-0878　盛岡市肴町4-20　永卯ビル３階
いわてアートサポートセンター内　岩手県演劇協会
※問合せも同じ　（TEL　019-604-9020）

10．入賞発表　９月下旬、岩手日報紙上に掲載の予定。入賞者には直接通知します。

11．作品上映　《岩手芸術祭・映像フェスティバル》
日時：平成26年10月26日（日）午後１時～
会場：もりおか町家物語館ホール〈入場無料〉
入賞作品の上映発表と講評を行います。
県内各地で開催する「岩手芸術祭巡回美術展」の展示会場でも映像部門の受賞作品を上映します。（ただし、メディアや会場の都合により上映できない場合もあります）

12．表　　彰　入賞者の表彰は平成26年11月24日（月･振）盛岡市内「サンセール盛岡」で行います。

13．審 査 員
・中村好子（ＩＢＣ岩手放送本部編成局テレビ制作部長）
・道又　力（脚本家）
・こむろこうじ（岩手県演劇協会副会長）

14．　　賞
⑴　**〔芸術祭賞〕**　１点（賞状・賞金）
⑵　**〔優 秀 賞〕**　１点（賞状・賞金）
⑶　**〔奨 励 賞〕**　２点（賞状・賞金）
⑷　**〔部 門 賞〕**　若干（賞状）

15．応募細則
・入賞作品の著作権は応募者に帰属しますが、上映及びテレビ放送等について、１年間主催者が使用できるものとします。
・作品は上映発表会終了後、約１ヵ月以内にお返しいたします。
・不測の事故などによる作品の損傷等については当方での責任は負いかねますので念のためコピーでの保存をお勧めいたします。
・音楽、映像、写真等で著作権のあるものを利用するときは、各自で著作権使用許可の手続きを済ませてください。
・撮影にあたり、人物の肖像権、プライバシーの権利等に十分配慮してください。

「　　」　紫波町　　鷹觜　閲雄　選
「　　」　盛岡市　　藤嶋　政豊　選

賞　　文芸祭賞、優秀賞、奨励賞ほか

事 務 局　熊谷　岳朗
〔〒028-3309　紫波町北日詰大日堂18-2
電話019(676)3751〕

運　　営　岩手県川柳連盟

第67回岩手芸術祭［映像部門］岩手県映像コンクール

主　　催
岩手県教育委員会　岩手県文化振興事業団　岩手県芸術文化協会　岩手日報社　ＩＢＣ岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ　岩手朝日テレビ　エフエム岩手

後　　援
盛岡市　ＮＨＫ盛岡放送局

運　　営
第67回岩手芸術祭実行委員会　岩手県演劇協会

運営協力
特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

《作品募集要項》

１．題　　材　自由です。ただし、全国規模のコンクールで入賞した作品は応募できません。

２．規　　格　基本的にＤＶＤビデオまたはブルーレイとします。
注：その他のメディアでの応募の際は事前にご相談ください。

３．時　　間　３分以上15分以内

４．応募資格　岩手県在住または岩手県出身の方ならどなたでも応募できます。

５．応募点数　応募点数の制限はありません。ただし、１作品１ディスクとします。

６．出 品 料　１作品につき1,000円。

７．締 切 り　平成28年8月31日（日）　当日消印有効

８．応募方法　本要項末尾の「応募票」（又はコピー）に必要事項を記入し、ケースに貼り、ディスク等にも題名、氏名を明記し、出品料を添えて応募してください。

表　　彰　優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞、互選高点歌賞を贈る。

応募締切　平成26年８月31日（日）必着

事 務 局　山本　　豊
（応募先）　〔〒028-4125　盛岡市玉山区好魔字夏間木70-446
電話・FAX019(682)0103〕

運営委員　赤澤　篤司　　外舘　克裕　　山本　　豊

(8)　俳　　句

日　　時　平成26年10月11日（土）　午前10時～

会　　場　岩手県公会堂（盛岡市内丸11-2）

会　　費　2,000円（「県民文芸作品集」入選作品集代を含む）

作　　品　当季雑詠３句（投句締切　午前11時30分）

選　　者　小畑　柚流　　小菅　白藤　　川原　道程
草花　一泉　　畠山　濁水　　佐藤　嘉子
柳幸　ヨミ

表　　彰　優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞を贈る。

事 務 局　古川　公子
〔〒020-0051　盛岡市下太田下川原168-2
電話019(658)0254〕

運営委員　舞田　公子　　長谷川かよ子　　山火　律子
北田　祥子　　合川　　勧　　古川　公子

(9)　川　　柳

日　　時　平成26年10月12日（日）　午前９時30分～

会　　場　アイーナ501号室
（盛岡市盛岡駅西通1-7-1）

会　　費　2,000円（昼食、発表誌）懇親会3,000円（希望者）

宿題と選者　（各題２句吟）
「泡」　　釜石市　　小笠原正花　選
「こころ」　青森県南部町　八木田幸子　選
「無限」　　盛岡市　　中島　久光　選
「豊作」　　盛岡市　　小原　余吾　選
「雑詠」　　花巻市　　塩釜アツシ　選

席題と選者　（題は当日10時発表）

内　　容　講演　①朝の朗読　　講師　中村　祥子
②講演「奥・遠野物語」　講師　遠藤　公男
③県民文芸作品集応募作品の選評と合評
事 務 局　田沢　五月
〔〒023-0401　奥州市胆沢区南都田字漆町138
電話0197(46)3078〕
運営委員　高橋　昭　藤原　成子　田沢　五月

(6) 詩
日　　時　平成26年10月19日（日）　午前10時～午後3時頃
会　　場　なはんプラザ
〔花巻市定住交流センター〕第１会議室
（花巻市大通り1-2-21）
会　　費　1,000円（当日受付。資料代他。）
応募作品　未発表作品３篇以内・・・Ａ４判原稿用紙使用、１編につき５枚以内で、右とじのこと。ワープロ原稿はＡ４判に印字のこと。
投 稿 料　1,000円郵便為替同封のこと。（為替の入っていないものは受け付けません）
選　　者　照井　良平　松﨑みき子　上斗米隆夫
表　　彰　厳正な審査により、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞、佳作を贈る。
応募期間　平成26年７月１日（火）より９月１日（月）《必着のこと》
事 務 局　岩手県詩人クラブ文芸祭事務局
（応募先）〔〒020-0108　盛岡市東黒石野2-8-3　かしわばらくみこ
電話019(661)5796〕
運営委員　東野　正　かしわばらくみこ　伊藤　諒子

(7) 短　　歌
日　　時　平成26年10月11日（土）　午前10時～午後３時頃
会　　場　盛岡市勤労福祉会館（盛岡市紺屋町2-9）
会　　費　出詠料1,000円、当日会費1,000円（弁当代含む）
（後日、互選のための詠草集に同封したします払込取扱票にて払い込むこと）
詠　　草　１首（未発表作品、はがきを使用のこと）
選　　者　朝倉　賢　阿部　源吾　石川　節子
小野寺政賢　菊澤　研一

会　　場　岩手大学図書館内生涯学習多目的学習室
（盛岡市上田3-18-33）
内　　容　小講演と研究発表と懇親会
講演　牛崎　敏哉
「宮澤賢治研究の現在」
望月　善次
「啄木をめぐる国際学会の情勢」
ほか１名
研究発表（４～６人）
★発表資格：次の1.又は2.のいずれかを満たす方
１.『県民文芸作品集（評論の部）』応募者。
２．９月６日（土）までに事務局へ発表趣旨（Ａ４判、１枚程度）と共に申し出た方。
なお、希望者多数の場合は、運営委員によって選考する。
参 加 費　無料
事 務 局　宮沢賢治記念館内　牛崎　敏哉
〔〒025-0011　花巻市矢沢1-1-36
電話0198(31)2319　FAX0198(31)2320〕
運営委員　牛崎　敏哉　望月　善次
そ の 他　懇親会（参加費　1,000円）

(4) 随　　筆
日　　時　平成26年10月25日（土）　午後１時～
会　　場　岩手県公会堂14号室
（盛岡市内丸11-2）
内　　容　県民文芸作品集応募作品の講評
講師　須藤　宏明　野中　康行
運営委員　第67回岩手芸術祭実行委員会事務局
（岩手県文化振興事業団総務部内）
〔〒020-0023　盛岡市内丸13-1
電話019(654)2235　FAX019(625)3595〕

(5) 児童文学
日　　時　平成26年11月９日（日）　午後1時～
会　　場　宮古市立図書館
（宮古市宮町3-2-2）

第67回（平成26年度）岩手芸術祭『文芸祭』開催要項

1　趣　　旨

第67回岩手芸術祭の一環として、『文芸祭』を開催し、文芸活動の振興を図る。

2　主　　催

岩手県教育委員会　岩手県文化振興事業団　岩手県芸術文化協会　岩手日報社　ＩＢＣ岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ　岩手朝日テレビ　エフエム岩手

3　後　　援

開催地市町村教育委員会

4　運　　営

第67回岩手芸術祭実行委員会

5　応募及び大会参加資格

岩手県在住者、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方

6　種目毎の大会の内容

(1)　小　　説

日　　時　　平成26年10月26日（日）　午後２時～

会　　場　　岩手県公会堂12号室（盛岡市内丸11-2）

内　　容　　「応募作品選評」　講師　柏葉　幸子　斎藤　純

運営委員　　第67回岩手芸術祭実行委員会事務局
（岩手県文化振興事業団総務部内）
〔〒020-0023　盛岡市内丸13-1
電話019(654)2235　FAX019(625)3595〕

(2)　戯　　曲

日　　時　　平成26年11月23日（日）　午後１時半～

会　　場　　盛岡劇場タウンホール（盛岡市松尾町3-1）

参 加 費　　500円

内　　容　　「戯曲リーディング＆ブラッシュアップＷＳ」

事 務 局　　高村　明彦
〔〒020-0051　盛岡市下太田沢田68-18
電話019(658)1108〕

運営委員　　昆　明男　　倉持　裕幸　　高村　明彦

(3)　文芸評論

日　　時　　平成26年10月12日（日）
午後１時～５時（12時30分受付）

別　表

種目	内　　容	応　募　書　式	枚　　数	選　　者
小説		原稿用紙を使用し、右とじにすること。規格はＢ４判で20字×20行400字詰のものに縦書きとする。 ワープロ等を使用する場合もこの規格に割付けたものとする。 行あけ等を明確にすること。(ワープロ等使用の場合は、Ａ４判も可) 文芸評論については、ワープロ等を使用する場合、字数制限内であれば原稿用紙使用にこだわらない。 〈点字の場合〉32マスの点字器を使用した場合、点字用紙片面打ち16行を１枚とする。他の点字器を使用する場合はこれに準ずること。 (1)　会話の部分は行を改め、「」を使用すること。 (2)　段落は３マス目から書きはじめ、点字用紙にページを打つこと。 (3)　繰返符号は用いないこと。 (4)　句点を入れること。 (5)　墨字訳に当たって使用を希望する漢字がある場合には、別紙に箇条書きにすること。随筆については、上記書式の外、題名、氏名、性別、年齢、住所、電話番号、受賞歴等を記入した別紙をつけること。(右の枚数に別紙は含まない。)	30枚以内 点字は40枚以内	柏葉　幸子 斎藤　　純
戯曲・シナリオ	①演劇一幕もの ②ラジオドラマ ③テレビドラマ		50枚程度 点字は66枚程度 (①～③を明示)	昆　　明男 中村　好子
文芸評論	研究的内容のものも可とする。		30枚以内 点字は40枚以内	望月　善次 牛崎　敏哉
随筆			４枚 点字は６枚	須藤　宏明 野中　康行
児童文学	フィクション、ノンフィクションを問わない。少年少女詩、童謡の場合は３篇以内とする。		30枚以内 点字は40枚以内	高橋　　昭 藤原　成子 齋藤　英明
詩	３篇以内とする。	Ａ４判規格原稿用紙、又はＡ４用紙に20字×20行で縦書きとする。行空け明記。右とじ。(ワープロ等を使用する場合についてもこの規格によること) 欄外に住所、氏名、年齢、電話番号、１篇毎の原稿枚数、通し番号（１－１、１－２…）を明記すること。	１篇につき ５枚以内	照井　良平 松﨑みき子 上斗米隆夫
短歌	未発表作品10首	原稿用紙Ｂ４判400字詰１枚に10首、欄外に題名を記入し、裏面に住所、氏名、性別、年齢、電話番号を記入のこと。	１人１枚に限る。	伊藤　幸子 小笠原和幸 菊池　英一 菊池　哲也 鈴木八重子
俳句	雑詠７句	はがきを使用すること。 （句数が不足しないよう注意すること。） 〈点字の場合〉点字用紙を使用すること。	１人１枚に限る。	小畑　柚流 小菅　白藤 川原　道程 草花　一泉 畠山　濁水 佐藤　嘉子 柳幸　ヨミ
川柳	雑詠10句		１人１枚に限る。	中島　久光 宇部　　功 千葉　暘子

第67回（平成26年度）岩手芸術祭『県民文芸作品集』第45集公募要項

1　趣　　旨

第67回岩手芸術祭の一環として、『県民文芸作品集』を刊行し、文芸活動の振興を図る。

2　主　　催

岩手県教育委員会　岩手県文化振興事業団　岩手県芸術文化協会　岩手日報社　ＩＢＣ岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ　岩手朝日テレビ　エフエム岩手

3　後　　援

盛岡市　ＮＨＫ盛岡放送局

4　運　　営

第67回岩手芸術祭実行委員会

5　応募資格

岩手県在住者（経験者も含む）、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方。

県外の応募者にあっては岩手県との関わりを記入すること（かつて居住した岩手県の市町村名など）。

6　公募種目

別表のとおり

7　応募上の注意

⑴　未発表の創作作品であること。

⑵　ペン、又は、ボールペンを使用し、鉛筆は使用しないこと。（ワープロも可）

⑶　投稿後の訂正は認めないので、推敲のうえ、かい書で清書して、完全原稿で応募すること。

⑷　応募作品は返却しないので、必要とする場合はコピーをとっておくこと。

⑸　**応募作品の末尾に、住所、氏名（筆名を使用する場合は、本名も必ず記入すること。）、性別、年齢、電話番号を記入し、氏名にはふりがなをつけること。**

8　応募締切

平成26年８月31日（日）当日消印有効（受付開始は７月１日（火）とする。）

9　応 募 先

〒020-0023　盛岡市内丸13番１号　岩手県民会館内

岩手県芸術文化協会『県民文芸作品集』係

封筒、はがきの表に「県民文芸作品集（作品種別を記入）応募作品」と朱書きすること。

電子メールでの応募先

geijyutsu67@iwate-bunshin.jp

（標題に「県民文芸作品集応募作品」と明記）

10　審査結果

平成26年10月下旬に入賞入選者あて通知する。また、三賞受賞者については岩手県文化振興事業団のホームページ上で公表する。

11　表　　彰

種目ごとに審査のうえ、芸術祭賞（１点･賞金３万円）、優秀賞（１点･賞金２万円）、奨励賞（２点・賞金各１万円）を贈る。

〇表彰式　平成26年12月13日（土）（会場：サンセール盛岡）

12　作品の発表

芸術祭賞、優秀賞及び奨励賞に入賞した作品は、『県民文芸作品集』に掲載する。なお、詩、短歌、俳句及び川柳の４種目については、入賞作品のほか、佳作、選者賞などの入選作品についても掲載する。掲載する作品は選者が添削することがある。

13　『県民文芸作品集』刊行予定日

平成26年12月13日（土）

14　個人情報の取り扱い

応募された方の個人情報は、審査結果の通知、作品集への掲載、表彰式の開催案内など、作品集刊行業務の範囲内に限り利用（入賞者の氏名等の公表を含む）するものであり、それ以外の目的には一切使用しない。

事　務　局　竹村育貴　〒020-0021　盛岡市中央通3-2-17
盛岡情報ビジネス専門学校内　TEL　019-622-1500

●現代美術

出 品 作 品　「現代美術」とは、1945年以降に現れたさまざまな傾向の前衛的な美術を指します。ここでは、平面、立体、映像、インスタレーション、音響を含むものなど、様式や技法にとらわれない表現を扱います。「現代美術」は、「ものを見ること（視覚認識）」や「社会をどう見つめるか」ということを常に問題にしてきました。みなさんの新鮮な作品をお待ちしています。

大　き　さ　大きさは、
- 立体、インスタレーション＝床面積15㎡以内×高さ８ｍ以内
- 平面＝10㎡以内

出品点数・出品料　１人２点まで、１点3,500円、２点5,000円

審　査　員　梅津　元（埼玉県立近代美術館主任学芸員）

事　務　局　浅倉　伸　〒020-0862　盛岡市東仙北2-2-29
TEL090-7337-7232（直通）

●水墨画

作品の規格　⑴作品寸法Ｆ８（38×45.5）以上～和紙全紙をメド
⑵表　　装　額装（アクリル使用のこと。ガラス使用不可。）
・軸装

出品点数・出品料　１人１点　3,000円

出 品 申 込　９月３日（水）までに事務局に申込むこと。

審　査　員　鈴木　孝男（岩手県水墨画協会会長）
岸本カヨ子（　　〃　　副会長）
工藤　瑞則（　　〃　　副会長）
粒針　秀郎（　　〃　　監事）

鑑　賞　会　10月13日（月・祝）午後１時～２時　会場にて実施する。

事　務　局　菊池一政　〒028-3316　紫波町佐比内字中屋敷120
TEL・FAX019-674-2258

すること。
㈱　連結しない写真、蝶番の使用など他の作品に傷をつけるようなもの、及びガラス入り額等破損の恐れのあるものは受け付けない。

審　査　員　山本純一（日本写真家協会会員）
審査　９月７日（日）午前10時　公開審査とする（搬入場所）

出品点数・出品料　１人２点まで。42㎝×51㎝以上長辺100㎝まで3,000円。左の寸法を越える～最大120㎝×210㎝まで4,000円。学生（高校生以上）2,000円。

そ　の　他　展示は原則として入選作以上で１人１点とする。

事　務　局　松本賀久也　〒020-0131　盛岡市中堤町25-24
TEL019-647-4276

●デザイン

応 募 資 格　一般・大学生・専門学校生・高校生

出 品 作 品　平面デザインに限ります。（立体及び半立体は不可）社会的規範に反する作品は展示しない場合があります。
・作品はすぐに展示できるよう、パネル裏面に必ず吊り金具、ひも等をつけること。
Ａ部門．ポスター及びイラストレーション
Ｂ部門．課題作品＝（盛岡ロータリークラブ協賛）21世紀の地球環境を考える。（地球をとりまく環境全般をテーマとします。）
「盛岡ロータリークラブ」は明記すること。マークは位置指定のみでも可。

作品の体裁・規格
⑴　Ａ部門．自由作品はＢ全判パネル（103㎝×72.8㎝）
Ｂ２判パネル（72.8㎝×51.5㎝）
⑵　Ｂ部門．課題作品はＢ全判パネル（103㎝×72.8㎝）
タテ位置に限る。
・出品目録の種別欄には、出品部門（Ａ部門またはＢ部門）を記入のこと。

出　品　料　１点3,000円（高校生は1,000円）、１点増すごとに1,000円加算（高校生は500円加算）

審　査　員　工藤強勝（グラフィックデザイナー）
村上由美子（岩手デザイナー協会会長）

立方体でない場合は、おおよその換算による大きさとする。重量50kg以内

出品点数・出品料　１点4,000円、１点増すごとに1,000円加算

審　査　員　沓澤則雄（日展会員）　菊池房江（岩手工芸美術協会会長）

工芸セミナー（審査講評を兼ねながら）

９月７日（日）午後２時～３時

北ホテル２階会議室

事　務　局　佐々木秀次　〒025-0066　花巻市松園町371-3

TEL0198-23-2580

●書道

作品の種別・規格

⑴種　　別　漢字、かな、篆刻・刻字、漢字かな交じり書（近代詩文書等）、前衛書

⑵仕上がり寸法　横１辺182cm（６尺）以内　縦１辺242cm（８尺）以内　面積　1.48㎡（16平方尺）以内　重量15kg以内

⑶仕　　立　額、枠装（帖、軸装は認めない）　ガラス入りは認めない（アクリルは可）

出品点数・出品料　１人１点4,000円

審　査　員　佐藤平泉（奥州市）斎藤溪石（滝沢市）　堀内青巒（二戸市）野田杏苑（滝沢市）吉田晨風（盛岡市）佐々木飛鴻（盛岡市）佐竹松濤（奥州市）佐渡谷小琴（矢巾町）白澤竹圓（滝沢市）松戸亮濤（奥州市）

鑑　賞　会　10月５日（日）午前11時～12時　会場にて実施する。

事　務　局　佐々木飛鴻　〒020-0107　盛岡市松園2-11-3

TEL019-663-2595

●写真

出 品 作 品　**⑴テーマ**　自由。種類　モノクロ、カラー、デジタル　いずれも可。

⑵サイズ　単写真・組写真・連写真を問わずいずれも全体の仕上がりは、外寸42cm×51cm以上外寸120cm×210cmまでとする。

⑶木製パネルに限る。

⑷いずれもそのまま展示できるよう、裏面に紐をつける。特に組写真は１枚のパネルに、また、連写真は連結して搬入

額装のこと。

出品点数・出品料　１人１点　4,000円

招　　待　本年度の洋画部門芸術祭賞受賞者は、次年度に限り招待する。出品は本人の意思にゆだねる。

審　査　員　洋画部門理事

合　評　会　11月３日（月・祝）午後１時～　審査員と出品者による合評会を開催する。

事　務　局　日下信介　〒020-0887　盛岡市上の橋町7-57

県立盛岡第二高等学校内　TEL019-622-5101

●版画

出 品 作 品　版種は自由。公募展未発表の自作の版表現されたもので、複数表現できるもの。

（手彩色手法の作品は認めない）作品には題名とサインを必ず記入してください。

大　き　さ　額装を含めて縦・横、180cm以内の陳列に支障のないもの。

出品点数・出品料　２点まで3,000円、３点まで5,000円

審　査　員　田村春樹（画家）、阿部陽子（版画家、国画会会員）

合　評　会　10月13日（月・祝）午後２時から審査員を囲んで。

事　務　局　鈴木和雄　〒028-3601　矢巾町高田9-40-15

TEL019-611-0575

●彫刻

作品の規格　出品作品は、大きさ２ｍ×２ｍ×２ｍ以内のオリジナル作品とし、会場汚損並びに観客に危害を及ぼすおそれのある作品及び仏像彫刻を除く。ただし、50kgを超す作品については、展示・運搬は出品者が行うものとする。

出品点数・出品料　１点3,000円（高校生は1,000円）、１点増すごとに1,000円加算

審　査　員　新藤彰一（彫刻家）

事　務　局　曽根達也　〒028-3615　紫波郡矢巾町大字南矢幅9-1-1

県立不来方高等学校内　TEL019-697-8247

●工芸

出 品 作 品　美術工芸並びに産業工芸等、いずれの性格のものでもかまわないが、**創作性の高い未発表**のものであること。

大きさ・重さ［壁面］180cm×150cm以内

［立体］50cm×50cm×50cm以内

田町中央公民館、岩泉町民会館、久慈市文化会館、一戸町コミュニティセンター

15　その他

⑴　出品作品の不慮の災害による損害については、主催者はその責を負わない。

⑵　搬入・搬出及び荷造りの費用は、出品者の負担とする。

⑶　出品作品が本芸術祭の記録集、主催団体等が運営するインターネットのホームページ、報道及び広報などに掲載される場合があることを出品者があらかじめ容認の上、出品するものとして取り扱う。

⑷　報道機関の取材等に対しては、出品者の氏名、居住市町村名の情報提供及び作品の写真撮影を許可することがある。

⑸　別紙、出品目録及び出品票に記入された個人情報は、審査結果の通知、展示目録等印刷物の作成、表彰式の開催案内など、岩手芸術祭美術展の運営業務の範囲内に限り利用するものであり、それ以外の目的には一切利用しない。

●日本画

作品の規格　⑴作品は、すべて枠付として表装すること（ガラス抜き）を原則とし、軸装も許可する。
⑵100号以内とする。
⑶寸法は、枠付ではかること。
⑷作品はすぐ展示できるよう、金具、吊具は必ずつけること。

出品点数・出品料　１点3,000円、２点5,000円

審　査　員　西川善有（盛岡市）　渡辺　操（滝沢市）　片山道子（盛岡市）

事　務　局　菊地正義　〒020-0042　盛岡新田町3-19
TEL019-652-1860

●洋画

出 品 作 品　出品者の創作によるオリジナル作品で平面（油彩、水彩等）及び立体作品。ただし、音響、電気による作品及び動物、悪臭を発する作品、腐敗する可能性のある作品を除く。作品は額装し、すぐ展示できるよう、金具、吊具、ひも、針金等を必ずつけること。

大きさ・重さ　［立体］縦、横、高さ、各1.7ｍ以内　重量50kg以内
［平面］縦、横、額（ガラスなし、アクリル可）含み２ｍ以内
（規格木枠の場合はＳ130号以内）突出50㎝以内
作品の保護のための額縁等（画面より厚みを持ったもの）で

11　展　　示

展示は、入賞・入選作品並びに招待作品とし、展示方法は実行委員会に一任のこと。

ただし、彫刻、現代美術は裏面記載のとおりとする。

12　搬　　出

⑴　輸送搬出

部　　門	搬出日時	搬出場所	注　　意
工芸・書道	10月７日（火） 16時～17時	岩手県民会館 第１・２展示室	搬出指定日時に搬出しない場合は、実行委員会の指定する業者により荷造り、送料とも着払いで返送する。
日本画・版画・水墨画	10月13日（月・祝） 16時～17時		
写真・デザイン・現代美術	10月19日（日） 16時～17時		
洋画・彫刻	11月３日（月・祝） 16時～17時		

⑵　輸送搬出

部　　門	搬出日時	注　　意
工　芸	10月７日（火）16時～17時	＊輸送による搬出を希望する場合は事前に部門事務局へ申し出の上、指示に従うこと。
水墨画	10月13日（月・祝）16時～17時	
写　真	10月19日（日）16時～17時	
洋　画／彫　刻	11月３日（月・祝）16時～17時	

※上記に記載された部門以外の輸送搬出は認めない。

13　表彰式

入賞者については、平成26年11月24日（月・振）に行う表彰式において表彰する。（会場：サンセール盛岡）

14　巡回美術展

岩手県民会館での本展終了後、各部門の芸術祭賞１点、優秀賞１点、奨励賞２点及び部門賞のうち部門推薦４点（計８点）を県内市町村において巡回展示する。

○巡回期間（予定）：平成26年11月18日～12月14日

○開催場所：奥州市文化会館、一関文化センター、宮古市立図書館、山

第67回岩手芸術祭美術展公募要項

1　趣　　旨

県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。

2　主　　催

岩手県教育委員会・岩手県文化振興事業団・岩手県芸術文化協会・岩手日報社・ＩＢＣ岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・エフエム岩手

3　後　　援

盛岡市　ＮＨＫ盛岡放送局

4　展示会場及び日時

岩手県民会館展示室

〈第１期〉工芸・書道
10月４日（土）～10月７日（火）
10時～17時（最終日は16時まで）

〈第２期〉日本画・版画・水墨画
10月10日（金）～10月13日（月・祝）
10時～17時（最終日は16時まで）

〈第３期〉写真・デザイン・現代美術
10月16日（木）～10月19日（日）
10時～17時（最終日は16時まで）

〈第４期〉洋画・彫刻
10月31日（金）～11月３日（月・祝）
10時～17時（最終日は16時まで）

5　応募資格

岩手県内在住者、本籍が岩手県にある者、岩手県出身者または岩手県内学校に在籍したことがある人。（書道、洋画部門は高校生以下を除く。）

6　公募作品

公募作品は日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書道・写真・デザイン・現代美術・水墨画の10部門とし、各部門の公募要項（裏面）による。**作品は未発表作品**とする。

7　作品の受付、返還

作品は所定の出品目録とともに下記のとおり所定の期日に搬入し、作品の裏面には所要の事項を記入した出品票をはりつけ、各部門の受付所

に提出すること。

なお、出品物を受け付けたときは、受付証を交付するので、搬出のときの引換証とすること。

8　搬　　入

(1)　直接搬入

部　　門	搬入場所	搬入日時
日本画	岩手県公会堂11号室	９月６日（土） 10時～16時
写真	岩手県公会堂26号室	
版画・デザイン・水墨画	岩手県民会館第１展示室	
洋画・工芸・書道・現代美術	岩手県民会館第２展示室	
彫刻	岩手県民会館地下収蔵庫	

(2)　輸送搬入

部　　門	あ て 先	搬 入 日
日本画・写真	〒020-0023　盛岡市内丸11-2 岩手県公会堂内 芸術祭美術展○○部門受付	９月６日（土）に限る。 ※輸送業者に配達日を指定すること。 （梱包表面に「美術展○○部門出品物」と大きく朱書きのこと。）
洋画・版画・彫刻・工芸・デザイン・水墨画	〒020-0023　盛岡市内丸13-1 岩手県民会館展示室内 芸術祭美術展○○部門受付	

※書道、現代美術作品の輸送搬入は認めない。

※輸送搬入の場合の出品受付証、出品目録、出品料は９月２日（火）までに各部門事務局あて送ること。

9　審査及び発表

審査は、第67回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した審査員により、９月７日（日）に搬入会場で行い、部門ごとに、芸術祭賞（１点）、優秀賞（１点）、奨励賞（２点）及び部門賞を贈る。審査の結果は、本人あて通知する。

10　展示作業日

岩手県民会館　〈第１期〉10月３日（金）９時～21時
〈第２期〉10月９日（木）９時～21時
〈第３期〉10月15日（水）９時～21時
〈第４期〉10月30日（木）９時～21時

（様式１）

年　　月　　日

第　　回岩手芸術祭実行委員会
会長　　様

〔申請者〕
団体名
代表者
住所
氏名
電話番号

第　　回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認について

下記事業について、第　　回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

記

１　事業の名称

２　事業の目的

３　事業の主催者

４　事業の実施期間及び会場

（添付書類）
１　事業概要（内容、入場料、後援団体等）が明らかになる書類
２　事業の収支予算書
３　主催者が民間団体の場合は、会則、役員名簿、会員名簿、活動状況等団体の性格・内容が明らかになる書類
４　その他必要と認める書類

（様式２）

年　　月　　日

第　　回岩手芸術祭実行委員会
会長　　様

団体名
代表者
住所
氏名
電話番号

第　　回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認に係る事業報告について

年　　月　　日付け岩手芸術祭第　　号で承認された事業が終了したので、関係書類を添えて報告します。

記

１　事業の名称

２　事業の主催者

３　事業の実施期間

４　会場

５　出演者・出品者数

６　入場者数

（添付書類）
事業の収支決算書、後援者、プログラム・パンフレット、事業の内容を撮影した写真等を添付すること。

ウ　事業の資金計画が十分なものであること。
エ　営利を目的としないものであること。
オ　事業の実施に当たっては、事故防止対策、公衆衛生対策等に十分の措置が講ぜられているものであること。

３　承認の手続

会長は、主催者からの申請書を受理した場合は、２の基準に基づいて審査し、結果を申請者に文書により通知するものとする。

４　主催者の責務

⑴　事業の主催者及び関係者は、岩手芸術祭の趣旨に反する行為を行ってはならない。
⑵　事業の主催者及び関係者は、２に掲げる基準の趣旨に反する行為を行ってはならない。
⑶　事業の主催者は、所属する職員や関係者等が、前２号に該当する行為を行っている疑いがある場合は、会長に報告するとともに、必要な調査を行い、その事実が判明した場合は速やかに是正するとともに、その結果を会長に報告しなければならない。
⑷　事業の主催者は、前号に係わり、会長から是正等についての指示があった場合は、これに従わなければならない。

５　承認の取消

事業の主催者が４の⑷の指示に従わないときは、会長は、承認を取り消すこととする。

６　事業実施報告

事業の主催者は、事業の終了後、１か月以内に事業報告書（様式２）を会長に提出しなければならない。

⑴　岩手芸術祭の運営に携わり、概ね10年以上にわたって、岩手芸術祭の発展に貢献した者
⑵　岩手芸術祭公募部門の審査員又は選者として、概ね10年以上にわたって部門の発展に尽力した者
⑶　岩手芸術祭各部門の指導者として、概ね20年以上にわたって後進の育成に尽力した者で、概ね60歳を超えている者
⑷　その他岩手芸術祭の運営等に携わり多大な功績を示し、特に表彰に値すると認められる者

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認事務手続要領

１　申請手続

主催者は、当該事業が実施される期日（ポスターその他の印刷物等に「岩手芸術祭協賛事業」の名義を印刷する場合は、その印刷日）の遅くとも１か月前までに、岩手芸術祭実行委員会会長（以下「会長」という。）あての申請書（様式１）を提出するものとする。

この申請書には、次の書類を添付しなければならない。

⑴　事業の概要（事業の目的、実施日時、会場、事業内容、事故防止対策、公衆衛生対策、入場料、共催・後援団体名等）
⑵　事業の収支予算書
⑶　主催者が民間団体である場合は、定款、寄附行為、会則、役員名簿、会員数、活動状況等当該団体の性格及び内容を明らかにする書類

２　承認の基準

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用を承認する基準は、次のとおりとする。

⑴　主催者が、次のいずれかに該当するものであること。
ア　国又は地方公共団体（公社、公団を含む。）
イ　公益法人（宗教法人を除く。）
ウ　新聞、ラジオ、テレビ等の報道機関
エ　岩手芸術祭の趣旨に沿う事業を実施しようとする企業等
オ　芸術文化団体、実行委員会その他の公益的団体（芸術文化活動そのものを目的としたものに限る。）
カ　その他上記に準ずると認められるもの。
⑵　事業の内容が、次の各号に適合するものであること。
ア　事業の内容が岩手芸術祭の趣旨に沿うものであること。
イ　事業が、特定の範囲ではなく、一般の人に公開されるものであること。

祭の発展に資することを目的とする。

（感謝状を贈呈されるもの）

第２条　感謝状を贈呈されるものは、個人又は団体であって、次の各号の一に該当するものについて行う。

⑴　岩手芸術祭の運営に携わり、多年にわたり芸術祭の発展に貢献したもの

⑵　岩手芸術祭公募作品の審査員又は選者として、多年にわたり部門の発展に尽力したもの

⑶　岩手芸術祭の各部門の指導者として、永年にわたり後進の育成に尽力したもの

⑷　その他特に表彰に値する功績があると認めたもの

（方　法）

第３条　顕彰は感謝状を贈呈して行い、その氏名及び団体名並びに事績を顕彰録等によって公表する。

２　感謝状には、記念品を併せて贈ることができる。

３　故人の場合は、感謝状その他を遺族に贈り追彰する。

（実　施）

第４条　感謝状を贈呈されるものは、岩手芸術祭実行委員会において承認されなければならない。

２　感謝状及び記念品は、岩手芸術祭実行委員会会長の名によって授与する。

３　その他この規程に関し必要な事項は、別に会長が定める。

附　則

この規程は、昭和55年５月21日から施行する。

附　則

この規程は、平成元年９月５日から施行する。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する選考基準

１　趣旨

この基準は、岩手芸術祭実行委員会が感謝状を贈呈することについて、必要な事項を定めるものとする。

２　感謝状を贈呈される者

感謝状を贈呈される者は、次の各号に該当する者とする。

ただし、刑罰（道路交通法関係を含む。）を受けて２年を経過しない者は対象としない。

第67回岩手芸術祭美術部門実行委員会運営規程

（趣　旨）

第１条　この規程は、第67回岩手芸術祭実行委員会会則第８条第４項の規定に基づき、美術部門実行委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（委　員）

第２条　委員会は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の推薦に基づき、第67回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する20人以内の委員をもって構成する。

２　委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度の末日までとする。

（役　員）

第３条　委員会に委員長を置く。

２　委員長の選任は、委員の互選とする。

３　委員長は、委員会の業務を統括する。

（会　議）

第４条　委員会の会議は、必要に応じて、委員長が招集する。

２　会議の議長は、委員長がこれに当たる。

（事務局）

第５条　委員会の事務を処理するため、必要に応じて、一般社団法人岩手県芸術文化協会に事務局を置く。

２　事務局に次の職員を置く。

⑴　事務局長　　１人

⑵　事務局次長　２人

⑶　事務局員　　若干名

３　事務局の職員は、委員の中から委員長が指名する。

４　事務局長は、委員会の事務を掌理する。

５　事務局次長は、事務局長を補佐する。

６　事務局員は、事務局長の命を受けて、委員会の事務を処理する。

（補　則）

第６条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する規程

（目　的）

第１条　この規程は、岩手芸術祭に関する功労について顕彰し、岩手芸術

第67回岩手芸術祭運営組織

【実行委員会】

区分	種目	実行委員
主催者		4人 県教育委員会事務局 生涯学習文化課 総括課長 県文化振興事業団 理事長 県芸術文化協会会長 〃 副会長
美術展（巡回美術展）	日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、写真、デザイン、現代美術、水墨画	2人
演劇	演劇	1人
伝統芸能	能楽、邦楽、茶道、華道、吟剣詩舞道、琉球舞	2人
音楽	合唱、声楽、吹奏楽、ピアノ、ギター	4人
舞踊	日舞、洋舞、民謡、新舞踊	2人
演芸	短歌、俳句、川柳、児童文学、戯曲、小説、随筆、文芸評論	1人
文（県民文芸作品集）（文芸）	詩、児童文学、戯曲、小説、随筆、文芸評論	2人
小・中学校美術展（巡回小中学校美術展）	小学校　絵画、書写 中学校　美術、書写	1人
地域		2人 市町村 総合芸術文化団体
合計		21人

岩手芸術祭主催者
県教育委員会
県文化振興事業団
県芸術文化協会
岩手日報社
ＩＢＣ岩手放送
テレビ岩手
めんこいテレビ
岩手朝日テレビ
エフエム岩手

実行委員会会長
（芸文協会長）

岩手芸術祭
実行委員会事務局
◎事務局長
文化振興事業団
事務局長
◎事務局次長
芸文協事務局長
文化振興事業団
総務課長
◎事務局員
県教委生涯学習
文化課職員
文化振興事業団職員
県芸術文化協会職員

【部門実行委員会】

部門	種目	部門実行委員
美術 10種目 20人	日本画 洋画 版画 彫刻 工芸 書道 写真 デザイン 現代美術 水墨画	2人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
演劇 映像	演劇 映画	2人 1人
伝統芸能 5種目 10人	能楽 邦楽 茶道 華道 吟剣詩舞道 琉球舞	2人 〃 〃 〃 〃 〃
音楽 7種目 14人	合唱 声楽 吹奏楽 ピアノ ギター	2人 〃 〃 〃 〃 〃
舞踊 2種目 4人	日舞 洋舞	2人 〃
演芸 2種目 4人	民謡 新舞踊	2人 〃
文芸 9種目 21人	短歌 俳句 川柳 児童文学 戯曲 文芸評論 小説 随筆	3人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
合計	8部門37種目	77人

（部門実行委員会）

第８条　岩手芸術祭の各部門の円滑な運営を図るため、必要に応じ、部門実行委員会を置く。

２　部門実行委員会は、次に掲げる事項について協議し、各部門の運営にあたる。

⑴　各部門の企画及び実施に関すること。

⑵　各部門の予算及び決算に関すること。

⑶　実行委員会から付託された事項に関すること。

⑷　その他各部門の運営に関し必要な事項

３　部門実行委員会委員は、会長が委嘱する。

４　部門実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（事務局）

第９条　この会の事務を処理するため、公益財団法人岩手県文化振興事業団に事務局を置く。

２　一般社団法人岩手県芸術文化協会に事務局の分室を置く。

３　事務局には、次の職員を置く。

⑴　事務局長　　１人

⑵　事務局次長　　２人

⑶　事務局員　　若干名

４　事務局長は、公益財団法人岩手県文化振興事業団事務局長の職にある者をもって充て、その他の職員は会長が委嘱する。

（経費）

第10条　この会の運営に要する経費は、負担金その他の収入をもって支弁する。

（会計年度）

第11条　この会の会計年度は、実行委員会の設置の日に始まり、その年度の末日に終わる。

（補則）

第12条　この会則に定めるもののほか、この会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附　　則

この会則は、平成26年５月21日から施行する。

イ　文芸祭

小説大会、戯曲大会、文芸評論大会、随筆大会、児童文学大会、詩の大会、短歌大会、俳句大会、川柳大会

9　参加作品

⑴　美術、映像及び文芸の作品並びに声楽及びピアノの演奏発表は、本県関係者の中から公募する。公募要項は、各部門の種目ごとに定める。

⑵　公募以外の部門の発表、展示等については、各部門が企画し、実行委員会の決定を経て実施する。

⑶　参加作品は、実施種目ごとに一般公開する。公募作品については、実施種目ごとに公開する範囲を定めるものとする。

⑷　小中学校美術展の作品の公募は、岩手県小中学校美術展協会が県内の小・中学校を通じて行うものとする。

10　表彰等

⑴　特に優れた美術、小・中学校美術、映像及び文芸の作品並びに演奏発表に対しては、審査のうえ、芸術祭賞（文芸祭賞）、優秀賞及び奨励賞を贈る。また、実施種目ごとに部門賞及び入選等を設けることができる。

⑵　展示、発表作品の審査を行うため、公募部門ごとに審査会又は選者をおく。

審査員及び選者は、第67回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する。

11　開催経費

経費は、主催する機関、団体の負担金及びその他の収入をもって充てる。

12　協賛参加

芸術祭に自主的に参加を希望する公演、展示等は、実行委員会会長の協賛参加承認を得て行うものとする。

13　国民文化祭への協賛参加

会期を考慮し、第29回国民文化祭（秋田大会）へ協賛参加するものとする。

第67回岩手芸術祭実行委員会会則

（名称）

第１条　この会は、第67回岩手芸術祭実行委員会という。

（目的）

第２条　この会は、岩手芸術祭を円滑かつ総合的、効果的に運営することを目的とする。

（実行委員）

第３条　この会は、次に掲げる実行委員22人以内をもって組織する。

⑴　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長の職にある者

⑵　公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長の職にある者

⑶　一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長及び副会長の職にある者

⑷　一般社団法人岩手県芸術文化協会会長の推薦に基づき岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した者

⑸　岩手県小・中学校美術展協会の事務局長の職にある者

（役員）

第４条　この会に次の役員を置く。

⑴　会長　　１人

⑵　副会長　　２人

⑶　監事　　２人

２　会長は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長又は会長の職務代理の職にある者をもって充てる。

３　副会長及び監事は、実行委員の中から会長が委嘱する。

４　役員は、相互にこれを兼ねることができない。

（役員の任務）

第５条　会長は、この会を代表し、会務を総括する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ定める順序により職務を代理する。

３　監事は、この会の財務を監査する。

（実行委員の任期）

第６条　実行委員の任期は、委嘱を受けた日から１年間とする。

（実行委員会議）

第７条　この会の会議は、実行委員をもって構成し、岩手芸術祭の開催に係る次に掲げる事項について議決する。

⑴　総合的な企画及び運営に関すること。

⑵　事業計画及び予算に関すること。

⑶　事業報告及び決算に関すること。

⑷　その他この会の運営に関する重要な事項

２　会議は、会長が召集する。

３　会議の議長は、会長がこれにあたる。

４　会議は、実行委員会の過半数の出席をもって開会し、出席者の過半数をもって決する。

第67回岩手芸術祭開催要綱

1　趣　旨

県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。

2　名　　称　　第67回岩手芸術祭

3　主　　催　　岩手県教育委員会　岩手県文化振興事業団　岩手県芸術文化協会　岩手日報社　ＩＢＣ岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ　岩手朝日テレビ　エフエム岩手

4　後　　援　　盛岡市　　ＮＨＫ盛岡放送局

5　運　　営　　第67回岩手芸術祭実行委員会

6　期　　間　　平成26年10月４日～平成27年２月

7　会　　場　　岩手県民会館ほか

8　開催行事

⑴　開幕式典

⑵　美術展（巡回美術展）
日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画

⑶　小・中学校美術展（巡回小・中学校美術展）
小学校絵画、小学校書写、中学校美術、中学校書写

⑷　演　劇

⑸　映　像

⑹　伝統芸能
能楽、邦楽、茶道、華道、吟剣詩舞道

⑺　音　楽
合唱、声楽、弦楽、三曲、吹奏楽、ピアノ、ギター

⑻　舞　踊
洋舞、日舞

⑼　演　芸
民謡、新舞踊

⑽　移動公演

⑾　文　芸

ア　県民文芸作品集
小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳

〈編集後記〉

◆芸術の秋を彩る祭典として県内最大のイベントである「岩手芸術祭」は、十月四日、岩手県民会館大ホールで開幕しました。その後、美術、舞台等、文芸各部門の発表が順次行われ、多くの皆様に御鑑賞いただきました。

◆岩手芸術祭の部門運営は、県芸術文化協会の加盟団体が中心に行っておりますが、今年度は映像部門の運営団体が協会を退会したことにより、一時部門の存続が危ぶまれました。幸いにも県演劇協会が運営を肩代わりすることとなり、例年通り映像作品の公募と審査が行われ、「映像フェスティバル」を開催することができました。演劇協会のネットワークを使った広報の工夫もあり、目先が変わった新しい作品が出品されるなど、今後の応募者の広がりを予感させるものとなりました。それにしても映像部門を運営する新組織の立ち上げが急がれます。

◆県では、文化芸術の新たな魅力を高め、本県の情報発信力を強化する目的で、今年初めて「岩手芸術祭」とは別に「いわて若者文化祭」を開催しました。「文化芸術の持つ創造性」と「若者の活力」を融合させる取り組みとして、ステージ発表、展示ブース発表、トークショーなどのステージイベントを実施し、十一月中旬の二日間で約三千人を動員する大きなイベントになりました。ここでの「若者」の定義は高校生から40才未満の男女です。パフォーマンスが中心でしたが、映画、伝統芸能、伝統工芸そして食文化など、多彩な内容の試みが新しく、岩手芸術祭に好影響となれば、と期待が膨らみます。

◆従来より冊子で刊行しておりました本記録集ですが、本年度よりデジタルブックとして、インターネットを通してどなたでも閲覧いただけるようになりました。内容は今まで通り、第六十七回岩手芸術祭の実施報告書として各種目のプログラム、公募要項、入賞者名簿、講評・選評等をまとめています。関係機関、関係団体など多くの方々にご覧いただき、今後の県民の芸術文化活動に係る参考資料として御活用ください。

◆第六十七回岩手芸術祭も記録集の完成をもって一切の事業が終了します。関係各位の御協力に、改めて感謝申し上げます。

「第67回岩手芸術祭」

発　行　日＝平成二十七年四月三十日
編集・発行＝第六十七回岩手芸術祭実行委員会
（〒〇二〇－〇〇二三）
盛岡市内丸十三－一
第六十七回岩手芸術祭実行委員会
（㈶岩手県文化振興事業団総務部内）
電話（〇一九）六五四－二二三五
印刷・製本＝川口印刷工業株式会社
盛岡市羽場一〇－一－二
電話（〇一九）六三二－二二一一

第67回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧

		美術展応募点数											県民文芸作品集応募点数									
	部門 / 市町村名	日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書道	写真	デザイン	現代美術	水墨画	計	小説	戯曲・シナリオ	文芸評論	随筆	児童文学	詩	短歌	俳句	川柳	計
盛岡	盛岡市	23	51	21	3	10	109	71	73	20	60	441	4	3	3	16	3	25	28	54	18	154
	八幡平市		1					1	1		1	4							2	4		6
	岩手町		1				1	1				3	4				1	3	5		1	14
	雫石町		5				1				2	8								1	1	2
	葛巻町		2					9				11							1	1	1	3
	滝沢市	3	15	3		1	9	5	1	1	10	48								1		1
	紫波町	1	7	1	2	7	8				3	29	1			1		1	2	4	1	10
	矢巾町	4	6	3	2	1	5	1	1	4		27										
	小計	31	88	28	7	19	133	88	76	25	76	571	9	3	3	17	4	29	38	65	22	190
中部	花巻市		11	2	1	8	9	12	3	3	7	56	1			6		7	5	18	11	48
	遠野市		4			5	2	2			2	15	1						1	1	1	4
	北上市		12	2	1	6	10	4			6	41	2			4		3	7	21		37
	西和賀町											0								2		2
	小計	0	27	4	2	19	21	18	3	3	15	112	4			10	0	10	13	42	12	91
県南	奥州市	3	12	2	3	5	5	6	1		6	43	1			9	1	4	6	33	5	59
	金ケ崎町		1					1				2	1			2						3
	一関市		17	1	1	2	7	1		1	22	52				3	1	4	4	7	4	23
	平泉町	2	1								1	4				1				2	1	4
	小計	5	31	3	4	7	12	8	1	1	29	101	2			15	2	8	10	42	10	89
沿岸南部	大船渡市			1			2	2			2	7	1			2	1	5	1	3	1	14
	陸前高田市						2				1	3							2	2	2	6
	住田町											0						1	1			2
	釜石市		7	2		2	7	6	5		2	31	2		1	1	1	3	3	1	2	14
	大槌町							2	1			3										
	小計	0	7	3	0	2	11	10	6	0	5	44	3		1	3	2	9	7	6	5	36

		美術展応募点数											県民文芸作品集応募点数									
	部門 / 市町村名	日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書道	写真	デザイン	現代美術	水墨画	計	小説	戯曲・シナリオ	文芸評論	随筆	児童文学	詩	短歌	俳句	川柳	計
宮古	宮古市		23				15	7		1	3	49	1		1	2	3	3	2	4	7	23
	山田町	10	2					1				13						1	1	1		3
	岩泉町		1			6						7							2	2	1	5
	田野畑村		1				1		1	2		5										
	小計	10	27	0	0	6	16	8	1	3	3	74	1		1	2	3	4	5	7	8	31
県北	久慈市		3				2	6		1	2	14	1			2			2	5		10
	洋野町						2					2							1	1	3	5
	野田村											0				1		3	1			5
	普代村											0								1	1	2
	二戸市		20				6	4				30							1		2	3
	一戸町		2				1			1		4								1		1
	軽米町		1			1						2										
	九戸村		1							1		2										
	小計	0	27	0	0	1	11	10	0	3	2	54	1			3		3	5	8	6	26
県外			4	1	2	4	2				3	16				3		7	2	1	2	15
合計		46	211	39	15	58	206	142	87	35	133	972	20	3	5	53	11	70	80	171	65	478

第67回岩手芸術祭開催状況一覧

事業名			期日	会場	入場料金	入場者数
開幕式典・開幕フェスティバル			10月４日(土)	岩手県民会館／大ホール	無料	800人
美術展	1期	工芸 書道	10月４日(土)～７日(火)	岩手県民会館／展示室	300円 高校生以下無料	4,326人
	2期	日本画 版画 水墨画	10月10日(金)～13日(月・祝)			
	3期	写真 デザイン 現代美術	10月16日(木)～19日(日)			
	4期	洋画 彫刻	10月31日(金)～11月3日（月・祝）			
巡回美術展		美術展及び映像コンクール入賞作品（84点）	11月18日(火)～20日(木)	一戸町コミュニティセンター	無料	2,153人
			11月22日(土)～24日(月・振)	岩泉町民会館		
			11月27日(木)～30日(日)	Zホール（奥州市）		
			12月２日(火)～４日(木)	山田町中央公民館／小ホール・視聴覚室		
			12月６日(土)～７日(日)	アンバーホール（久慈市）		
			12月９日(火)～11日(木)	宮古市立図書館／２階図書展示室		
			12月13日(土)～14日(日)	一関文化センター／展示室・小ホール		
小・中学校美術展		小・中学校書写、絵画	12月12日(金)～12月14日(日)	岩手県民会館／展示室	無料	2,240人
巡回小・中学校美術展		小・中学校美術展入賞作品（319点）	12月20日(土)～H27年２月１日(日)	アンバーホール（久慈市）など５会場	無料	1,325人
演劇		「現代時報」公演	11月１日(土)～３日(月・祝)	盛岡劇場／タウンホール	1,200円（1,000円） 高校生以下：800円	279人
		「劇団我夢」公演	11月２日(日)	Zホール／中ホール（奥州市）	無料	392人
		「北芸の会」公演	11月16日(日)	さくらホール（北上市）	1,000円 高校生：500円	160人
		「劇研麦の会」公演	11月24日(月・振)	そけい幼稚園（宮古市）	無料	80人
		「the 雲人」公演	12月21日(日)	二戸市民文化会館／大ホール	500円 中学生以下無料	210人
映像		映像フェスティバル	10月26日(日)	もりおか町家物語館	無料	60人

事業名		期日	会場	入場料金	入場者数
伝統芸能	茶会	10月５日(日)	盛岡市中央公民館	2,300円（2,000円）	798人
	吟詠剣詩舞道祭	10月19日(日)	岩手県民会館／大ホール	無料	912人
	謡と仕舞の会	11月３日(月・祝)	岩手県民会館／中ホール	無料	420人
	華道展	11月７日(金)～10日(月)	岩手県民会館／展示室	300円	1,827人
	邦楽のつどい	11月９日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	334人
音楽	ソロと室内楽の調べ	10月５日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	220人
	ピアノコンクール＆演奏会	10月18日(土)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	300人
	三曲演奏会	10月12日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円	485人
	声楽演奏会	11月８日(土)	岩手県民会館／中ホール	900円 高校生以下無料	384人
	ギター音楽の夕べ	11月22日(土)	岩手県民会館／中ホール	700円（500円）	200人
	吹奏楽演奏会	11月24日(月・振)	盛岡市民文化ホール／大ホール	1,000円（700円） 中学生以下：300円	1,068人
	合唱祭	12月７日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円（800円） 高校生以下700円(500円)	736人
舞踊	洋舞発表会	11月２日(日)	岩手県民会館／大ホール	3,000円（2,500円）	460人
	日本舞踊発表会	11月16日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,500円	900人
演芸	新舞踊発表会	10月26日(日)	リアスホール（大船渡市）	1,800円（1,500円）	1,020人
	岩手民謡まつり	11月９日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,000円（1,500円） 高校生以下無料	636人
文芸祭	小説大会	10月26日(日)	岩手県公会堂（盛岡市）	無料	11人
	戯曲大会	11月23日(日)	盛岡劇場タウンホール	500円	16人
	文芸評論大会	10月12日(日)	岩手大学図書館内生涯学習多目的学習室	無料 懇親会1,000円	16人
	随筆大会	10月25日(土)	岩手県公会堂（盛岡市）	無料	22人
	児童文学大会	11月９日(日)	宮古市立図書館	無料	58人
	詩の大会	10月19日(日)	なはんプラザ（花巻市）	1,000円	21人
	短歌大会	10月11日(土)	盛岡市勤労福祉会館	1,000円	112人
	俳句大会	10月11日(土)	岩手県公会堂	2,000円	80人
	川柳大会	10月12日(日)	アイーナ501号室（盛岡市）	2,000円 懇親会3,000円	63人
県民文芸作品集第45集刊行		小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳		12月13日刊行	478人
移動公演	新舞踊公演	11月30日(日)	サンホテル衣川荘（奥州市）	無料	150人
	合唱公演	12月20日(土)	一戸町コミュニティセンター	無料	230人

※ 料金の（　　）内は、前売り料金

第67回 67th IWATE ART FESTIVAL

岩手芸術祭

2014